福岡県柳川市方言の
文法概説

2019 年（平成 31 年）入学
言語・文学専攻　言語学・応用言語学専修
松岡 葵
2021 年（令和３年）１月提出

要旨

本研究の目的は，福岡県柳川市方言（以下，柳川方言）の文法を概説的に記述することである。1 章では，柳川方言の導入を行う。2 章では，音韻論を記述する。3 章では，形態的な単位や文法関係，語類などの単位を定義する。4 章から 6 章では，それぞれ名詞類，動詞，形容詞類の基本構造を記述する。7 章では，品詞の転換を記述する。8 章では，連体詞，副詞，間投詞を記述する。9 章では，指示語と疑問語を記述する。10 章では，名詞句を定義し，記述する。11 章では，述語の構造を記述する。12 章では，助詞類を記述する。13 章では，単文の構文論を記述する。

目次

1 対象とする方言の概要 1
1.1 地理 1
1.2 話者数 1
1.3 主要な先行研究 1
1.4 研究データ 2
1.5 例文提示法 2

2 音韻論 2
2.1 音節構造・音素配列 3
2.2 音素 4
2.2.1 母音 5
2.2.2 母音連続 5
2.2.3 子音 6
2.3 主要な音韻規則 10
2.3.1 母音延長規則 10
2.3.2 連濁 11
2.3.3 t の破擦音化 11
2.3.4 母音融合規則 11
2.3.5 i 削除規則 11
2.3.6 r と狭母音からなる音節の鼻音化 11
2.3.7 cu の鼻音化 12
2.3.8 特定の形態素における音韻規則 12
2.4 アクセント 13
2.5 イントネーション 16
2.5.1 文タイプとイントネーション 16
2.5.2 焦点標示 18

3 記述の諸単位 19
3.1 語・接語・接辞 19
3.1.1 形態的自立性 19
3.1.2 音韻的自立性 20
3.2 語根・語基・語幹 25
3.3 文法関係 25
3.3.1 主語 25
3.3.2 直接目的語 26
3.4 語類 27
3.4.1 名詞類 27
3.4.2 連体詞 27
3.4.3 動詞 28
3.4.4 屈折形容詞 28

3.4.5 非屈折形容詞 28
3.4.6 助詞 29
3.4.7 接続詞 30
3.4.8 間投詞 30
3.4.9 副詞 30
3.5 形態法の類型 31
3.5.1 複合 31
3.5.2 重複 33

4 名詞類 34
4.1 代名詞 34
4.1.1 人称代名詞 34
4.1.2 再帰代名詞 37
4.2 名詞 37
4.3 数詞 37

5 動詞の構造 38
5.1 基本構造 38
5.2 動詞の語幹クラス 39
5.2.1 子音語幹動詞 39
5.2.2 母音語幹動詞 40
5.2.3 変格活用語幹動詞 40
5.2.4 母音語幹の r 語幹化 41
5.3 屈折接辞 41
5.3.1 直説法 42
5.3.2 義務法 45
5.3.3 推量法 46
5.3.4 意志法 47
5.3.5 命令法 47
5.3.6 副動詞 48
5.4 語幹の内部構造 50
5.4.1 使役接辞-*sase/sasu* 51
5.4.2 受動接辞-*rare/raru* 51
5.4.3 可能接辞 52
5.4.4 アスペクト 52
5.4.5 尊敬接辞 54
5.5 存在動詞 55
5.6 コピュラ動詞 56
5.6.1 コピュラ動詞の活用 56
5.6.2 動詞に後続するコピュラ動詞 57

6 形容詞類の構造と体系 58
6.1 屈折形容詞の構造と体系 58

6.1.1 直説法 59
6.1.2 副詞節 59
6.1.3 屈折形容詞に後続するコピュラ 60
6.1.4 習慣相過去接辞 60
6.2 非屈折形容詞の構造と体系 61
6.2.1 直説法 61
6.2.2 名詞修飾と動詞・形容詞修飾 62
6.3 屈折形容詞としても非屈折形容詞としてもふるまう語根 62

7 品詞の転換 63
7.1 屈折形容詞の動詞化 63
7.2 動詞の屈折形容詞化 64
7.3 屈折形容詞の名詞化 64
7.4 屈折形容詞の副詞化 64
7.5 動詞の名詞化（転成） 65

8 その他の語類 66
8.1 連体詞 66
8.2 副詞 66
8.3 間投詞 67

9 品詞をまたぐ機能類 68
9.1 指示語 68
9.1.1 指示代名詞 68
9.1.2 指示場所名詞 69
9.1.3 指示様態連体詞 69
9.1.4 指示連体詞 70
9.1.5 指示様態副詞 70
9.2 疑問語と不定語 71
9.2.1 疑問代名詞 72
9.2.2 疑問場所名詞 72
9.2.3 疑問様態連体詞 73
9.2.4 疑問連体詞 73
9.2.5 疑問時間名詞 73
9.2.6 疑問選択名詞 73
9.2.7 疑問様態副詞 74
9.2.8 疑問理由副詞 74

10 名詞句 75
10.1 名詞句の基本構造 75
10.2 名詞句の従属部 75
10.3 名詞句の主要部 76
10.3.1 形式名詞 76

10.4 格助詞 79
10.4.1 主格=*ga*, =*no*/=*n* 79
10.4.2 属格=*ga*, =*no*/=*n* 81
10.4.3 対格=*ba* 82
10.4.4 与格=*ni* 82
10.4.5 向格=san 83
10.4.6 奪格=kara 84
10.4.7 具格=*de* 84
10.4.8 共格=*to* 85
10.4.9 比較格=*yori* 85
10.4.10 限界格=*made* 85

11 述語の構造 86
11.1 動詞述語 86
11.1.1 複合動詞 86
11.1.2 補助動詞・補助形容詞構文 87
11.1.3 軽動詞構文 89
11.2 形容詞類述語 89
11.2.1 屈折形容詞述語 90
11.2.2 非屈折形容詞述語 91
11.3 名詞述語 91

12 助詞類 92
12.1 取り立て助詞 92
12.1.1 主題助詞=*wa* 93
12.1.2 累加助詞=*mo* 94
12.1.3 例示助詞=*den*/*demo* 94
12.1.4 例示助詞=*don* 94
12.1.5 並列助詞=*ten* 95
12.1.6 限定助詞=*dake* 95
12.1.7 程度助詞=*guree* 95
12.1.8 反復助詞 *bakkai* 95
12.1.9 優先助詞=*kara* 96
12.2 接続助詞 96
12.2.1 理由を示す接続助詞 96
12.2.2 条件を示す接続助詞 96
12.2.3 逆接を示す接続助詞 97
12.2.4 引用を示す接続助詞 97
12.3 終助詞 98
12.3.1 =*ta*,=*tai*,=*tan* 98
12.3.2 =*bai*,=*ban* 99
12.3.3 =*ka*,=*kai*,=*kan* 99
12.3.4 =*mo* 99

12.3.5 =*mon* 100
12.3.6 =*kusa* 100
12.3.7 =*nomo* 101
12.3.8 =*gena* 101
12.3.9 =*ne* 101
12.3.10 =*yo* 101
12.3.11 =*zyan*/=*yan* 102
12.3.12 =*zo* 102
12.3.13 =*ya* 102
12.3.14 =*mee* 102
12.3.15 =*ga* 103
12.3.16 =*dai*,=*dan* 103
12.3.17 =*i* 104
12.3.18 意味的・形式的に類似する終助詞の形態論的分析 104

13 単文の構文論 104
13.1 語順 104
13.1.1 一項文 104
13.1.2 二項文 105
13.1.3 三項文 105
13.2 格体系 105
13.2.1 一項文 105
13.2.2 二項文 106
13.2.3 三項文 107
13.3 文タイプ 107
13.3.1 動詞文の文タイプ 107
13.3.2 形容詞文の文タイプ 108
13.3.3 名詞文の文タイプ 109
13.4 肯定と否定 109
13.4.1 動詞文 109
13.4.2 形容詞文 110
13.4.3 名詞文 111
13.5 TAM 体系 111
13.5.1 テンス（時制） 111
13.5.2 アスペクト 113
13.5.3 ムード 115
13.6 ヴォイス 117
13.6.1 使役 117
13.6.2 受動 118
13.7 尊敬 118
13.8 可能 119

自然談話 1 120

自然談話 2 127

簡易語彙集 132

略号一覧 141

1　対象とする方言の概要

福岡県柳川市方言（以下，柳川方言）は，福岡県柳川市で話されている方言である。

1.1　地理

柳川方言が話されている柳川市は，福岡県南部に位置する筑後地方の一都市である (図 1)。柳川市は筑後平野に位置し，西南部には有明海が広がっている。

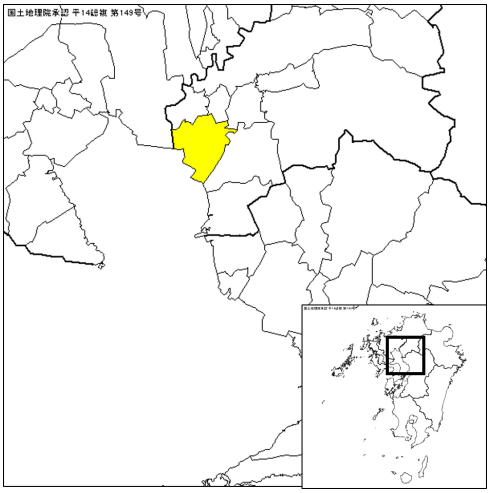

図 1. 福岡県柳川市（黄色塗りつぶし）

九州方言は，主に共時的な語彙・音韻・形態統語的特徴によって，東部で話される豊日方言，北西部で話される肥筑方言，南部で話される薩隅方言に大別される（上村　1983: 7-8）。柳川方言は，このうちの肥筑方言に属する（岡野　1983）。

柳川方言は，主節・連体節を問わず主格標示に=*ga* と=*no* の二系列がある点（すなわち，方言学的な用語におけるガノ交替を有する点）や，終助詞=*bai*，=*tai* を使用するという点，屈折形容詞がカ語尾と呼ばれるカリ活用由来の接辞-*ka* をとる点で他の肥筑方言と類似点をもつ。一方で，尊敬接辞-*mes* や間投詞 *nomo* を使用する点で，近隣方言からは区別される（岡野　1983: 65）。

1.2　話者数

2020 年 7 月末時点で柳川市の人口は約 65,000 人であり，そのうち，比較的流暢に伝統方言を話せる可能性が高い 70 代以上の人口は，約 15,000 人である[1]。

1.3　主要な先行研究

柳川方言の網羅的な記述は，存在しない。柳川方言を部分的に記述している先行研究には，藤原（1952）, 高野・田中（1972）, 松永・上野（1973）, 鬼丸他（1975）, 坂田（2004）がある。藤原（1952）は，尊敬接辞-*mes* と間投詞 *nomo* の記述を行っている。高野・田中（1972）, 松永・上野（1973）, 鬼

[1] 柳川市公式ウェブページ（https://www.city.yanagawa.fukuoka.jp/shisei/tokei/tokeijoho01.html）。最終アクセス 2020 年 8 月 8 日

丸他 （1975）は，柳川方言と近隣方言との語彙差を，言語地図に示している。坂田 （2004）は，形容詞に名詞化接辞-*sa* がついた形の用法をサ詠嘆法と呼び，柳川方言をはじめとした肥筑方言圏における用法を記述している。上記の先行研究の他に，柳川方言の話者が編んだ辞書である松石 （1985, 1989）がある。

1.4　研究データ

本論文は，2019 年から 2020 年にかけて筆者が行った調査票調査によるデータと，筆者が収集した自然談話を考察対象としている。調査票調査で収集した例には，若年層の柳川方言話者[2]である筆者が作例し，話者が容認したものも含まれる。調査に協力してくださった話者の詳細を，以下に示す。

表 1. 話者情報

話者	YM 氏	HK 氏
調査時年代	80 代後半	80 代後半
性別	男性	女性
外住歴	5 年（20 代前半，東京）	なし

なお，参考のために，一部の箇所で若年層の柳川方言話者である筆者の内省を脚注で示している。

1.5　例文提示法

本論文は，標準 4 段方式（下地　2020）で例文提示を行う。以下に，具体的な例文を示す。

(1)　*origa*　*yukitoni*　*haneta.*
　　ori-ϕ=ga　yukito=ni　hanas-ta
　　1-SG=NOM　ユキト=DAT　話す-PST

　　「私がユキトに話した。」

標準 4 段方式においては，1 段目に表層の音素表記を示し，2 段目で形態素分析を行い，3 段目にグロスを付与し，4 段目に標準語訳を示す。1 段目では，拡張語（下地　2018: 9），すなわち語（§ 3.1）と接語（§ 3.1）から成る要素ごとに分かち書きを行う。グロスに関しては，マックスプランク進化人類学研究所の提案する Leipzig Glossing Rules[3]（LGR）におおむね準拠し，LGR に含まれないグロスに関しては，「下地理則の研究室・方言グロスリスト[4]」を参照している。これらに含まれないグロスに関しては，筆者が新たにグロスを考案している。例文中で意味や機能が不明である形態素に関しては，?をつけて不明であることを示す。句全体でまとまった意味を示す場合には，その部分を< >で囲い示す。例文に固有名詞が含まれる場合は，一部〇〇に置き換えて表記している。

2　音韻論

本章では，音節構造，音素，形態音韻規則，アクセント，イントネーションについて記述する。音声表記は [ ] で，表層の音韻表記は/ /で，基底の音韻表記は// //でくくって示す。

[2] 1997 年生まれ，女性。0〜18 歳まで柳川市在住。
[3] https://www.eva.mpg.de/lingua/pdf/Glossing-Rules.pdf
[4] https://www.mshimoji.com/blank-12

2.1　音節構造・音素配列

本節では，各音素の記述に先立って，音素の異音を記述する際に必要となる音節構造と音素配列を記述する。各音素の音声的実現や異音に関しては，§ 2.2 で記述する。

語の音節構造は，準音節，語頭音節，非語頭音節から成る。

(2)　（準音節 +）語頭音節 +（非語頭音節）

準音節（pre-syllable）は，語頭音節の前に現れる特殊な音節である。準音節には n のみがたち，この場合は語頭音節のオンセットに鼻音が立つという強い共起制限がある[5]。

(3)　/n.ma/ [mma]「馬」

(4)　/n.nya/ [nn^{j}a]「いいや」

音節構造とモーラの対応を，(5) に示す。

(5)
R.	（C_1	（G））	V_1	（V_2）	（C_2）
μ			μ	μ	μ

各音節の音素配列を，表 2 に示す。表 2 中の R は，準音節を示す。

表 2. 音素配列

R	n のみがたつ
C_1	全ての子音音素がたつ
	（ただし，R がある場合は，鼻音のみがたつ）
G	y がたつ
	（ただし，C_1 が t，y, w の場合は，G には何もたたない）
V_1	全ての母音音素がたつ
V_2	以下に詳述
C_2	語末では n のみ，それ以外では p, b, t, d, k, g, s, z, c もたつ

V_1V_2 に関して，V_1V_2 は同じ母音がたつ（§ 2.2.2.1）か，/ae/，/ai/，/au/，/oe/，/oi/，/ue/，/ui/ という二重母音が生じる（§ 2.2.2.2）。

(5) に示した音節構造の具体例を，以下に示す。$V_1V_2C_2$ の組み合わせも生じる可能性があるが，未検証である。

[5] 同様の例は，柳川方言を含む福岡県筑後地方方言（九州方言研究会　1969: 203）や長崎県宇久島方言（中村　2019, 門屋 2020: 20），鹿児島県甑島里方言（松丸　2019: 6-7），鹿児島県大隅半島内之浦方言（高城　2020: 2）など九州方言に広く存在する。

(6) a. V_1 /e.no/「絵が」

b. V_1V_2/ee.ra.si.ka/「愛らしい」

c. V_1C_2/ak.ka/「赤い」

d. C_1V_1/meno/「目が」

e. $C_1V_1V_2$/mee.ge/「眉毛」

f. $C_1V_1V_2C_2$/heet.te/「入って」

g. $C_1V_1C_2$/men.ta.ma/「眼球」

h. C_1GV_1/sya.mi.sen/「三味線」

i. $C_1GV_1V_2$/cyoo.ma.ki/「つむじ」

j. $C_1GV_1V_2C_2$/myooc.ci/「見ているって」

k. $C_1GV_1C_2$/de.ken.zyat.ta/「よくなかった」

なお，九州方言には，一般に合拗音と呼ばれる現象が生じる方言，すなわち/kwa/や/gwa/という音素連続が生じる方言が多い（九州方言研究会 1969: 30，中村 2019: 20，下地 2016a: 11）。岡野（1983）は，柳川方言を含む筑後方言において，[kwasi]（岡野 1983: 68）のような合拗音が存在するが，合拗音と直音との混乱が生じていると記述している。本研究が対象とする話者の発話には，/kwa/，/gwa/のような合拗音は観察されない。

2.2 音素

柳川方言の母音音素を表 3 に，子音音素を表 4 に示す。

表 3. 母音音素

	前舌	後舌
狭	i	u
半狭	e	o
広		a

表 4. 子音音素

	両唇	歯茎	硬口蓋	軟口蓋	声門
閉鎖音	p, b	t, d		k, g	
摩擦音		s, z			h
破擦音		c			
鼻音	m	n			
はじき音		r			
接近音	w		y		

2.2.1　母音

/i/は，[i] として実現する。先行する子音音素を口蓋化させる。

(7)　a.　/isi/ [iɕi]「石」

　　b.　/kaki/ [kakʲi]「柿」

/u/は，[u̥] として実現する。

(8)　a.　/umi/ [u̥mʲi]「海」

　　b.　/kaku/ [kaku̥]「書く」

/e/は，[e] として実現する。

(9)　a.　/eki/ [ekʲi]「駅」

　　b.　/yane/ [jane]「屋根」

/o/は，[o] として実現する。

(10)　a.　/ori/ [oɾi]「私」

　　b.　/aoka/ [aoka]「青い」

/a/は，[a] として実現する。

(11)　a.　/agotan/ [agotaɴ]「顎」

　　b.　/atama/ [atama]「頭」

2.2.2　母音連続

2.2.2.1　長母音

柳川方言においては，(12) に示すように，全ての母音の長母音が観察される。このうち，少なくとも u，o，a には母音の長短の区別があることを，ミニマルペアにより確認している。

(12)　a.　/iiyoru/[iːjoɾu̥]「言っている」

　　b.　/uuka/[u̥ːka]「多い」
　　cf./uka/[u̥ka]「羽化」

　　c.　/eerasika/[eːraɕika]「愛らしい」

　　d.　/hoogen/[hoːgeɴ]「方言」
　　cf./hogen/[hogeɴ]「（穴が）開かない」

　　e.　/obaasan/[obaːsaɴ]「おばあさん」
　　cf./obasan/[obasaɴ]「おばさん」

少なくとも現時点までのデータでは，長母音内では，ピッチの上昇は見られない。この点を鑑み，長母音は同一音節内にあると解釈する（音節構造については§ 2.1)。ただし，長母音内でピッチが上昇するような発話パタンを話者が許容するのかを確認する必要がある。

長母音は，全て短母音の連続と解釈し，長母音音素や特殊拍音素は設定しない。これは，以下に示すような母音融合を説明するためである。

(13) a. //kak-ta//→ kai-ta →/keeta/「書いた」

b. //kak-a-u//→/kakoo/「書くだろう」

上記の音変化は，ai や au という母音連続が相互同化によってそれぞれ ee や oo という長母音になったと解釈することができる。

2.2.2.2 二重母音

二重母音を，表 5 に示す。以下の表に示しているのは，長母音（§ 2.2.2.1）と同様に，現時点までのデータで母音と母音との間でピッチの上昇が観察されないものであり，V_2 の広さは V_1 と同じか，それより狭い。ただし，長母音の節で前述したように，母音間でピッチが上昇するような発話パタンを話者が許容するか否かを確認する必要がある。

表 5. 二重母音

		V_1		
		a　　e	o	i　u
V_2	a			
	e	/aeta/「落ちた」	/koe/「声」	/ue/「上」
	o			
	i	/hai/「ハエ」	/oi/「甥」	/kusui/「薬」
	u	/cukau/「使う」		

上記の表に示した二重母音のほかに，/ka.o/「顔」や/i.e/「家」，/ke.a/「デイケア」といった母音連続も生じる。これらの母音連続では，母音と母音との間でピッチの上昇が観察される場合があるため，音節をまたいでいると解釈する。

2.2.3 子音

2.2.3.1 単子音

2.2.3.1.1 p

/p/は，[p] として実現する。/i/や/y/の前では [p^j] として実現する。

(14) a. /benpu/ [bempu̯] 「頬」

b. /piisu/ [p^jiisu̯] 「グリンピース」

2.2.3.1.2 b

/b/は，[b] として実現する。母音間では，[β] として実現することもある。

(15) a. /benpu/ [bempu̯] 「頬」

b. /abara/ [abara]〜[aβara] 「あばら」

2.2.3.1.3　t

/t/は，[t] として実現する。/t/に後続する母音は，/a/，/e/，/o/のみであり，/i/，/u/は後続しない。

(16)　/taburu/ [tabu̯ɾu̯] 「食べる」

2.2.3.1.4　d

/d/は，[d] として実現する。/d/に後続する母音は/a/，/e/，/o/のみであり，/i/，/u/が後続することはない。

(17)　a.　/syoodoku/ [ɕoːdoku̯] [ɕoːɾoku̯] 「消毒」

　　b.　/hidaruka/ [çidaɾu̯ka] 「ひもじい」

(17a) に示すように，一部の語彙においては，[d] と [ɾ] で揺れが生じる。どのような環境でこの揺れが生じるかは不明である。現時点では有声閉鎖音/d/が [ɾ] という異音をもつと分析するが，当該音素が他の有声閉鎖音と同じふるまいを見せるか否か，具体的には当該音素を含む語基を後部要素とした複合語において連濁（§ 2.3.2）が生じるか否かという観点で確認を行う必要がある。

2.2.3.1.5　k

/k/は，/i/と/y/の前では [kʲ] として，そのほかの環境では [k] として実現する。

(18)　a.　/kasu/ [kasu̯] 「貸す」

　　b.　/ittoki/ [ittokʲi] 「少しの間」

2.2.3.1.6　g

/g/は，/i/と/y/の前では [gʲ] として，そのほかの環境では [g] として実現する。母音間では，[ɣ] として実現する場合もある。

(19)　a.　/gamadasu/ [gamadasu̯] 「精を出す」

　　b.　/hagisi/ [hagʲiɕi] 「歯ぐき」

2.2.3.1.7　s

/s/は，/i/と/y/の前では [ɕ] として実現する。/e/の前では，[ɕ] として実現する場合と [s] として実現する場合があり，そのほかの環境では [s] として実現する。

(20)　a.　/saruku/ [saɾu̯ku̯] 「歩く」

　　b.　/siraburu/ [ɕiɾabu̯ɾu̯] 「調べる」

　　c.　/sensee/[ɕenɕeː]「先生」

2.2.3.1.8　z

/z/は，/i/と/y/の前では [ʑ] として，そのほかの環境では [z] として実現する。語頭では，破擦音として実現する。

(21)　a.　/zuno/ [dzu̥no]「頭が」

　　b.　/roozin/ [ɾoːʑiɴ]〜[ɾoːɾiɴ]「老人」

(21b) に示すように，一部の語では，/i/の前で [ɾ] と [ʑ] とで揺れが生じる。揺れが生じる語では [ʑ] として生じることが多いこと，丁寧な発話では [ʑ] として現れることから現時点では有声摩擦音/z/が異音として [ɾ] をもつと分析しているが，今後，§ 2.2.3.1.4 で述べたような連濁を用いたテストによって，有声阻害音と同様のふるまいを見せるかどうかを確認する必要がある。

2.2.3.1.9　h

/h/は，/i/と/y/の前では [ç] または [ɕ] として，/u/の前では [ɸ] として，そのほかの環境では [h] として実現する。

(22)　a.　/hito/ [çito]〜[ɕito]「人」

　　b.　/huke/ [ɸu̥ke]「ふけ」

　　c.　/hana/ [hana]「鼻」

2.2.3.1.10　c

/c/は，/a/，/u/の前では [ts] として，/i/，/y/の前では [tɕ] として実現する。/c/に後続する母音のうち，現時点で確認しているのは，/a/，/i/，/u/である。/e/，/o/も後続する可能性があるが，未検証である。なお，/ca/という組み合わせは，基本的には形態音韻規則の結果（§ 2.3.8.1）として生じる。現時点で確認される例のうち，基底形で存在すると分析する必要があるのは (23a) の例のみである。これは，現在の柳川方言に *anata* という 2 人称代名詞が存在しないためである（§ 4.1.1.2）。ただし，(23a) の例も，通時的に見るとかつての形態素境界に ca が生じている可能性が高い。

(23)　a.　/anaccan/ [anattsaɴ]「あなた」

　　b.　/cigau/ [tɕigau̥]「違う」

2.2.3.1.11　m

/m/は，/i/と/y/の前では [mʲ] として，それ以外の環境では [m] として実現する。

(24)　a.　/maddasi/ [maddaɕi]「丸出し」

　　b.　/miru/ [mʲiɾu̥]「見る」

2.2.3.1.12　n

/n/がオンセットにある場合，/n/は，/i/と/y/の前では [nʲ] として，その他の場合には [n] として実現する。/n/がコーダにある場合，後続するのが両唇音ならば [m] として，歯茎音ならば [n] として，軟口蓋音ならば [ŋ] として，母音ならば鼻母音として実現し，後続する音素がないならば [ɴ] として実現する（音節構造については§ 2.1 を参照)。

(25)　オンセットにある場合

a.　/nitoru/ [nʲitoɾu̥]「似ている」

b.　/nuru/ [nu̥ɾu̥]「寝る」

(26)　コーダにある場合

a.　/anmari/ [ammaɾi]「あまり」

b.　/anta/ [anta]「あなた」

c.　/senka/[seŋka]「そんな」

d.　/onon/[oõoõ]「おんおん（泣く際のオノマトペ)」

e.　/sin/ [ɕiɴ]「死ぬ」

なお，/n/は単独で準音節（§ 2.1）に立つことがある。

(27)　a.　/n.nya/ [nnnʲa]「いいや」

b.　/n.ma/[nma]「馬」

2.2.3.1.13　r

/r/は，/i/と/y/の前では [ɾʲ] として，それ以外の環境では [ɾ] として実現する。

(28)　a.　/ori/ [oɾʲi]「私」

b.　/miru/ [mʲiɾu̥]「見る」

2.2.3.1.14　w

/w/は，[w] として実現する。後続する母音は/a/のみである。

(29)　/tanukiwa/ [tanukʲiwa]「狸は」

2.2.3.1.15　y

/y/は，オンセットに立つときは [j] として実現し，グライドに立つときは前の子音を口蓋化する。後続する母音は/a/，/u/，/o/のみである。

(30) a. /yasasika/ [jasa̯cika]「優しい」

b. /yuu/ [ju̯ː]「よく」

c. /yoka/ [joka]「よい」

d. /yasasyuu/ [jasa̯cuː]「優しく」

2.2.3.2 重子音

現時点で確認している重子音は，/pp/，/bb/，/tt/，/dd/，/kk/，/gg/，/ss/，/zz/，/cc/，/nn/である。それぞれの例を，以下に示す。

(31) a. /ippe/[ippe]「いっぱい」

b. /subbai/（//su-ru=bai//）[su̯bbai]「する」

c. /batten/[battenɴ]「だけど」

d. /maddasi/[madda̯ci]「丸出し」

e. /bikko/[bikko]「おたまじゃくし」

f. /ciggo/[ta̯ciggo]「筑後」

g. /sutto/（//su-ru=to//）[su̯tto]「すると」

h. /kuzzoko/[kuddzoko]「舌平目」

i. /anaccan/[anattsanɴ]「あなた」

j. /inna/（//in=wa//）[inna]「犬は」

これらの重子音は，全て短子音の連続と解釈する。

2.3 主要な音韻規則

2.3.1 母音延長規則

ある形態素が基底で 1 モーラしかもたない場合，その形態素の母音が延長されることがある。これは，語は最低限 2 モーラはもたなければならないという最小語制約（word minimality constraint）によると考えられる。例えば *me*「目」に関して，これが単独で発話される場合は母音延長規則の適用は義務的だが，接語が接続している場合はこの規則は任意となる[6]。なお，母音延長規則が適用されず，1 モーラとして生じたもの（*me*）については，1 モーラしかもたないという点で音韻的に従属している接語（§ 3.1）であるとみなす。

(32) //me//→/mee/「目」
cf. //me=no//→/meeno/or/meno/「目が」

[6] 母音延長規則が生じるか否かは，後続する接語の種類に左右されている可能性がある。談話データでは，格助詞が後続する場合には母音延長規則が生じていない例が散見されるのに対し，コピュラ動詞や終助詞が後続する場合は必ず母音延長規則が生じている。

2.3.2　連濁

複合語（3.5.1 節）を形成する際，後部要素の第一音節オンセットが無声阻害音の場合，有声阻害音に変化するといういわゆる連濁が生じることがある。連濁が生じるのは，日本語標準語（Lyman 1894）や他の九州方言（鹿児島県甑島里方言：窪薗他 2015: 30-31）と同様，複合の後部要素に有声阻害音が含まれない場合に限られる。

(33)　//mugi+konnoo//→/mugigonnoo/「麦の収穫」

2.3.3　t の破擦音化

t に狭母音 i，u が後続する場合，t は破擦音化し，c（§ 2.2.3.1.10）になる。

(34)　a.　//tat-ru//→/tacu/「立つ」

　　b.　//tat-i-yor-ru//→/taciyoru/「立っている」

2.3.4　母音融合規則

形態素境界において母音が連続する場合，母音融合が生じる。以下に，それぞれの例を示す。

(35)　a.　au → oo（//aka-u//→ akoo「赤く」）

　　b.　ai → ee（//kak-ta//→ kai-ta →/keeta/「書いた」）

　　c.　ui → ii（//cuk-ta//→ cui-ta →/ciita/「就いた」）

　　d.　eu → yuu/uu（//tabe-u//→/tabyuu/or/tabuu/「食べよう」）

なお，屈折形容詞の副詞化接辞-*u* に関しては，上記の母音融合規則の適用後に，短母音化規則が適用される（§ 2.3.8.7）。

2.3.5　i 削除規則

ki や gi で終わる語に k で始まる接語（例：奪格助詞=*kara*，疑問助詞=*ka*）が後続する際に，i が脱落する場合がある。i 削除規則によって gk という音素連続が生じた場合は，(36b) に示すように，kk に変化する。

(36)　a.　//koziki=ka//→/kozikka/「古事記か」

　　b.　//cugi=kara//→ cugkara →/cukkara/「次から」

2.3.6　r と狭母音からなる音節の鼻音化

r と狭母音から成る音節に，n で始まる接辞や接語が後続する際，r と狭母音から成る音節が鼻音化する。例を，以下に示す。

(37)　a.　//hori=no//→/honno/「堀が」

　　b.　//or-i-nahar-ta//→/onnahatta/「いらっしゃった」
　　cf.　//kak-i-nahar-ta//→/kakinahatta/「お書きになった」

　　c.　//kucibiru=no//→/kucibinno/「唇が」

2.3.7　cu の鼻音化

cu で終わる語や接語に，n で始まる語が後続する場合，cu が鼻音化する。例を，以下に示す。

(38)　*ma*　*hiton*　*nanzyai*
　　ma　hito-cu　nan=zyai
　　もう　一-CLF　何=Q

　　「もうひとつ何か」

(39)　*syuugon*　*naka.*
　　se-u=gocu　na-ka
　　する-INT=FMN　ない-NPST

　　「したくない。」

2.3.8　特定の形態素における音韻規則

2.3.8.1　主題助詞=*wa* に関する音韻規則

主題助詞=*wa* が n 終わりの名詞に接続する場合，w が n になる。=*wa* が最終音節が cu の名詞に接続する場合，w が脱落する。=*wa* が i 終わりの名詞に接続する場合，w が脱落する場合がある。

(40)　a.　//in=wa//→/inna/ 「犬は」
　　b.　//nacu=wa//→/nacaa/ 「夏は」
　　c.　//ori=wa//→/oraa/「私は」

2.3.8.2　*e*「家」に関する音韻規則

家を表す名詞である接語 *e* が属格助詞=*ga* に後続するとき，融合する場合がある。

(41)　a.　//ori-ϕ=ga=e//→/orige/「私の家」
　　b.　//anta-ϕ=ga=e//→/antage/ 「あなたの家」

2.3.8.3　非過去接辞-*ru* の母音削除規則

動詞の非過去接辞-*ru* に閉鎖音や破擦音が後続するとき，母音 u が脱落する。母音の脱落によって異なる子音の連続（/rb/，/rk/）が生じた場合は，後ろの子音が前の子音を同化する。例を，以下に示す。

(42)　a.　//su-ru=bai//→/subbai/「するよ」
　　b.　//=yar-ru=ken//→/yakken/「〜だから」
　　c.　//sin-tor-ru=ci//→/sindocci/「死んでいるって」

2.3.8.4　n 語幹動詞と非過去肯定接辞-*ru* に関する音韻規則

n 語幹動詞の *sin*-「死ぬ」に非過去肯定接辞-*ru* が後続する場合，以下のような形態音韻規則が生じる。

(43)　//sin-ru//→ sin-u →/sin/

2.3.8.5　語幹末音節が ka，ku である屈折形容詞に関する音韻規則

形容詞語幹末の音節が ka や ku である場合，形容詞非過去接辞-*ka* が接続すると，語根末の母音 a や u が脱落する場合がある。

(44)　a.　//aka-ka//→/akka/「赤い」
　　cf.　//inaka=kara//→/inakakara/「田舎から」
　　b.　//niku-ka//→/nikka/「憎い」

2.3.8.6　形式名詞=*goto* と動詞=*ar* に関する融合規則

形式名詞=*goto*（§ 10.3.1.2）に動詞=*ar*-「ある」が後続するとき，音韻的に融合する場合がある。

(45)　*tabete*　　*kaerasitagotaru.*
　　tabe-te　　kaer-ras-i-ta=goto=ar-ru
　　食べる-SEQ　帰る-HON-IFX-PST=FMN=ある-NPST
　　「（ご飯を）食べて，帰ったようだ。」

2.3.8.7　屈折形容詞と副詞化接辞-*u* に由来する長母音の短母音化規則

屈折形容詞の語幹末母音と副詞化接辞-*u* が母音融合（§ 2.3.4）した結果生じた長母音は，短母音化される。以下に，母音融合規則と短母音化規則の適用例を示す。

(46)　a.　//aka-u//→ akoo →/ako/「赤く」
　　b.　//uresi-u//→ uresyuu →/uresyu/「うれしく」
　　c.　//huto-u//→ hutoo →/huto/「大きく」

2.4　アクセント

柳川方言は，平山 （1951: 240）や岡野 （1983: 64）などの先行研究によって，語彙的に指定されたアクセントがないと指摘されており，筆者が行った金田一語類の読み上げ式調査[7]においても，語彙的に識別された音調の型は確認できていない。以下に，2 拍名詞の例を示す。以下に示す 2 拍名詞の例は，

[7] ただし，1 拍，2 拍名詞のみ。単独発話と「○○がある／いる。」フレームに入れたものを考察対象としている。

単独で発話される際には平らに発話され，「〇〇がある/いる。」というフレームに入れた場合は，文全体が一つの音調句をなし，2 拍名詞の 2 拍目が高いピッチで発話される。

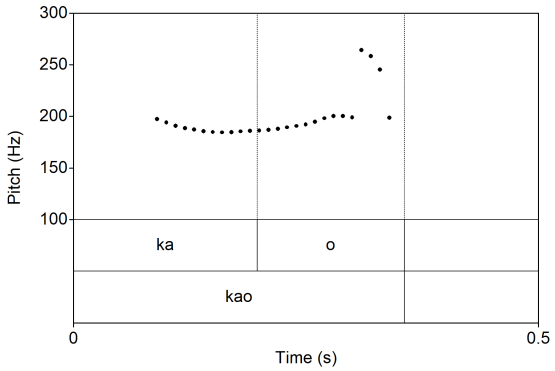

図 2. 1 類 *kao*「顔」

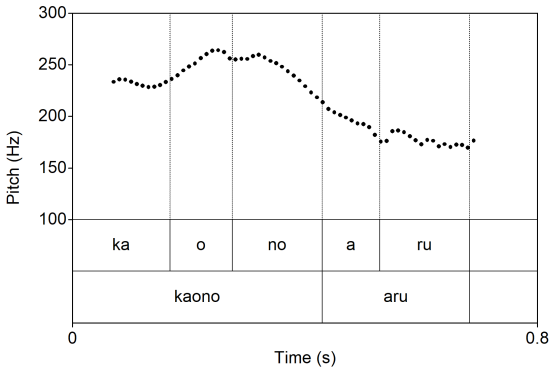

図 3. *kaono aru*「顔がある」

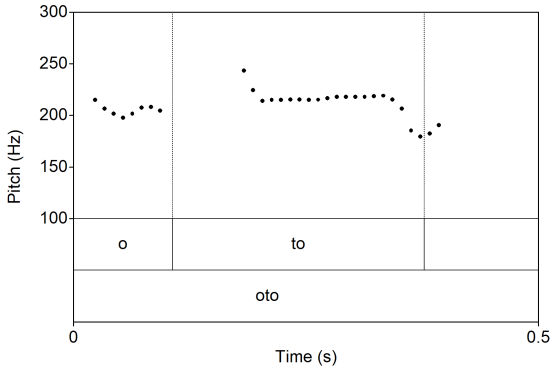

図 4. 2 類 *oto*「音」

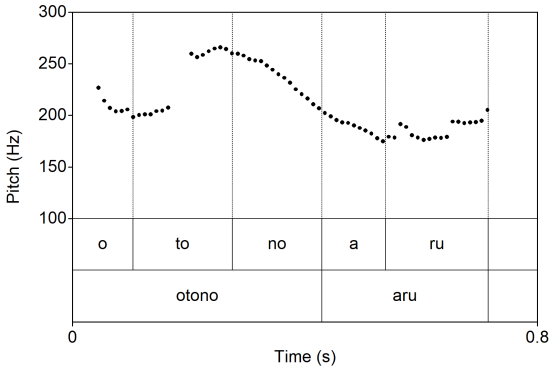

図 5. *otono aru*「音がある」

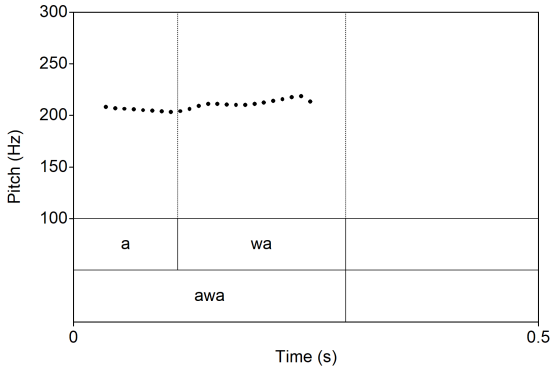

図 6. 3 類 *awa*「泡」

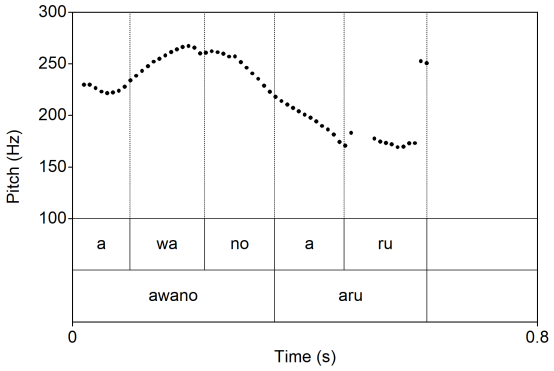

図 7. *awano aru*「泡がある」

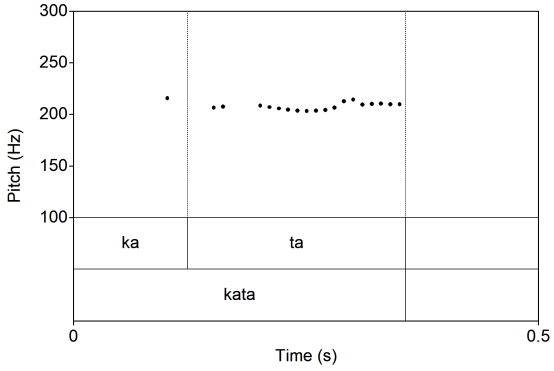

図 8. 4 類 *kata*「肩」

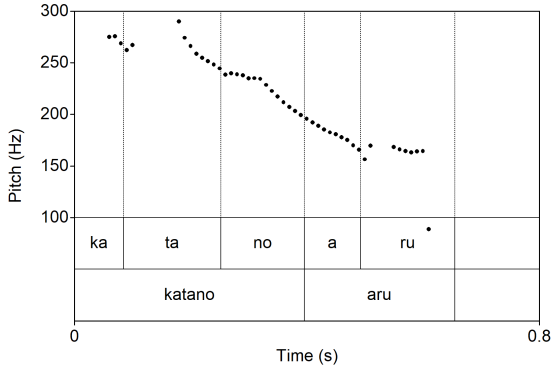

図 9. *katano aru*「肩がある」

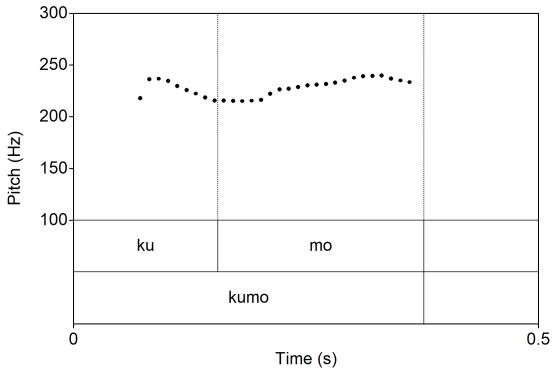

図 10. 5 類 *kumo*「蜘蛛」

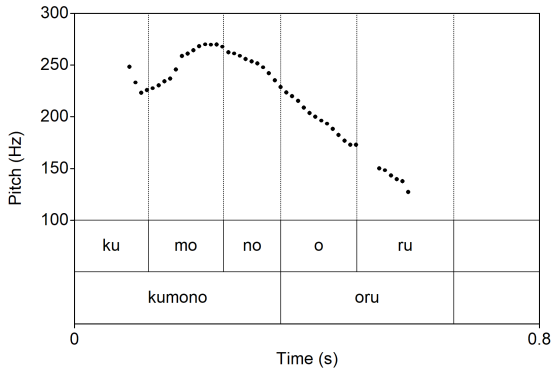

図 11. *kumono oru*「蜘蛛がいる」

ここまで，単独発話及び「〇〇がある／いる。」フレームに入れた環境で，語彙的に指定されたアクセントを観察できないことを見た。ただし，少なくとも一部の語に関しては，同じ統語環境にある際に異なるピッチパターンが現れることがあり，これは語彙的に指定されたアクセントを反映している可能性がある。図 12 と図 13 に，例を示す。

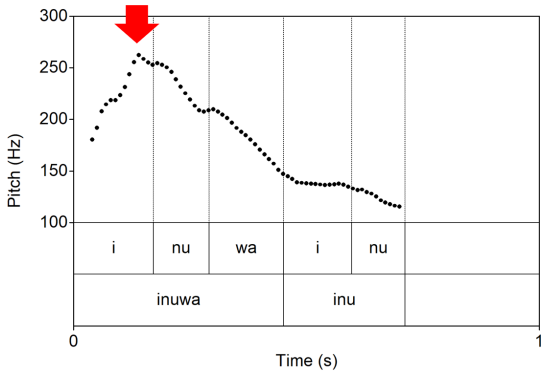

図 12. inuwa inu「犬は犬。」

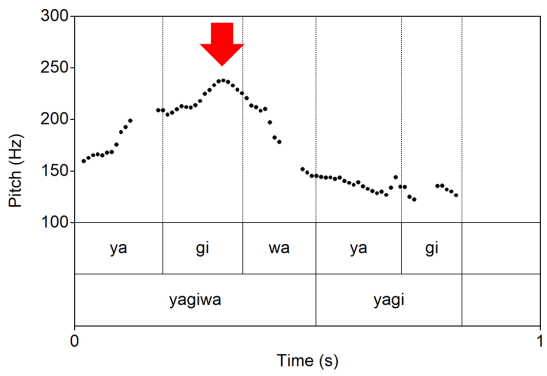

図 13. yagiwa yagi「山羊は山羊。」

図 12 では，*inuwa* 中の *inu* の 1 モーラ目である i に音調のピークがあるのに対して，図 13 では，*yagiwa* 中の *yagi* の 2 モーラ目に音調句のピークがある。図 12 と図 13 に示した発話は，いずれも「〇〇は〇〇。」という文に 2 モーラ名詞を入れて発話している。統語環境が同じであるため，上記の音調の違いは統語環境の違いを反映したものであるとは考えられない。上記の音調の違いは，語に固有のアクセントを反映したものである可能性がある。

上述したように，柳川方言において語彙的に指定されたアクセントがあるか否かは不明であり，この点を明らかにすることが，今後の課題の一つである。

2.5　イントネーション

本節では，文タイプとイントネーションの関連，イントネーションによる焦点標示の記述を行う。

2.5.1　文タイプとイントネーション

平叙文は，下降調のイントネーションをとる。平叙文の例とそのイントネーションを，以下に示す。

(47)　*komeo*　*motasete*　*yariyotta.*
kome=o　mot-sase-te　yar-i-yor-ta
米=ACC　もつ-CAUS-SEQ　あげる-THM-PROG-PST

「お米をもたせてあげていた。」

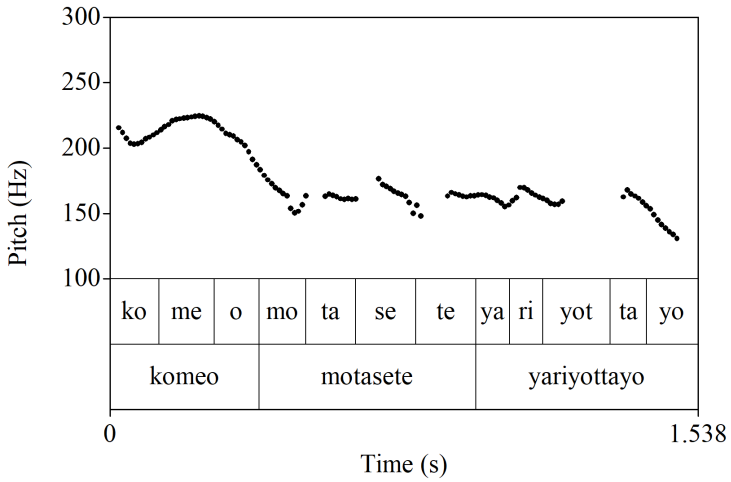

図 14. 平叙文 (47) のイントネーション

疑問文のうち，肯否疑問文は上昇調のイントネーションをとることを確認している。下降調のイントネーションをとりうるか否かは，不明である。肯否疑問文の例とそのイントネーションを，以下に示す。

(48)　*nasi*　*mottonnahattokanmo.*
nasi　mot-tor-i-nahar-ru=to=kan=mo
梨　もつ-PF-THM-HON-NPST=FMN=Q=POL

「梨をもっていらっしゃるの？」

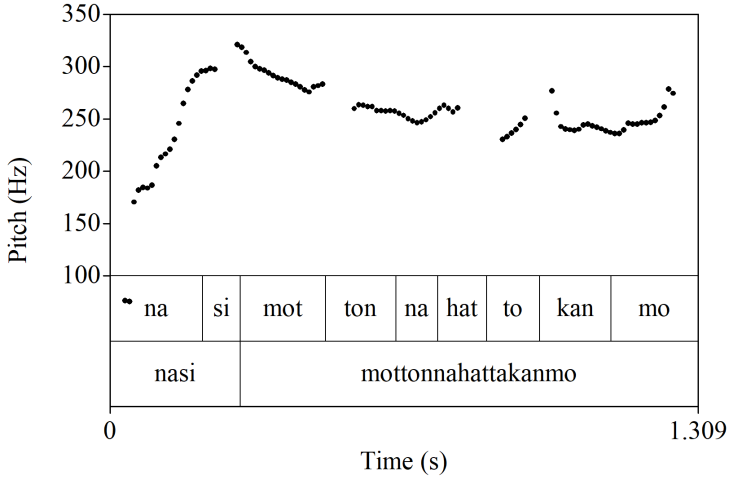

図 15. 肯否疑問文 (48) のイントネーション

疑問語疑問文は，通言語的によく見られるように（Cruttenden 1997: 159）下降調のイントネーションをとることを確認している。上昇調のイントネーションをとりうるか否か，また，疑問の終助詞をとらない場合にも下降調で現れるかは不明であり，今後確認する必要がある。

(49) *ucyaa* *dokokanmo.*
uci=wa doko=kan=mo
家=TOP どこ=Q=POL
「家はどこなの？」

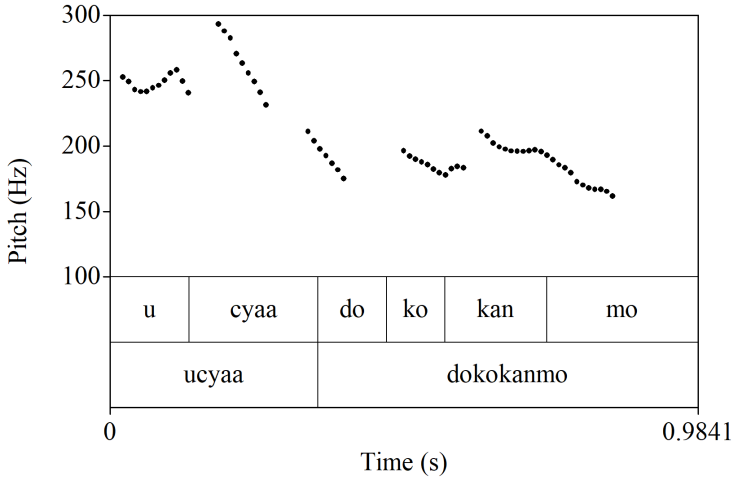

図 16. 疑問語疑問文 (49) のイントネーション

なお，福岡市及びその周辺の方言では，疑問語疑問文の疑問語（*dare*「誰」，*nani*「何」）から疑問助詞の間で平らなピッチが確認されるが（久保 1989），柳川方言においては同様の現象は確認できてい

ない。

命令文に関しては，現在収集している全てのデータが引用助詞=*ci* が接続したデータであるため，考察しない。

2.5.2 焦点標示

イントネーションと焦点標示との関連に関して，現時点で明らかになっていることは，焦点ドメインにおいてピッチの卓立が生じるということのみである[8]。例文 (50) は，主語であるマミが焦点ドメインとなっており，図 17 の赤矢印で示す焦点ドメイン内の部分にピッチの卓立が生じている。

(50) *mamiga* *miyoba* *kurasitattai.*
mami=ga miyo=ba kuras-i-ta=cu=tai
マミ=NOM ミヨ=ACC 殴る-IFX-PST=FMN=SFP

「(「誰がミヨを殴ったの？」に対して）マミがミヨを殴ったんだよ。」

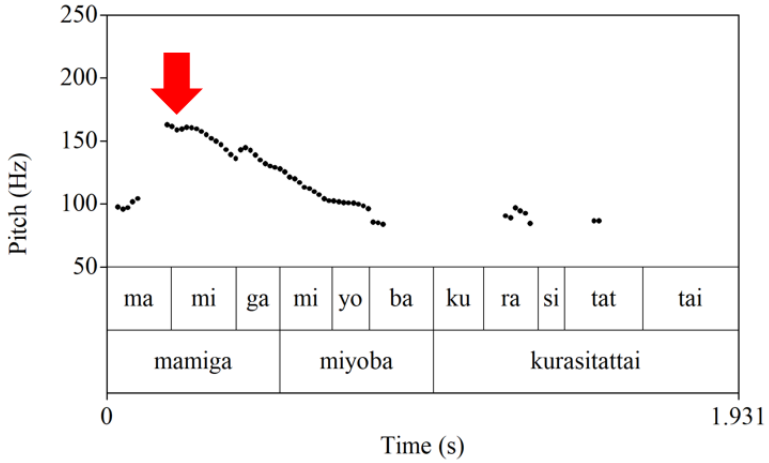

図 17. (50) のイントネーション

例文 (51) は，目的語であるミヨが焦点ドメインとなっており，図 18 の赤矢印で示す焦点ドメイン内の部分にピッチの卓立が生じている。

(51) *mamiwa* *miyoba* *kurasitattai.*
mami=wa miyo=ba kuras-i-ta==cu=tai
マミ=TOP ミヨ=ACC 殴る-IFX-PST=FMN=SFP

「(「マミは誰を殴ったの？」に対して）マミはミヨを殴ったんだよ。」

[8] 柳川方言の近隣方言である熊本市方言においても，焦点ドメインにピッチの卓立が生じることが明らかになっている（郡 2006: 53-55）。

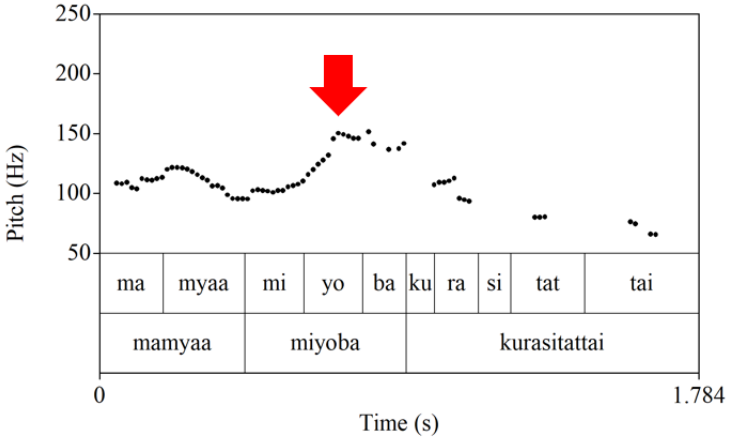

図 18. (51) のイントネーション

3　記述の諸単位

本章では，記述の諸単位を導入する。

3.1　語・接語・接辞

本稿は，語（word）・接語（clitic）・接辞（affix）を，以下のように定義する。

(52)　a.　語：形態的にも音韻的にも自立した単位。

b.　接語：形態的には自立しているが，音韻的には従属する単位。

c.　接辞：形態的にも音韻的にも従属した単位。

3.1.1　形態的自立性

本節では，語や接語を接辞と分ける基準となる形態的自立性について記述する。語と接語は形態的に自立しているのに対し，接辞は，語の内部に存在し，形態的に従属している。語の内部要素は，その配列順序が決まっているのに対し，語の外部の要素は順序が固定されていない。このため，例えばそれぞれ形態的に独立した ABCD という要素があった場合，これを CBAD のように並び替えることが可能である（服部　1950: 15-16）。以下に，語である *sensee*「先生」，*seeto*「生徒」，接語=*no*「〜が」と複数接辞-*don*「〜たち」を具体例として示す。接語=*no*「〜が」を例にすると，(53a) において ABCD のように並んでいる要素は，(53b) のように並べ替えることが可能である。

(53)　a.　*A*=*B*　　*C*=*D*

sensee=to　seeto=no

先生=COM　生徒=NOM

「先生と生徒が」

b. *C=B* *A=D*
seeto=to sensee=no
生徒=COM 先生=NOM

「生徒と先生が」

一方，複数接辞-*don* の場合，(54a) において ABCD のように並んでいる要素は，(54b) のように CBAD の順序に並び替えることはできない。すなわち，D にあたる-*don* は形態的に従属していて，CD 全体が成す語の内部に位置する。

(54) a. *A=B* *C-D*
sensee=to seeto-don
先生=COM 生徒-PL

「先生と生徒たち」

b. **C=B* *A-D*
*seeto=to sensee-don
生徒=COM 先生-PL

「int. 先生と生徒たち」

本論文では，基本的には上記に示す基準によって，ある形態素が形態的に独立しているか否かを判定している。ただし，一部の形態素（例：推量助詞=*mee*）に関しては，上記の基準では形態的に独立しているか否かが判断できないものの，体系性を重視し，形態的に独立して語の外にあるとみなしている。この点に関しては，§ 12.3.14 で詳述する。

3.1.2 音韻的自立性

本節では，語を接語と分ける基準となる音韻的自立性について記述する。音韻的自立性の判断基準となるのは，語は最低 2 モーラをもつという最小語制約と，音調句のピークを担えるか否かである。

3.1.2.1 2 モーラ以上をもつか否か

ある単位が表層で 2 モーラ以上をもつか否かは，音韻的自立性の指標となる（Dixon and Aikhenvald 2002: 14）。§ 2.3.1 に示したように，ある形態素（例：*cu*「かさぶた」）が基底で 1 モーラしかもたない場合，最小語制約によってその形態素の母音が延長されることがある。一方で，基底で 1 モーラしかもたないのにも関わらず，母音延長規則が生じない形態素（例：形式名詞=*cu*）もある。以下に，*cu*「かさぶた」と，形式名詞=*cu* を例に示す。

(55) *akka* {**cu/cuu*}
aka-ka cu
赤い-NPST かさぶた

「赤いかさぶた」

(56) *akka{=cu/*=cuu}*
aka-ka=cu
赤い-NPST=FMN

「赤いもの」

上記のふるまいの違いは，音韻的自立性の違いによるものと解釈できる。よって，形式名詞=*cu* のほか，主格助詞=*ga* や対格助詞=*ba*，与格助詞=*ni* といった 1 モーラしかもたず母音延長規則が生じない形態的に自立した形態素は，接語とみなす。ただし，母音延長規則が生じるか否かという基準は，基底で 2 モーラ以上をもつ形態素には適用できない。よって，2 モーラ以上をもつ形態素に関しては，以下に示す音調的な基準によって音韻的自立性を判断する。

3.1.2.2 音調句のピークを担うか

語が固有のアクセントをもつ言語においては，アクセントが音韻的な自立性を測る基準となり（Zwicky 1985: 287，Dixon and Aikhenvald 2002: 16），琉球諸語の記述においてもこの基準が用いられている（横山（徳永） 2017: 93，占部 2018: 19，麻生 2020: 83）。ただし，柳川方言においては，近隣方言に見られるような語に固有のアクセントは確認できておらず（§ 2.4），アクセントを判断基準とすることはできない。現時点では，音調に注目し，その要素が音調句のピークを担えるか否かという点を基に音韻的自立性を判断している。語は，それ単体で，もしくは接語とともに音調句を成し，音調のピークを担うことができる。これに対し，接語は独自の音調句を成すことができず，音調のピークも担わない。以下に，接語である格助詞，終助詞，コピュラ動詞，軽動詞の例を，それぞれ示す。

まず，格助詞の例を見る。図 19 に示すように，奪格助詞=*kara* は語である名詞 *inaka*「田舎」とともに音調句を形成している。音調句のピークを担うのは語である *inaka*「田舎」であり，接語である =*kara* は音調句のピークを担わない。

(57) 格助詞=*kara*
inakakara uukarooga.
inaka=kara uu-ka=yar-a-u=ga
田舎=ABL 多い-NPST=COP-THM-INFR=CNF

「田舎から（来る人が）多いでしょう？」

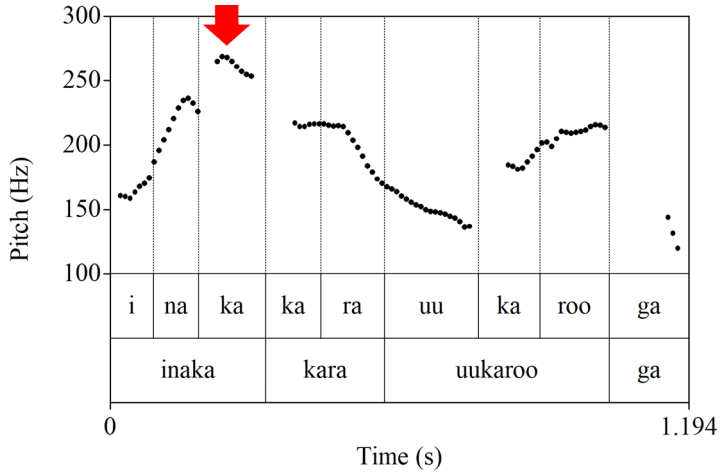

図 19. 格助詞

次に，終助詞の例を見る。図 20 に示すように，終助詞=*tai* は語である *nariyotta*「なっていた」とともに音調句を形成している。音調句のピークを担うのは語である *nariyotta*「なっていた」であり，接語である=*tai* は音調句のピークを担わない。

(58) 終助詞=*tai*

zenni *nariyottatai.*

zen=ni nar-i-yor-ta=tai

お金=DAT なる-THM-PROG-PST=SFP

「お金になっていたよ。」

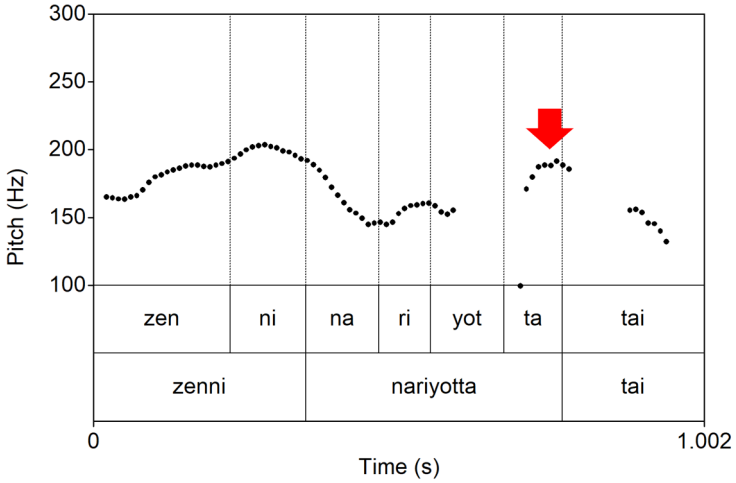

図 20. 終助詞=*tai*

次に，コピュラ動詞の例を見る。図 21 に示すように，コピュラ動詞=*yar* は語である名詞 *nabana*「菜花」とともに音調句を形成している。音調句のピークを担うのは語である *nabana*「菜花」であり，

接語である=*yar* は音調句のピークを担わない。

(59)　コピュラ動詞

son　*tokya*　　*nabanayatta.*

son　toki=wa　na+hana=yar-ta

その　時=TOP　菜 + 花=COP-PST

「その時は菜花だったんだ。」

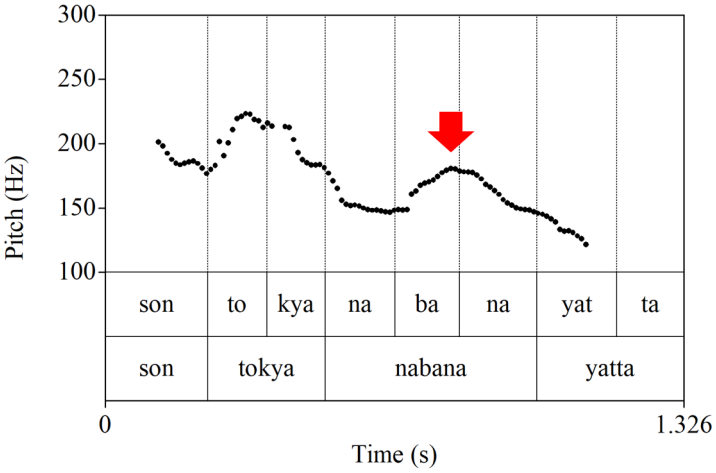

図 21. コピュラ動詞

上記に示した接語の多くは助詞（§ 3.4.6，§ 12）であるが，全ての助詞が接語であるわけでない。取り立て助詞 *bakkai* のように，独自の音調句をもつ助詞もある[9]。図 22 に示すように，*bakkai* は独自の音調句を成し，ピークを担う。

(60)　取り立て助詞 *bakkai*

sogen　*terebi*　*bakkai*　*mite*　　*yokakai.*

sogen　terebi　bakkai　mi-te　　yo-ka=kai

そんなに　テレビ　RPT　　見る-SEQ　よい-NPST=Q

「そんなにテレビばかり見ていいの？」

[9] 木部 （2012）は，2 型アクセントをもつ九州方言において，独自のアクセント単位を担う助詞があることを指摘している。柳川方言において語とみなす助詞である *bakkai* は，長崎県長崎市方言や熊本県天草市本渡方言でも独自のアクセント単位を担う助詞である（木部　2012: 91）。

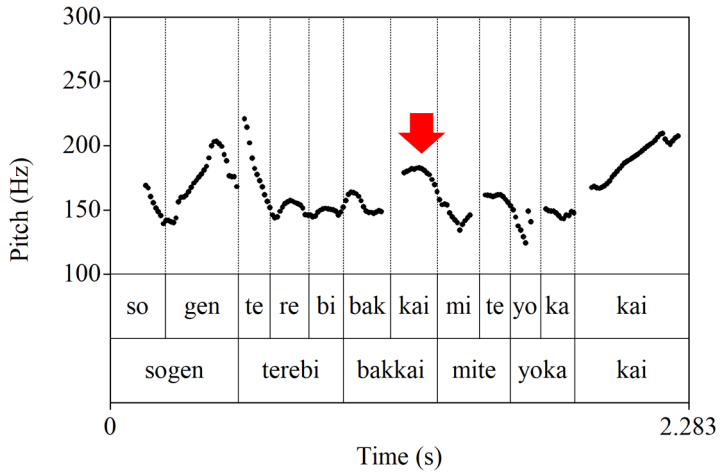

図 22. 取り立て助詞 *bakkai*

ここまで，音調句のピークを担えるか否かという基準によって音韻的自立性を判断した。ただし，現時点では，上記の基準で全ての要素の音韻的自立性を判断できているわけではなく，一部で暫定的に音韻的に自立していると解釈している形態素がある。例えば，アクセント（§ 2.4）の記述の際に前述したように，名詞を「〇〇がある／いる。」というフレームに入れて発話してもらった場合には，文全体が一つの音調句をなす。

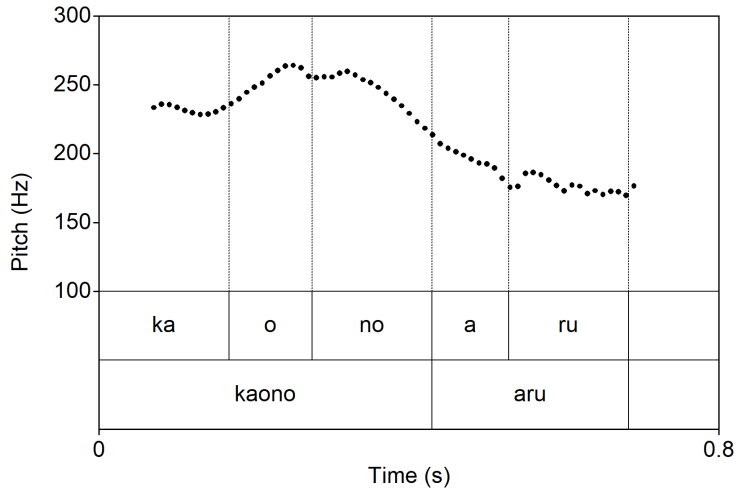

図 23. *kaono aru*「顔がある」

上記の基準に照らすと，図 23 でピッチのピークを担っていない動詞 *ar-*「ある」は接語であるとみなす必要があるが，本論文では語であると分析している。語であると分析しているのは，動詞 *ar-*「ある」が他の環境ではピッチのピークを担うためである。補助動詞構文（§ 11.1.2）の補助動詞に関しても，独自の音調句を成す場合と，主要部と一緒に音調句を成す場合があり，独自の音調句を成しピッチのピークを担うことを理由として音韻的に独立していると分析している。ただし，ある環境でピッチのピークを担うことを証拠に，その他の環境でも音韻的に独立しているとみなすのは恣意的な判断であ

り，今後修正する必要がある。

3.2　語根・語基・語幹

語根・語基・語幹の定義を，以下に述べる。

(61)　a.　語根：それ以上分割できない，語に必須の単位。

b.　語基：形態論的操作（接辞法，重複法，複合法）において，入力元となる単位。

c.　語幹：語から屈折接辞を取り除いた単位。

語根・語基・語幹の関係を，*mirareyotta*「見られていた」を例として，以下に示す。

表 6. 語根・語基・語幹

<table>
<tr><td></td><td>派生接辞</td><td>派生接辞</td><td>屈折接辞</td></tr>
<tr><td>mi</td><td>-rare</td><td>-yor</td><td>-ta</td></tr>
<tr><td>語根</td><td>接辞</td><td>接辞</td><td>接辞</td></tr>
<tr><td>-rare にとっての語基</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">-yor にとっての語基</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">-ta にとっての語基</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">語幹</td><td>屈折接辞</td></tr>
</table>

3.3　文法関係

本論文では，典型他動詞（prototypical transitive verb ; Tsunoda 1985: 387），すなわち動作主の動作が被動者に及び，被動者が状態の変化を被るような他動詞を述語とする文における動作主を典型的な主語，被動者を典型的な直接目的語ととらえる。典型他動詞文以外の文においては，典型的な主語がもつ特徴（の一部）をもつものを主語と呼び，典型的な直接目的語がもつ特徴（の一部）をもつものを直接目的語と呼ぶ。

3.3.1　主語

典型的な主語は，以下に示す特徴をもつ。

(62)　a.　非主題環境において主格標示され，主題環境において格標示を伴わず主題標示される。

b.　尊敬語が示す敬意の対象の項となる。

c.　再帰代名詞 *waga* の照応先となる。

(62a) に関して，典型的な主語は非主題環境で主格標示され，主題環境で格標示を伴わずに主題標示される。

(63)　a.　*mamiga*　*miyoba*　*kurasitabanmo.*
mami=ga　miyo=ba　kuras-i-ta=ban=mo
マミ＝NOM　ミヨ＝ACC　なぐる-IFX-PST＝SFP＝POL

「マミがミヨを殴った。」

b. *mamiwa* *miyoba* *kurasitabanmo.*
mami=wa miyo=ba kuras-i-ta=ban=mo
マミ＝TOP ミヨ＝ACC なぐる-IFX-PST＝SFP＝POL

「マミはミヨを殴った。」

(62b) に関して，典型的な主語は，*-ras*，*-nahar* という尊敬接辞が示す敬意の対象となる。

(64) a. *senseega* *nootoba* *miyorasita.*
sensee=ga nooto=ba mi-yor-ras-i-ta
先生＝NOM ノート＝ACC 見る-PROG-HON-IFX-PST

「先生がノートをご覧になった。」

b. *senseewa* *yuu* *terebiba* *miyonnaharu.*
sensee=wa yo-u terebi=ba mi-yor-i-nahar-ru
先生＝TOP よい-ADVLZ テレビ＝ACC 見る-PROG-THM-HON-NPST

「先生はよくテレビをご覧になっている。」

なお，少なくとも一部の無生物名詞（例：*ame*「雨」）が主語となる場合は尊敬接辞の敬意の対象となることはなく，この点で典型的な主語と異なるふるまいを見せる。

(62c) に関して，典型的な主語は，(65) のように再帰代名詞 *waga* の照応先となる。

(65) *oriwa* *komaka* *tokkara* *wagade* *sikitta.*
ori-ϕ=wa koma-ka toki=kara waga=de si-kir-ta
1-SG＝TOP 小さい-NPST 時＝ABL 自分＝INST する-POT-PST

「私は小さいころから自分で（身の回りのことを）できた。」

3.3.2 直接目的語

典型的な目的語は，以下に示す特徴をもつ。

(66) a. 対格で標示される。

b. 受動文化した際に，主語となる。

(66a) に関して，典型的な直接目的語は，対格標示される。以下に例を示す。

(67) *mamiga* *miyoba* *kurasitabanmo.*
mami=ga miyo=ba kuras-i-ta=ban=mo
マミ＝NOM ミヨ＝ACC なぐる-IFX-PST＝SFP＝POL

「マミがミヨを殴った。」

(66b) に関して，典型的な直接目的語は，受動化した際に主語となる。以下に，例を示す。

(68) a. 能動文

haciga *oriba* *seeta.*

haci=ga ori-ϕ=ba sas-ta

蜂=NOM 1-SG=ACC 刺す-PST

「蜂が私を刺した。」

b. 受動文

origa *hacikara* *sasareta.*

ori-ϕ=ga haci=kara sas-rare-ta

1-SG 蜂=ABL 刺す-PASS-PST

「私が蜂に刺された。」

3.4 語類

本節では，語・接語を構造特性・分布特性によって分類し，語類（word class ; Lehmann 2008）を設定する。これに対し，語根に設定されている品詞を語根類（root class ; Lehmann 2008），形態論的操作の入力元の品詞を語基類（base class） と呼び，それぞれ区別する。以下では，語類に着目し，その特徴を示す。

3.4.1 名詞類

名詞類は，名詞句の主要部に立つ。代名詞・名詞・数詞により構成される。多くは語であるが，形式名詞=*cu*，=*to*（§ 10.3.1.1）や，基底で 1 モーラしかもたず母音延長規則（§ 2.3.1）が適用されていない名詞（例：*meno*「目が」における *me*「目」）など，接語であるものもある。

(69) 代名詞・数詞

origa *hitoride* *suru.*

ori-ϕ=ga hito-ri=de su-ru

1-SG（代名詞）=NOM 一-CLF（数詞）=INST する-NPST

「私が一人でする。」

(70) 名詞

gamadasimonyatta.

gamadas-i+mon=yar-ta

頑張る-THM+ 者（名詞）=COP-PST

「働き者だった。」

3.4.2 連体詞

連体詞は，それ単独で名詞句の修飾部に立つ。*senka*「そんな」，*sono*「その」などがある。

(71) *senka hitowa oran.*
senka hito=wa or-a-n
そんな 人=TOP いる-THM-NEG

「そんな人はいない。」

(72) *sono hitoni yuunara deken.*
sono hito=ni <yuw-ru=nara deke-n>
その 人=DAT <言う-NPST=CND ?-NEG>

「その人に言ってはいけない。」

3.4.3 動詞

動詞は，名詞句の修飾部もしくは述語に立ち，屈折する。同じく名詞句の修飾部もしくは述語に立つ屈折形容詞とは，とりうる屈折接辞によって区別される。

(73) a. *origa hitoride suru.*
ori-ϕ=ga hito-ri=de su-ru
1-SG=NOM 一-CLF=INST する-NPST

「私が一人でする。」

b. *benkyoo suru tokiwa terebiwa min.*
benkyoo su-ru toki=wa terebi=wa mi-n
勉強 する-NPST 時=TOP テレビ=TOP 見る-NEG

「勉強するときはテレビは見ない。」

動詞が肯定継起接辞-*te* や否定継起接辞-*zi* をとった形式は，副詞（3.4.9）と同様に，補助動詞・補助形容詞構文（§ 11.1.2）の主要部としてふるまう。

3.4.4 屈折形容詞

屈折形容詞は，名詞句の修飾部もしくは述語に立ち，屈折する。同じく名詞句の修飾部もしくは述語に立つ動詞とは，屈折体系によって区別される。

(74) *taroowa asino hayaka.*
taroo=wa asi=no haya-ka
太郎=TOP 足=NOM 速い-NPST

「太郎は足が速い。」

3.4.5 非屈折形容詞

非屈折形容詞は，名詞句の修飾部もしくは述語に立つ。それ自体は屈折せず，後続するコピュラが文法的意味を担う。なお，非過去肯定の環境においては，(76) に示すようにコピュラは出現しない。

(75) *an* *hanawa* *kireeyatta.*
an hana=wa kiree=yar-ta
あの 花=TOP きれい=COP-PST

「あの花はきれいだった。」

(76) *an* *hanawa* *kiree.*
an hana=wa kiree
あの 花=TOP きれい

「あの花はきれいだ。」

3.4.6 助詞

助詞は，句に接続する。格助詞・取り立て助詞・接続助詞・終助詞に分類される。多くの助詞は接語であるが，語である助詞もある（§ 3.1.2）。

(77) 格助詞
origa *hitoride* *suru.*
ori-φ=ga hito-ri=de su-ru
1-SG=NOM 一-CLF=INST する-NPST

「私が一人でする。」

(78) 取り立て助詞
an *hanawa* *kiree.*
an hana=wa kiree
あの 花=TOP きれい

「あの花はきれいだ。」

(79) 接続助詞
nabanaba *urugetto* *zenni* *naru.*
na+hana=ba ur-ru=getto zen=ni nar-ru
菜 + 花=ACC 売る-NPST=CND お金=DAT なる-NPST

「菜花を売るとお金になる。」

(80) 終助詞
esukatanmo.
esu-ka=tan=mo
怖い-NPST=SFP=POL

「怖いよ。」

3.4.7　接続詞

接続詞は，文の初めに現われ，前の文とその文との論理関係を表す。

(81)　*batten　sorikara　zutto　kogen　natta.*
batten　sori=kara　zutto　kogen　nar-ta
だけど　それ=ABL　ずっと　こう　なる-PST

「だけど，それからずっとこうなった。」

3.4.8　間投詞

間投詞は，それ単体で節としてふるまい，引用助詞=*ci*/=*cci* によって節に埋め込まれる。*nnya* などの応答表現や重複されていないオノマトペが，これにあたる。全ての間投詞は，語である。

(82)　*nnya.*
nnya
いや

「いや」

(83)　*cyotto　sicicci　sita.*
cyotto　sici=cci　si-ta
ちょっと　ちく=QT　する-PST

「(蜂に刺されて）ちょっとちくっとした。」

3.4.9　副詞

副詞は，上記すべての語類に入らない様々な語に対して用いられる「その他」の語類として消極的に位置付ける。句や節の必須要素ではない要素（付加詞）として，動詞や形容詞を修飾する場合と，句や節の必須要素として，すなわち補部として機能する場合とがある。

(84)　*watasiwa　sogen　omou.*
watasi-ϕ=wa　sogen　omow-ru
1-SG=TOP　そう　思う-NPST

「私はそう思う。」

(85)　*sogen　samukaya.*
sogen　samu-ka=ya
そう　寒い-NPST=Q

「そんなに寒いの？」

屈折形容詞語根や非屈折形容詞から派生された副詞（例：/ako/「赤く」，/kireeni/「きれいに」）は，補助動詞・補助形容詞構文（§ 11.2.1.1，11.2.2.2）や軽動詞構文（§ 11.2.1.2，11.2.2.2）の意味的な主要部としてふるまう。

3.5　形態法の類型

3.5.1　複合

複合は，語彙素と語彙素を組み合わせる形態的な操作である。複合の主要部，すなわち後部要素の品詞によって，複合名詞，複合形容詞，複合動詞に大別できる。後部要素の第一音節オンセットが無声阻害音の場合，有声阻害音に変化するといういわゆる連濁が生じることがある（§ 2.3.2)。

3.5.1.1　複合名詞の構造

複合名詞とは，名詞語幹と名詞語幹とを複合させた結果生じる名詞である。複合名詞に含まれる名詞語幹には，(86) に示すように，動詞語根から転成された名詞（§ 7.5）も含まれる。

(86)　a.　*cukemon*
　　cuke+mon
　　漬ける + 物

　　「漬物」

　　b.　*ganezuke*
　　gane+cuke
　　蟹 + 漬ける

　　「蟹の塩辛」

複合名詞には，全体で複合名詞における主要部の下位語となる内心複合語（endocentric compound）と，複合名詞全体でその構成要素と下位語の関係を成さない外心複合語（exocentric compound)，そして構成要素が同列に並び主要部をもたない並列複合語（coordinative compound）がある。それぞれの例を，以下に示す。

(87)　内心複合語
　　asarige
　　asari+ke
　　あさり + 貝

　　「あさり貝」

(88)　外心複合語
　　ciggoyama
　　ciggo+yama
　　筑後 + 山

　　「筑後山（力士の四股名)」

(89)　並列複合語

oyako

oya+ko

親 + 子

「親子」

3.5.1.2　複合屈折形容詞

複合形容詞は，複合の結果生じる屈折形容詞であり，その後部要素は屈折形容詞である。前部要素にどのような品詞が来られるかは不明であるが，現時点では名詞の例を確認している。

(90)　*kosyuugaraka*

kosyuu+kara-ka

唐辛子 + 辛い-NPST

「（唐辛子が効いていて）辛い」

3.5.1.3　複合動詞の構造

複合動詞は，複合の後部要素が動詞語幹である動詞である。前部要素は，(91) に示すように動詞語幹である場合と，名詞語幹である場合とがある。(93) に示すように，動詞語幹には，形容詞語根から派生されたものも存在する。

(91)　*tabehazimuru*

tabe+hazimu-ru

食べる + 始める-NPST

「食べ始める」

(92)　*heeburu*

hee+hur-ru

おなら +（おならを）する-NPST

「おならする」

(93)　*esugarihazimuru*

esu-gar-i+hazimu-ru

怖い-VLZ-THM+ 始める-NPST

「怖がり始める」

複合動詞は，統語的複合動詞と語彙的複合動詞に大別できる。統語的複合動詞と語彙的複合動詞の例を以下に示す。統語的複合動詞の前部要素は使役接辞-*sasu* や受身接辞-*raru* をとりうるのに対し，語彙的複合動詞の前部要素はこれらの接辞をとることができない。

(94) a. 統語的複合動詞
tabehazimuru
tabe+hazimu-ru
食べる + 始める-NPST

「食べ始める」

b. *tabesasehazimuru*
tabe-sase+hazimu-ru
食べる + 始める-NPST

「食べさせ始める」

c. *taberarehazimuru*
tabe-rare+hazimu-ru
食べる-PASS+ 始める-NPST

「食べられ始める」

(95) a. 語彙的複合動詞
occyayuru
oci+ayu-ru
落ちる + 落ちる-NPST

「落ちる」

b. **ocisaseayuru*
oci-sase+ayu-ru
落ちる-CAUS+ 落ちる-NPST

3.5.2 重複

重複は，語基に対してそのコピーを付与する形態論的な操作である。現時点では動詞，オノマトペの完全重複のみを確認している。重複の前部要素が長音化する場合があるため，前部要素を出力語形とみなす。図 24 に示すように，出力語形の第二音節が高く発音される場合が多い[10]。

(96) *gohanna* *tabeetabe* *siyorayanyatta.*
gohan=wa ∼tabe si-yor-a-yan=yar-ta
ごはん=TOP IMPF∼ 食べる する-PROG-THM-OBL=COP-PST

「ご飯を食べ食べ（作業を）しなくてはならなかった。」

(97) *oniicyanga* *nikooniko* *site*
oniicyan=ga ∼niko si-te
お兄ちゃん=NOM ?∼ にこ する-SEQ

「お兄ちゃんがにこにこして」

[10] 少なくともオノマトペに関しては，同様の現象が長崎や佐賀，熊本で話される方言でも生じる（愛宕 1997: 278-279）。

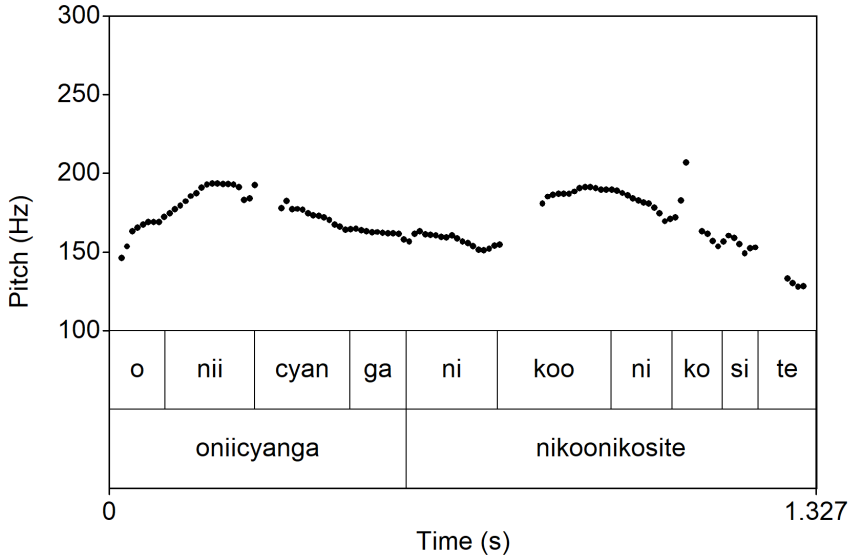

図 24. 例文 (97) のピッチ

4　名詞類

本章では，名詞類の内部構造，具体的にはどのような語根をもつか，どのような接辞をとるかを記述する。名詞類は，代名詞，名詞，数詞から成る。

4.1　代名詞

代名詞は，人称代名詞，再帰代名詞，指示代名詞，疑問代名詞から成る。本節では，人称代名詞，再帰代名詞のみを記述し，指示代名詞，疑問代名詞に関しては，他の指示語，疑問語と比較しながら，§9 で記述する。

4.1.1　人称代名詞

人称代名詞は，数によって屈折する。1 人称代名詞と 2 人称代名詞の単数・複数の形式を，以下の表に示す。なお，人称代名詞の網羅的な調査は行っていないため，以下には自然談話に出現した形式のみを示している。

表 7. 人称代名詞の体系（？ は未調査）

1 人称		2 人称	
単数	複数	単数	複数
ori-ϕ	ori-don/ori-don-taci	anaccan-ϕ	anaccan-don/anaccan-taci
watasi-ϕ	watasi-don/watasi-taci	anta-ϕ	anta-don
konta-ϕ	？	omae-ϕ	omae-don
		nusi-ϕ	？
		waga-ϕ	waga-don

人称代名詞は単数接辞-ϕ，複数接辞-*don*[11]，-*taci* をとる。1 人称代名詞に関しては§ 4.1.1.1 で，2 人称代名詞に関しては§ 4.1.1.2 で詳述する。なお，柳川方言の人称代名詞システムは，two-person タイプ（Bhat 2004: 134）であり，3 人称代名詞をもたない。話し手でも聞き手でもない人物を指すためには，(98) に示すような指示代名詞か，(99) に示すように指示語根から派生された *ayacu* のような名詞を用いる[12]。

(98) *ariga* *oriba* *sikaesini* *kita.*
ari=ga ori-ϕ=ba sikaesi=ni ki-ta
あいつ=NOM 1-SG=ACC 仕返し=DAT 来る-NPST
「そいつが俺のところに仕返しに来た。」

(99) *ayaddomyaa* *rotooni* *mayowadena*
a+yacu-domo=wa rotoo=ni mayow-a-dena
あれ + 奴-PL=TOP 露頭=DAT 迷う-THM-NEG.SEQ
「あの人たちは路頭に迷わないで」

4.1.1.1 1 人称

1 人称代名詞には，*ori* と *watasi*，*konta* がある。1 人称代名詞の性別や場面による使い分けは不明であるが，本稿が調査対象としている話者の中では，*ori* は男女問わず用いられ，*watasi* は女性にのみ用いられている。以下に，それぞれの代名詞が単数接辞-ϕをとった例を示す。

(100) *origa* *hitoride* *suru.*
ori-ϕ=ga hito-ri=de su-ru
1-SG=NOM 一-CLF=INST する-NPST
「私が一人でする。」

(101) *watasiga* *madogiwani* *oruken.*
watasi-ϕ=ga mado+kiwa=ni or-ru=ken
1-SG=TOP 窓 + 際=DAT いる-NPST=CSL
「私が窓際にいるから。」

(102) *kontano* *kodomowa* *yuu* *benkyoo* *suru.*
konta-ϕ=no kodomo=wa yo-u benkyoo su-ru
1-SG=GEN 子ども=TOP よい-ADVLZ 勉強 する-NPST
「私の子どもはよく勉強する。」

[11] (99) に示すように，-*don* は，-*domo* という異形態をもつ。これまでの調査において，-*domo* は (99) でしか確認できておらず，-*don* と-*domo* の出現環境の違いは不明である。
[12] *ayacu* に対応する *koyacu* や *soyacu* といった形式があるのかは不明である。

1 人称代名詞は，複数の場合には*-don* もしくは*-taci* をとる。ただし，少なくとも *ori* に関しては，複数接辞として*-don* と*-taci* を同時にとり，*oddontaci* のように現れる場合がある。*-don* ないし*-taci* をとる場合と，*-don-taci* をとる場合とで意味的な違いがあるかについては，現時点で不明である。

(103) *oddontaciga* *hanasiyottowa* *kiite* *omosirokaci*
ori-don-taci=ga hanas-i-yor-ru=to=wa kik-te omosiro-ka=ci
1-PL-PL=NOM 話す-THM-PROG-NPST=FMN=TOP 聞く-SEQ おもしろい-NPST=QT
iinaharu.
yuw-i-nahar-ru
言う-THM-HON-NPST

「私たちが話しているのを聞くのは面白いとおっしゃる。」

4.1.1.2 2 人称

2 人称代名詞には，*anaccan*，*anta*，*omae*，*nusi*，*waga* がある。このうち，*waga* は単数接辞-ϕ をとる際に，主格助詞=*ga* や属格助詞=*ga* をとることができない点で，他の代名詞や名詞と異なるふるまいをする。*waga* が単数接辞-ϕ をとったものは，ほかにも共起できない助詞がある可能性があるが，未検証である。以下に，それぞれの人称代名詞が単数接辞をとっている例を示す。

(104) *anaccanga* *motte* *itatte.*
anaccan-ϕ=ga mot-te itar-te
2-SG=NOM もつ-SEQ 行く-SEQ

「あなたがもっていって。」

(105) *antaga* *asita* *mige* *ikunara*
anta-ϕ=ga asita mi-ge ik-ru=nara
2-SG=NOM 明日 見る-PUR 行く-NPST=CND

「あなたが明日見に行くなら（結果を教えてほしい）」

(106) *kondowa* *origa* *omaeni* *kiku.*
kondo=wa ori-ϕ=ga omae-ϕ=ni kik-ru
今度=TOP 1-SG=NOM 2-SG=DAT 聞く-NPST

「今度は俺がお前に聞く。」

(107) *nasiken* *nusiwa* *hasirantoka.*
nasi=ken nusi-ϕ=wa hasir-a-n=to=ka
なぜ=CSL 2-SG=TOP 走る-THM-NEG=FMN=Q

「なんでお前は走らないのか。」

(108) *waga* *sogen* *benkyoo* *syuugon* *naka.*
waga-ϕ sogen benkyoo se-u=gocu na-ka
2-SG そう 勉強 する-INT=FMN ない-NPST

「お前はそんなに勉強したくないのか。」

2 人称代名詞は，複数の場合には-*don* もしくは-*taci* をとる。1 人称代名詞 *ori* のように，-*don* と-*taci* の両方を同時にとる可能性もあるが，未検証である。

4.1.2 再帰代名詞

再帰代名詞は，*waga* である。2 人称代名詞の *waga* と同様，共起する格助詞や取り立て助詞に制限がある可能性があるが，詳細は不明である。また，再帰代名詞の複数形の例は収集できていない。

(109) *oriwa* *komaka* *tokkara* *wagade* *sikitta.*
ori-ϕ=wa koma-ka toki=kara waga=de si-kir-ta
1-SG=TOP 小さい-NPST 時=ABL 自分=INST する-POT-PST

「私は小さいころから自分で（身の回りのことを）できた。」

4.2 名詞

名詞は，接頭辞 *o*-と接尾辞-*don*，-*taci* をとりうる。接頭辞 *o*-は丁寧を表す。

(110) //o-kusui//→/okusui/「お薬」

接尾辞-*don*，-*taci* は複数を標示する。人称代名詞のうち，少なくとも 1 人称代名詞は-*don*，-*taci* の 2 つが一語内に共起する（§ 4.1.1.1）が，(111) に示すように，名詞においてもこの 2 つが一語内に共起する場合がある。それぞれの接辞が単独で用いられる際との意味の違いは不明である。

(111) //kodomo-don-taci//→/kodomodontaci/「子どもたち」

代名詞と異なり，名詞の数標示は義務的ではない。複数標示に関して，有生性が複数標示に影響を与える言語は多い（Corbett 2000: 56-57）。柳川方言においては，有生性の上位に位置する代名詞や人間名詞と動物名詞が-*don* を，代名詞と人間名詞が-*taci* をとれることを確認しているが，これらの接辞が有生性のどの段階まで用いられるのかは不明である。

4.3 数詞

以下に，現時点までに明らかとなっている数詞を示す。

表 8. 数詞（空欄は未調査）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
基本	ici	ni	san	si	go	roku	sici	haci	kyuu/ku
人	hito-ri	hute-ri	san-nin	yo-nin	go-nin	roku-nin	sici-nin	haci-nin	
物	hito-cu	huta-cu	mic-cu						

基本形は，主に，数を数える際に使用される。*ni*，*si* などの 1 モーラの数詞は，実際に発話される際は，母音延長規則（§ 2.3.1）により，長母音化される。人や物を数える場合には，数詞語根（例：*hito-*「1」）が人や物を表す類別接辞をとる。*hute-ri*「二人」[13]と *huta-cu*「二つ」が示すように，同じ数を表す数詞語根であっても，とる類別接辞によって異なる数詞語根形式をとることがある。

5　動詞の構造

5.1　基本構造

動詞の基本構造を，図 25 に示す。

<table>
<tr><td colspan="2">語幹</td><td rowspan="2">屈折接辞</td></tr>
<tr><td>語幹核</td><td>（派生接辞）</td></tr>
</table>

図 25. 動詞の構造

図 25 中の語幹核（下地　2018: 192-193）とは，語幹の最小単位であり，一つもしくはそれ以上の語根を含む。派生接辞が後続することもある。以下に，語幹核を | | で示したうえで，例示する。

(112)　語根を一つ含む例
kakaseta
|kak|-sase-ta
書く-CAUS-PST

「書かせた」

(113)　語根を二つ含む例（複合動詞）
occyaesaseta
|oci+ae|-sase-ta
落ちる + 落ちる-CAUS-PST

「落ちさせた」

語幹核の位置には屈折形容詞語基を動詞化（§ 7.1）したものも立つ。

(114)　*kawaigariyotta*
|kawai-gar-i|-yor-ta
かわいい-VLZ-THM-PROG-PST

「かわいがっていた」

本論文が語幹核と呼ぶものは，複数の動詞語根を含み，屈折形容詞から派生されたものも含むため，語根（§ 3.2）と同一にみなすことはできない。さらに，語幹核と派生接辞とが語幹を形成するため，語幹核を語幹（§ 3.2）と同一視することもできない。よって，本論文では派生接辞が後続しうる単位を，語幹核と呼ぶ。

[13] 柳川方言以外の筑後方言（松田　1991: 732）でも「二人」が *huteri* や *huteeri* のような形で現れる。

5.2　動詞の語幹クラス

動詞語幹は，子音語幹と母音語幹，変格活用語幹に分類される。動詞語幹の種類を，表 9 に示す。

表 9. 動詞語幹の種類

子音語幹	b 語幹	tob「飛ぶ」，yorokob「喜ぶ」etc.
	m 語幹	tanom「頼む」，uram「恨む」etc.
	w 語幹	aw「会う」，yuw「言う」etc.
	s 語幹	sas「指す」，hanas「話す」etc.
	t 語幹	tat「立つ」，kat「勝つ」etc.
	r 語幹	hasir「走る」，wakar「分かる」etc.
	n 語幹	sin「死ぬ」
	k 語幹	sak「咲く」，boomek「舞う」etc.
	g 語幹	kag「嗅ぐ」，tog「研ぐ」etc.
母音語幹	i 語幹	mi「見る」，ki「着る」，oki「起きる」etc.
	e 語幹	de「出る」，ne「寝る」
	e/u 語幹	de/zu「出る」，ae/ayu「落ちる」etc.
変格活用語幹		ki/ku/ko「来る」
		s/si/su/se「する」

5.2.1　子音語幹動詞

子音語幹動詞は，語幹末が子音である動詞である。語幹末の子音によって，b 語幹，m 語幹，w 語幹，s 語幹，t 語幹，r 語幹，n 語幹，k 語幹，g 語幹に分類される。子音語幹は，後続する形態素によって，異なる語幹形式をとる。以下に，それぞれの語幹形式を示す。

表 10. 子音語幹の動詞形式

	子音動詞	後続する接辞の例
非拡張語幹	kak	非過去肯定接辞-*ru*，過去接辞-*ta*
a 拡張語幹	kak-a	否定接辞-*n*，推量接辞-*u*，意志接辞-*u*
i 拡張語幹	kak-i	継続接辞-*yor*

a 拡張語幹に含まれる-*a*，i 拡張語幹に含まれる-*i* は語幹拡張母音（thematic vowel；Bickel and Nichols 2007: 203）である。以下に，a 拡張語幹，i 拡張語幹をとる例を示す。

(115)　*kakoo*
　　kak-a-u
　　書く-THM-INFR
　　「書くだろう」

(116) *kakiyoru*
kak-i-yor-ru
書く-THM-PROG-NPST
「書いている」

5.2.2 母音語幹動詞

母音語幹動詞は，語幹末が母音である動詞である。母音語幹動詞は全て，非拡張語幹形式，すなわち語幹拡張母音をとらない形式に形態素が後続する。表 9 に示すように，語幹末の母音の交替がない i 語幹，e 語幹と，語幹末の母音が交替する e/u 語幹とがある。以下に，後続する形態素によって語幹末の母音が交替する e/u 語幹の語幹形式を示す。

表 11. e/u 語幹の語幹形式

		e/u 語幹動詞	後続する接辞の例
非拡張語幹	u 語幹	tabu	非過去肯定接辞-*ru*
	e 語幹	tabe	過去接辞-*ta*，推量接辞-*u*，意志接辞-*u* など

なお，i 語幹動詞・e 語幹動詞は，特定の接辞が後続する際に，これまで一般にラ行五段化（小林 1996, 黒木 2019）と呼ばれてきた現象，すなわち母音語幹の r 語幹化が生じることがある（例：/miran/「見ない」）。r 語幹化に関しては，§ 5.2.4 に詳述する。

5.2.3 変格活用語幹動詞

変格活用語幹動詞は，子音語幹とも母音語幹とも異なる不規則な活用をする動詞である。「来る」,「する」が，変格活用をとる語幹であり，とる接辞によって，語幹形式が交替する。以下に，それぞれの語幹形式を示す。

表 12. 「来る」の語幹形式

	「来る」	後続する接辞の例
非拡張語幹	ku	非過去肯定接辞-*ru*
	ki	過去接辞-*ta*
	ko	否定接辞-*n*

表 13. 「する」の語幹形式

	「する」	後続する接辞の例
非拡張語幹	s	使役接辞-*sase/sasu*
	su	非過去肯定接辞-*ru*
	si	過去接辞-*ta*
	se	否定接辞-*n*

5.2.4　母音語幹の r 語幹化

i 語幹動詞 *mi*-「見る」，*oki*-「起きる」や e 語幹動詞 *de*-「出る」は，それぞれ *mir*-，*okir*-，*der*-としてふるまう，すなわち r 語幹動詞と同様のふるまいを見せる場合がある。母音語幹が r 語幹化した場合，後続する接辞は否定接辞-*n*，推量接辞-*u*，意志接辞-*u*，命令接辞-*re* である。それぞれの r 語幹化していない形式と r 語幹化した形式を，以下に示す。

表 14. r 語幹化していない形式（左）と r 語幹化した形式（右）

	否定接辞-*n*	意志接辞・推量接辞-*u*	命令接辞-*re*
i 語幹	min/miran	myuu/miroo	miro/mire
e 語幹	den/deran	zyuu/deroo	dero/dere

宮岡 （2021）は，日本語諸方言における母音語幹の r 語幹化には階層性があると指摘している。宮岡（2021）が指摘する階層性を，以下に示す。

(117)　動詞語幹の階層（宮岡　2021）

a.　語幹末母音：i（筆者注：u と交替するものも含む） >e（筆者注：u と交替するものも含む）

b.　語幹モーラ数：1 モーラ >2 モーラ

(118)　接辞の階層（宮岡　2021）
意志 >否定非過去 >過去

柳川方言のデータは，宮岡 （2021）が指摘する階層に違反しない。(117) の語幹クラスに関して，柳川方言は語幹末母音が i である i 語幹動詞，語幹末母音が e をとる e 語幹動詞の両方で r 語幹化が生じる。語幹モーラ数に関して，i 語幹動詞では語幹モーラが 1 モーラである動詞語幹（例：*mi*-「見る」）も，2 モーラである動詞語幹（例：*oki*-「起きる」）も r 語幹化し，語幹末母音が e をとる動詞に関して，語幹モーラ数が 2 モーラである母音語幹（例：*tabe*-「食べる」）は r 語幹化しない。(118) に関して，柳川方言において母音語幹が r 語幹化した場合に後続する接辞は意志接辞-*u* 及び同形の推量接辞-*u*，否定接辞-*n* であり，過去接辞-*ta* は後続しない。なお，柳川方言においては，宮岡 （2021）の指摘する階層に組み込まれていない命令接辞が後続する場合にも，母音語幹の r 語幹化が生じる。

5.3　屈折接辞

本節では，動詞語幹がとる屈折接辞を示す。動詞のうち，文末に立つものは，法で屈折し，直説法と禁止法の場合は極性でも屈折する。さらに，直説法肯定の場合は，時制でも屈折する。表 15 に，屈折接辞とその出現する環境を示す。なお，便宜上，動詞に後続するコピュラが時制など文法的な範疇を表す場合も，同時に示す。

表 15. 動詞のパラダイム

環境	法		肯定	否定
文終止・名詞修飾	直説法	非過去	-ru	-n
		過去	-ta	-n=yar-ta
	義務法	非過去	-yan	
		過去	-yan=yar-ta	
文終止	推量法	非過去	-u/-yoo/-ru=yar-a-u	-n=yar-a-u
		過去	-ta=yar-a-u	-n=yar-ta=yar-a-u
	意志法		-u/-yoo	
	命令法		-ro/-re/-i	-runa
副詞節		継起	-te	-nna/-dena/-zi
		条件	-tara	
		並列	-tai	
		目的	-ge	

上記の表に示していない形式に関して，他の九州方言（例：福岡県福岡市方言；平塚 2014: 128，鹿児島県南さつま市方言；久保薗 2016: 22-23）で見られるような/kakanmee/「書かないだろう」のような形式が，柳川方言にも存在する。本論文では，§ 12.3.14 に詳述するように，/kakanmee/「書かないだろう」に含まれる *mee* は接語であり，直説法否定接辞-*n* をとった動詞に接続していると分析する。

5.3.1 直説法

5.3.1.1 非過去肯定-*ru*

非過去肯定接辞-*ru*「～る」が子音語幹に接続する場合，非拡張語幹に接続し，形態音韻規則の結果接辞の頭子音が削除される[14]。母音語幹に接続する場合，その語幹が i 語幹，e 語幹ならば，非拡張語幹に接続する。e/u 語幹ならば，非拡張 u 語幹に接続する。変格活用語幹に接続する場合，「来る」は *ku*-に，「する」は *su*-に接続する。

表 16. 非過去肯定接辞-*ru*

子音語幹		//kak-ru//→/kaku/	「書く」
母音語幹	i 語幹	//mi-ru//→/miru/	「見る」
	e 語幹	//de-ru//→/deru/	「出る」
	e/u 語幹	//tabu-ru//→/taburu/	「食べる」
変格活用語幹		//ku-ru//→/kuru/	「来る」
		//su-ru//→/suru/	「する」

[14] n 語幹である *sin*-「死ぬ」に関しては，§ 2.3.8.4 で前述した形態音韻規則の結果，/sin/という表層形が現れる。

5.3.1.2　過去肯定 *-ta*

過去肯定接辞*-ta*「〜た」が子音語幹に接続する場合，非拡張語幹に接続する。母音語幹に接続する場合，その語幹が i 語幹，e 語幹ならば，非拡張語幹に接続する。e/u 語幹ならば，非拡張 e 語幹に接続する。変格活用語幹に接続する場合，「来る」なら *ki-*に，「する」なら *si-*に接続する。

表 17. 過去肯定接辞*-ta*

子音語幹		//nar-ta//→/natta/	「なった」
母音語幹	i 語幹	//mi-ta//→/mita/	「見た」
	e 語幹	//de-ta//→/deta/	「出た」
	e/u 語幹	//tabe-ta//→/tabeta/	「食べた」
変格活用語幹		//ki-ta//→/kita/	「来た」
		//si-ta//→/sita/	「した」

-ta が子音語幹に接続する場合，語幹末子音によって異なる形態音韻規則が生じる。以下に示す規則は，この順序で適用される。以下の規則は，継起接辞*-te*（§ 5.3.6.1）や完了接辞*-tor*（§ 5.4.4.2）が子音語幹に接続する際にも生じる。

(119)　語幹末子音が b，m，n，g のとき，接辞に含まれる t を有声化せよ。

a.　「飛んだ」tob-ta → tob-da

b.　「仕込んだ」sikom-ta → sikom-da

c.　「死んだ」sin-ta → sin-da

d.　「嗅いだ」kag-ta → kag-da

(120)　語幹末子音が b，m，w のとき，これを u に，k，g，s のとき，これを i に交替せよ。

a.　「飛んだ」tob-da → tou-da

b.　「仕込んだ」sikom-da → sikou-da

c.　「言った」yuw-ta → yuu-ta

d.　「就いた」cuk-ta → cui-ta

e.　「嗅いだ」kag-da → kai-da

f.　「貸した」kas-ta → kai-ta

(121)　語幹末子音が r の場合，これを t に同化せよ。
「走った」hasir-ta → hasit-ta

(122)　母音融合規則（§ 2.3.4）を適用せよ。

a.　ai → ee
「貸した」kai-ta → kee-ta

b. ui → ii
「就いた」cui-ta → cii-ta

c. au → oo
「買った」kau-ta → koo-ta

d. ou → oo
「飛んだ」tou-da → too-da

(123) 語幹の左端からフットを形成し，フット境界が母音融合の結果生じた長母音を分断するとき，長母音を短母音化せよ[15]（それぞれのフットを [ ] で囲って示す）。

a. 「話した」[hane]e-ta →/haneta/
cf.「貸した」[kee]-ta →/keeta/
cf.「頑張った」[gama][dee]-ta →/gamadeeta/

b. 「思った」[omo]o-ta →/omota/
cf.「言った」[yuu]-ta →/yuuta/

以下に，それぞれの規則が適用される過程を示す。

表 18. 子音語幹に-*ta* が接続する場合

	基底形	有声化	語幹末子音の母音への交替	語幹末子音の逆行同化	母音融合	長母音の短母音化	出力
「飛んだ」	tob-ta	tob-da	tou-da	N/A	too-da	N/A	tooda
「仕込んだ」	sikom-ta	sikom-da	sikou-da	N/A	sikoo-da	siko-da	sikoda
「言った」	yuw-ta	N/A	yuu-ta	N/A	N/A	N/A	yuuta
「思った」	omow-ta	N/A	omou-ta	N/A	omoo-ta	omo-ta	omota
「貸した」	kas-ta	N/A	kai-ta	N/A	kee-ta	N/A	keeta
「話した」	hanas-ta	N/A	hanai-ta	N/A	hanee-ta	hane-ta	haneta
「もった」	mot-ta	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	motta
「なった」	nar-ta	N/A	N/A	nat-ta	N/A	N/A	natta
「死んだ」	sin-ta	sin-da	N/A	N/A	N/A	N/A	sinda
「就いた」	cuk-ta	N/A	cui-ta	N/A	cii-ta	N/A	ciita
「嗅いだ」	kag-ta	kag-da	kai-da	N/A	kee-da	N/A	keeda

なお，k 語幹，g 語幹，s 語幹の動詞は，上記の規則によって導けない表層形が現れる場合がある。以下では，これらの表層形をどのように分析するか議論する。

k 語幹・g 語幹動詞は，上述の母音融合規則 (122) が適用されず，表層で母音が融合していない形（例：/kaita/「書いた」，/kaida/「嗅いだ」）で，すなわち標準語と同形で現れる場合がある。一方，k

[15] 加藤・井手口（2018）は，福岡県八女市黒木方言（以下，黒木方言）において，同様の形態音韻規則が継起接辞-*te* に接続する際に生じることを指摘している。加藤幹治（私信）によると，黒木方言においても過去接辞-*ta* や完了接辞-*tor* が子音語幹に接続する際も同様の形態音韻規則が生じる。複合動詞の場合は，//cukur-i+naos-ta//→/cukunnaeta/「作り直した」のように，複合動詞の後部要素のみがフットの計算対象となる。

語幹・g 語幹と同じく語幹末子音が i に交替する s 語幹動詞に関しては，母音融合が生じていない形（例：*/kaita/「貸した」），すなわち標準語にない形式は容認されない。この点に鑑み，k 語幹・g 語幹動詞が母音融合せずに現れたものは，標準語形を借用したものとみなす。

s 語幹動詞は，語幹末子音と接辞との間に母音 i が現れる形式，すなわち，標準語と同形の形式が現れる場合がある（例：/kasita/「貸した」）。現時点では，母音融合が生じていない k 語幹・g 語幹の例と同様に，母音 i が現れた s 語幹の例は，標準語形を借用したものであるとみなし，母音 i は接合辞（interfix ; Bauer 1988: 29-30, 渡辺 2014: 11-12）であると分析する。ただし，古典語研究や方言研究においては，s 語幹動詞の語幹末子音が i に交替する現象はサ行イ音便と呼ばれ，同一の言語体系内においてもサ行イ音便を許容する動詞と許容しない動詞があることが知られている（橋本 1962, 奥村 1968, 坂喜 2019 など多数）。柳川方言においても，サ行イ音便を許容しない s 語幹動詞があるか否かを，調査票調査によって確認する必要がある。

5.3.1.3　否定接辞-*n*

直説法否定接辞-*n*「〜しない」が子音語幹に接続する場合，a 拡張語幹に接続する。母音語幹に接続する場合，その語幹が i 語幹，e 語幹ならば，非拡張語幹に接続するか，もしくはそれらが r 語幹化し，語幹拡張母音-*a* をとったものに接続する。r 語幹化した形式は，表中の子音語幹の行に示す。e/u 語幹ならば非拡張 e 語幹に接続する。変格活用語幹に接続する場合，「来る」は *ko*-に，「する」は *se*-に接続する。

表 19. 否定接辞-*n*

子音語幹		//kak-a-n//→/kakan/	「書かない」
		//mir-a-n//→/miran/	「見ない」
		//der-a-n//→/deran/	「出ない」
母音語幹	i 語幹	//mi-n//→/min/	「見ない」
	e 語幹	//de-n//→/den/	「出ない」
	e/u 語幹	//tabe-n//→/taben/	「食べない」
変格活用語幹		//ko-n//→/kon/	「来ない」
		//se-n//→/sen/	「しない」

過去の事象であることを示す場合は，§ 5.6.2 に述べるように，後続するコピュラが過去接辞-*ta* をとることで，時制を示す。

5.3.2　義務法

義務法（§ 13.5.3.4）の接辞は，-*yan*「〜しなければならない」である。義務接辞-*yan* が子音語幹に接続する場合，a 拡張語幹に接続する。母音語幹に接続する場合，i 語幹，e 語幹ならば非拡張語幹に接続する。e/u 語幹の場合，非拡張 e 語幹に接続する。なお，母音語幹に-*yan* が接続する場合，r 語幹化しうるかは未調査である。変格活用語幹に接続する場合，「来る」ならば *ko*-に，「する」ならば *se*-に接続する。

表 20. 義務接辞-*yan*

子音語幹		//cukur-a-yan//→/cukurayan/	「作らなければならない」
母音語幹	i 語幹	//mi-yan//→/miyan/	「見なければならない」
	e 語幹	//de-yan//→/deyan/	「出なければならない」
	e/u 語幹	//ire-yan//→/ireyan/	「入れなければならない」
変格活用語幹		//ko-yan//→/koyan/	「来なければならない」
		//se-yan//→/seyan/	「しなければならない」

過去の事象であることを示す場合は，§ 5.6.2 に述べるように，後続するコピュラが過去接辞-*ta* をとることで，時制を示す。

5.3.3 推量法

推量接辞は，推量を表す（§ 13.5.3.2)。動詞語幹に直接接続するほか，動詞に後続するコピュラが推量接辞をとり推量であることを表す場合もある。動詞に後続するコピュラが推量接辞-*u* をとる場合に関しては§ 5.6.2 で述べ，本節では動詞語幹に直接接続する推量接辞を記述する。

推量接辞「〜だろう」には，子音語幹と母音語幹と変格活用語幹に接続する-*u* と，母音語幹と変格活用語幹に接続する-*yoo* がある。推量接辞-*u* が子音語幹に接続する場合，a 拡張語幹に接続する。推量接辞-*u* が母音語幹に接続する場合，非拡張語幹（e/u 語幹の場合は非拡張 e 語幹）に接続し，母音融合規則（§ 2.3.4）が生じる。推量接辞-*yoo* が母音語幹に接続する場合，非拡張語幹（e/u 語幹の場合は非拡張 e 語幹）に接続する。母音語幹が r 語幹化した場合，-*u* が語幹拡張母音-*a* をとり a 拡張語幹となったものに接続する。r 語幹化した形式は，表中の子音語幹の行に示す。e/u 語幹に関して，-*u* もしくは -*yoo* が非拡張 e 語幹に接続する。変格活用語幹に接続する場合，「来る」に関しては-*yoo* が語幹 *ko*-に接続する。「する」に関しては，-*u* が語幹 *se* に接続し母音融合規則（§ 2.3.4）が生じるか，-*yoo* が語幹 *si*-に接続する。

表 21. 推量接辞-*u*

子音語幹		//kak-a-u//→/kakoo/	「書くだろう」
		//mir-a-u//→/miroo/	「見るだろう」
		//der-a-u//→/deroo/	「出よう」
母音語幹	i 語幹	//mi-u//→/myuu/ //mi-yoo//→/miyoo/	「見るだろう」
	e 語幹	//de-u//→/zuu/or/zyuu/ //de-yoo//→/deyoo/	「出るだろう」
	e/u 語幹	//tabe-u//→/tabuu/or/tabyuu/ //tabe-yoo//→/tabeyoo/	「食べるだろう」
変格活用語幹		//ko-yoo//→/koyoo/	「来るだろう」
		//se-u//→/suu/or/syuu/ //si-yoo//→/siyoo/	「するだろう」

5.3.4　意志法

意志接辞「～しよう」には，子音語幹と母音語幹と変格活用語幹に接続する-*u* と，母音語幹と変格活用語幹に接続する-*yoo* がある。意志接辞-*u* が母音語幹に接続する場合，非拡張語幹（e/u 語幹の場合は非拡張 e 語幹）に接続し，母音融合規則（§ 2.3.4）が生じる。意志接辞-*yoo* が母音語幹に接続する場合，非拡張語幹（e/u 語幹の場合は非拡張 e 語幹）に接続する。母音語幹が r 語幹化した場合，-*u* が語幹拡張母音-*a* をとり a 拡張語幹となったものに接続する。r 語幹化した形式は，表中の子音語幹の行に示す。e/u 語幹に関して，-*u* もしくは-*yoo* が非拡張 e 語幹に接続する。変格活用語幹に接続する場合，「来る」に関しては-*yoo* が語幹 *ko*-に接続する。「する」に関しては，-*u* が語幹 *se*-に接続し母音融合規則（§ 2.3.4）が生じるか，-*yoo* が語幹 *si*-に接続する。

表 22. 意志接辞-*u*，-*yoo*

子音語幹		//kak-a-u//→/kakoo/	「書こう」
		//mir-a-u//→/miroo/	「見よう」
		//der-a-u//→/deroo/	「出よう」
母音語幹	i 語幹	//mi-u//→/myuu/ //mi-yoo//→/miyoo/	「見よう」
	e 語幹	//de-u//→/zuu/or/zyuu/ //de-yoo//→/deyoo/	「出よう」
	e/u 語幹	//tabe-u//→/tabuu/or/tabyuu/ //tabe-yoo//→/tabeyoo/	「食べよう」
変格活用語幹		//ko-yoo//→/koyoo/	「来よう」
		//se-u//→/suu/or/syuu/ //si-yoo//→/siyoo/	「しよう」

5.3.5　命令法

5.3.5.1　命令接辞

命令接辞（「～しろ」）には，-*re*，-*ro*，-*i* の 3 種類がある。子音語幹動詞の命令形は，非拡張語幹と接辞-*re* から成る。母音語幹のうち，i 語幹，e 語幹の命令形は，接辞-*ro* が用いられるか，それらが r 語幹化したものに接辞-*re* が接続して形成される。r 語幹化した形式は，表中の子音語幹の行に示す。e/u 語幹の場合は，非拡張 e 語幹に-*ro* が接続する。変格活用動詞の命令形に関して，「来る」の場合は，語幹 *ko*-に接辞-*i* が接続する。「する」の場合は，語幹 *se*-に接辞-*ro*，もしくは-*re* が接続する。

表 23. 命令接辞

子音語幹		//hasir-re//→/hasire/	「走れ」
		//mir-re//→/mire/	「見ろ」
		//der-re//→/dere/	「出ろ」
母音語幹	i 語幹	//mi-ro//→/miro/	「見ろ」
	e 語幹	//de-ro//→/dero/	「出ろ」
	e/u 語幹	//kakae-ro//→/kakaero/	「抱えろ」
変格活用語幹		//ko-i//→/koi/or/kee/	「来い」
		//se-ro//→/sero/ //se-re//→/sere/	「しろ」

5.3.5.2 禁止接辞

禁止接辞-*runa*「〜するな」が子音語幹に接続する場合，非拡張語幹に接続し，接辞の頭子音が削除される。母音語幹に接続する場合，それが i 語幹，e 語幹ならば非拡張語幹に接続し，e/u 語幹の場合は，非拡張 u 語幹に接続する。変格活用語幹に接続する場合，それが「来る」ならば *ku*-に，「する」ならば *su*-に接続する。なお，禁止接辞-*runa* は，表層では *nna* として実現する場合がある。

表 24. 禁止接辞-*runa*

子音語幹		//ik-runa//→/ikuna/	「行くな」
母音語幹	i 語幹	//mi-runa//→/miruna/or/minna/	「見るな」
	e 語幹	//de-runa//→/deruna/or/denna/	「出るな」
	e/u 語幹	//zu-runa//→/zuruna/or/zunna/	「出るな」
変格活用語幹		//ku-runa//→/kuruna/or/kunna/	「来るな」
		//su-runa//→/suruna/or/sunna/	「するな」

5.3.6 副動詞

5.3.6.1 肯定継起-*te*

肯定継起接辞-*te*「〜して」が子音語幹に接続する場合，非拡張語幹に接続する。母音語幹に接続する場合，その語幹が i 語幹，e 語幹ならば，非拡張語幹に接続する。e/u 語幹ならば，非拡張 e 語幹に接続する。変格活用語幹に接続する場合，「来る」ならば *ki*-に，「する」ならば *si*-に接続する。

表 25. 肯定継起接辞-*te*

子音語幹		//mor-te//→/motte/	「もって」
母音語幹	i 語幹	//mi-te//→/mite/	「見て」
	e 語幹	//de-te//→/dete/	「出て」
	e/u 語幹	//ae-te//→/aete/	「落ちて」
変格活用語幹		//ki-te//→/kite/	「来て」
		//si-te//→/site/	「して」

-te が子音語幹に接続する場合，§ 5.3.1.2 に示した一連の形態音韻規則が適用される。

5.3.6.2　否定継起-nna/-dena/-zi

否定継起「～しないで」を表す接辞には*-nna*，*-dena*，*-zi* の 3 つがある[16]。*-dena*，*-zi* に関しては，一部の例しか収集できていないため，以下では*-nna* に関してのみ述べる。否定継起接辞*-nna* が子音語幹に接続する場合，a 拡張語幹に接続する。母音語幹に接続する場合，その語幹が i 語幹，e 語幹ならば，非拡張語幹に接続する。e/u 語幹ならば，非拡張 e 語幹に接続する。変格活用語幹に接続する場合，「来る」ならば *ko-*に，「する」ならば *se-*に接続する。

表 26. 継起否定接辞（*-nna* で例示）

子音語幹		//hasir-a-nna//→/hasiranna/	「走らないで」
母音語幹	i 語幹	//mi-nna//→/minna/	「見ないで」
	e 語幹	//de-nna//→/denna/	「出ないで」
	e/u 語幹	//tabe-nna//→/tabenna/	「食べないで」
変格活用語幹		//ko-nna//→/konna/	「来ないで」
		//se-nna//→/senna/	「しないで」

5.3.6.3　条件-*tara*

条件接辞*-tara*「～したら」が子音語幹に接続する場合，非拡張語幹に接続する。条件接辞*-tara* が母音語幹に接続する場合，i 語幹，e 語幹ならば非拡張語幹に接続し，e/u 語幹ならば非拡張 e 語幹に接続する。変格活用語幹に接続する場合，「来る」ならば *ki-*に，「する」ならば *si-*に接続する。

表 27. 条件接辞*-tara*

子音語幹		//hasir-tara//→/hasittara/	「走ったら」
母音語幹	i 語幹	//mi-tara//→/mitara/	「見たら」
	e 語幹	//de-tara//→/detara/	「出たら」
	e/u 語幹	//kake-tara//→/kaketara/	「かけたら」
変格活用語幹		//ki-tara//→/kitara/	「来たら」
		//si-tara//→/sitara/	「したら」

-tara が子音語幹に接続する際，§ 5.3.1.2 に示した形態音韻規則が生じる可能性があるが，未検証である。

5.3.6.4　並列接辞-*tai*

並列接辞*-tai*「～したり」が子音語幹に接続する場合，非拡張語幹に接続する。母音語幹に接続する場合，i 語幹，e 語幹ならば非拡張語幹に，e/u 語幹ならば非拡張 e 語幹に接続する。変格活用語幹に接続する場合，「来る」は *ki-*に，「する」は *si-*に接続する。

[16] これら 3 つの接辞の意味の違いなどの詳細は不明である。なお，近隣方言においても，否定継起を表す複数の接辞が存在する例があるが，意味の違いがあるのかは不明である（原田　1953: 147）。

表 28. 並列接辞-*tai*

子音語幹		//hasir-tai//→/hasittai/	「走ったり」
母音語幹	i 語幹	//mi-tai//→/mitai/	「見たり」
	e 語幹	//de-tai//→/detai/	「出たり」
	e/u 語幹	//kake-tai//→/kaketai/	「かけたり」
変格活用語幹		//ki-tai//→/kitai/	「来たり」
		//si-tai//→/sitai/	「したり」

-*tai* が子音語幹に接続する際，5.3.1.2 に示した形態音韻規則が生じる可能性があるが，未検証である。

5.3.6.5　目的接辞-*ge*

目的接辞-*ge*「～しに」が子音語幹に接続する場合は，i 拡張語幹に接続する。目的接辞-*ge* が母音語幹に接続する場合，i 語幹，e 語幹ならば非拡張語幹に，e/u 語幹なら非拡張 e 語幹に接続する。変格活用語幹に接続する場合，「する」ならば si に接続する。なお，-*ge* は，移動動詞とともに用いられ，移動の目的を表す（例：mige iku「見に行く」)。移動の目的を表すという意味的な性質上，移動を表す「来る」という変格活用語幹と共起する例を収集できていない。

表 29. 目的接辞-*ge*

子音語幹		//tor-i-ge//→/torige/	「取りに」
母音語幹	i 語幹	//mi-ge//→/mige/	「見に」
	e 語幹	//ne-ge//→/nege/	「寝に」
	e/u 語幹	//kake-ge//→/kakege/	「かけに」
変格活用語幹			
		//si-ge//→/sige/	「しに」

例えば長崎県宇久島野方方言（中村　2019: 114-115）においては，柳川方言における-*ge* と同根と思われる形式=*gja* は接語と分析されているが，柳川方言においては接辞であるとみなす。これは，-*ge* の接続先に母音延長規則（§ 2.3.1）が生じないためである。柳川方言においては，基底で 1 モーラをもつ語に接語が後続する際，母音延長規則が生じうる。一方，*mi* に-*ge* が接続する際には，母音延長規則は生じない。

5.4　語幹の内部構造

動詞語幹は，(124) に示す内部構造をもつ。

(124)　語幹核（-使役接辞）(-受身接辞／-可能接辞）(-アスペクト接辞）(-尊敬接辞）

派生接辞の相互承接を示す例を，以下に示す。

(125) *nomaserareyorasita*
nom-sase-rare-yor-ras-i-ta
飲む-CAUS-PASS-PROG-HON-IFX-PST

「飲ませられていた」

上記の派生接辞のうち，受身接辞と可能接辞に関しては同時に使われている例がない。このため，現時点では語幹のテンプレートにおいて同じ位置にあるとみなしているが，同時に使われる例がある場合には，さらに分ける必要がある。

以下では，それぞれの派生接辞を，(124) に示す順序で記述する。

5.4.1 使役接辞-*sase/sasu*

使役接辞-*sase/sasu*「〜させる」は，e/u 語幹としてふるまう。使役接辞が子音語幹に接続する場合，非拡張語幹に接続する。母音語幹に接続する場合，i 語幹，e 語幹ならば非拡張語幹に，e/u 語幹ならば非拡張 e 語幹に接続する。変格活用語幹に接続する場合，「来る」ならば *ko*-に，「する」ならば *s*-に接続する。

表 30. 使役接辞-*sase/sasu*

子音語幹		//kak-sasu-ru//→/kakasuru/	「書かせる」
母音語幹	i 語幹	//mi-sasu-ru//→/misasuru/	「見させる」
	e 語幹	//de-sasu-ru//→/desasuru/	「出させる」
	e/u 語幹	//tabe-sasu-ru//→/tabesasuru/	「食べさせる」
変格活用語幹		//ko-sasu-ru//→/kosasuru/	「来させる」
		//s-sasu-ru//→/sasuru/	「させる」

使役化に関しては，§ 13.6.1 を参照されたい。

5.4.2 受動接辞-*rare/raru*

受動接辞-*rare/raru*「〜される」は，e/u 語幹としてふるまう。子音語幹に接続する場合，非拡張語幹に接続する。母音語幹に接続する場合，それが i 語幹，e 語幹ならば非拡張語幹に接続し，e/u 語幹ならば，非拡張 e 語幹に接続する。変格活用語幹に接続する場合，「来る」ならば *ko*-に，「する」ならば *s*-に接続する。

表 31. 受動接辞-*raru/-rare*

子音語幹		//sawar-raru-ru//→/sawararuru/	「触れる」
母音語幹	i 語幹	//mi-raru-ru//→/miraruru/	「見られる」
	e 語幹	//de-raru-ru//→/deraruru/	「出られる」
	e/u 語幹	//kure-raru-ru//→/kureraruru/	「あげられる」
変格活用語幹		//ko-raru-ru//→/koraruru/	「来られる」
		//s-raru-ru//→/saruru/	「される」

受動化に関しては，§ 13.6.2 を参照されたい。

5.4.3　可能接辞

可能接辞には，*-kir* と*-rare/raru* の二種類がある。それぞれの機能的な違いに関しては，§ 13.8 を参照されたい。

5.4.3.1　*-kir*

可能接辞*-kir*「〜できる」は，r 語幹としてふるまう。可能接辞*-kir* が子音語幹に接続する場合，i 拡張語幹に接続する。母音語幹に接続する場合，i 語幹，e 語幹ならば非拡張語幹に接続し，e/u 語幹ならば非拡張 e 語幹に接続する。変格活用語幹に接続する場合，「来る」ならば *ki-*に，「する」ならば *si-*に接続する。

表 32. 可能接辞*-kir*

子音語幹		//kak-i-kir-ru//→/kakikiru/	「書ける」
母音語幹	i 語幹	//mi-kir-ru//→/mikiru/	「見られる」
	e 語幹	//de-kir-ru//→/dekiru/	「出られる」
	e/u 語幹	//tabe-kir-ru//→/tabekiru/	「食べられる」
変格活用語幹		//ki-kir-ru//→/kikiru/	「来られる」
		//si-kir-ru//→/sikiru/	「することができる」

5.4.3.2　*-rare/raru*

可能接辞*-rare/raru*「〜できる」は，e/u 語幹としてふるまう。子音語幹に接続する場合，非拡張語幹に接続する。母音語幹に接続する場合，それが i 語幹，e 語幹ならば非拡張語幹に接続し，e/u 語幹ならば，非拡張 e 語幹に接続する。変格活用語幹に接続する場合，「来る」ならば *ko-*に，「する」ならば *s-*に接続する。

表 33. 可能接辞*-raru/-rare*

子音語幹		//sawar-raru-ru//→/sawararuru/	「触れる」
母音語幹	i 語幹	//mi-raru-ru//→/miraruru/	「見られる」
	e 語幹	//de-raru-ru//→/deraruru/	「出られる」
	e/u 語幹	//kure-raru-ru//→/kureraruru/	「あげられる」
変格活用語幹		//ko-raru-ru//→/koraruru/	「来られる」
		//s-raru-ru//→/saruru/	「される」

5.4.4　アスペクト

アスペクトの接辞には，継続を表す*-yor* と完了を表す*-tor*，予期完了を表す*-tok*「〜しておく」の 3 種類があり，*-yor*，*-tor* は r 語幹として，*-tok* は k 語幹としてふるまう。それぞれの具体例に関しては，§ 13.5.2 を参照されたい。

5.4.4.1 *-yor*

-yor「〜している」は，子音語幹に接続する場合，子音語幹に接続する場合，i 拡張語幹に接続する。母音語幹に接続する場合，i 語幹，e 語幹ならば，非拡張語幹に接続し，e/u 語幹ならば，非拡張 e 語幹に接続する。変格活用語幹に接続する場合，「来る」ならば *ki-*に，「する」ならば *si-*に接続する。

表 34. 継続接辞*-yor*

子音語幹		//hur-i-yor-ru//→/huriyoru/	「降っている」
母音語幹	i 語幹	//mi-yor-ru//→/miyoru/	「見ている」
	e 語幹	//de-yor-ru//→/deyoru/	「出ている」
	e/u 語幹	//tabe-yor-ru//→/tabeyoru/	「食べている」
変格活用語幹		//ki-yor-ru//→/kiyoru/	「来ている」
		//si-yor-ru//→/siyoru/	「している」

5.4.4.2 *-tor*

-tor「〜している」が子音語幹に接続する場合，非拡張語幹に接続する。語幹末子音によって，§5.3.1.2 で示したものと同様の形態音韻規則が生じる。母音語幹に接続する場合，i 語幹，e 語幹ならば非拡張語幹に接続し，e/u 語幹ならば非拡張 e 語幹に接続する。変格活用語幹に接続する場合，「来る」ならば *ki-*に，「する」ならば *si-*に接続する。

表 35. 完了接辞*-tor*

子音語幹		//hur-tor-ru//→/huttoru/	「降っている」
母音語幹	i 語幹	//mi-tor-ru//→/mitoru/	「見ている」
	e 語幹	//de-tor-ru//→/detoru/	「出ている」
	e/u 語幹	//tabe-tor-ru//→/tabetoru/	「食べている」
変格活用語幹		//ki-tor-ru//→/kitoru/	「来ている」
		//si-tor-ru//→/sitoru/	「している」

5.4.4.3 -tok

-tok「〜しておく」が子音語幹に接続する場合，非拡張語幹に接続する。語幹末子音によって，§5.3.1.2 で示したものと同様の形態音韻規則が生じる。母音語幹に接続する場合，i 語幹，e 語幹ならば非拡張語幹に接続し，e/u 語幹ならば非拡張 e 語幹に接続する。変格活用語幹に接続する場合，「来る」ならば *ki-*に，「する」ならば *si-*に接続する。

表 36. 予期完了接辞-*tok*

子音語幹		//hasir-tok-ru//→/hasittoku/	「走っておく」
母音語幹	i 語幹	//mi-tok-ru//→/mitoku/	「見ておく」
	e 語幹	//de-tok-ru//→/detoku/	「出ておく」
	e/u 語幹	//tabe-tok-ru//→/tabetoku/	「食べておく」
変格活用語幹		//ki-tok-ru//→/kitoku/	「来ておく」
		//si-tok-ru//→/sitoku/	「しておく」

5.4.5 尊敬接辞

尊敬接辞には，*-nahar*，*-ras* がある。尊敬接辞の意味に関しては，§ 13.7 で述べる。

5.4.5.1 *-nahar*

-nahar「〜なさる」は r 語幹としてふるまい，子音語幹に接続する場合，i 拡張語幹に接続する。母音語幹に接続する場合，それが i 語幹，e 語幹ならば非拡張語幹に接続し，e/u 語幹ならば非拡張 e 語幹に接続する。変格活用語幹に接続する場合，「来る」ならば *ki-*に，「する」ならば *si-*に接続する。

表 37. 尊敬接辞-*nahar*

子音語幹		//or-i-nahar-ru//→/onnaharu/	「いらっしゃる」
母音語幹	i 語幹	//mi-nahar-ru//→/minaharu/	「見ていらっしゃる」
	e 語幹	//de-nahar-ru//→/denaharu/	「出ていらっしゃる」
	e/u 語幹	//tabe-nahar-ru//→/tabenaharu/	「食べていらっしゃる」
変格活用語幹		//ki-nahar-ru//→/kinaharu/	「いらっしゃる」
		//si-nahar-ru//→/sinaharu/	「なさる」

5.4.5.2 *-ras*

-ras「〜なさる」は s 語幹としてふるまうが，直説法否定接辞-*n*，推量法肯定接辞-*u*，また，継起肯定接辞-*te* など t で始まる屈折接辞をとる際に，他の s 語幹動詞と異なるふるまいを示す。具体例を，以下に示す。

(126) a. //or-ras-a-n//→/orassan/「いらっしゃらない」
cf. //sas-a-n//→/sasan/「指さない」

b. //or-ras-a-u//→/orassoo/「いらっしゃるだろう」
cf. //sas-a-u//→/sasoo/「指すだろう」

c. //or-ras-i-te//→/orasite/「いらっしゃって」
cf. //sas-te//→ sai-te →/seete/「指して」

本論文では，この不規則な形態的ふるまいをみせる接辞の基底形を-*ras* とみなし，-*n* と-*u* をとる際には接辞末の子音 s が重子音化し，t で始まる屈折接辞をとる際には接合辞-*i* をとると分析する。対立する分析として，この接辞の基底形を-*rass* とし，以下のように分析することも可能である。

(127) *-rass* 分析

a. //or-rass-a-n//→/orassan/「いらっしゃらない」
cf. //sas-a-n//→/sasan/「指さない」

b. //or-rass-a-u//→/orassoo/
cf. //sas-a-u//→/sasoo/「指すだろう」

c. //or-rass-te//→ or-rasi-te/→/orasite/
cf. //sas-te//→ sai-te →/seete/「指して」

基底形を*-rass* とみる分析では，s の重子音化や i の挿入という例外的な説明をする必要がなくなり，それぞれ*-rass* における ss という連続がそのまま現れたもの，二つ目の s が i に交替したものとみなすことが可能となる。ただし，この基底形を*-rass* とみなす分析を採用した場合は，動詞語基と非過去肯定接辞*-ru* との間で，語基末子音の削除という他の動詞語基との間には生じない現象が生じると分析する必要がある。

(128) //or-rass-ru//→ or-ras-ru → or-ras-u →/orasu/
cf. //sas-ru//→ sas-u →/sasu/

本論文では，この点を考慮して当該接辞の基底形を*-ras* であるとみなす。なお，当該形式は，福岡県八女市方言などの近隣方言でも，/osierassan/「お教えにならない」（藤 1970: 45 音素表記は筆者による）のように不規則な形態論的ふるまいを見せる。他方言の例及び通時的考察に関しては，神部（1992: 248-255）に詳しい。

-ras が子音語幹に接続する場合，非拡張語幹に接続する。母音語幹に接続する場合，それが i 語幹，e 語幹ならば非拡張語幹に接続し，e/u 語幹ならば非拡張 e 語幹に接続する。変格活用語幹に接続する場合，「来る」ならば *ko-*に，「する」ならば *s-*に接続する。

表 38. 尊敬接辞*-ras*

子音語幹		//or-ras-ru//→/orasu/	「いらっしゃる」
母音語幹	i 語幹	//mi-ras-ru//→/mirasu/	「見ていらっしゃる」
	e 語幹	//de-ras-ru//→/derasu/	「出ていらっしゃる」
	e/u 語幹	//kure-ras-ru//→/kurerasu/	「くださる」
変格活用語幹		//ko-ras-ru//→/korasu/	「いらっしゃる」
		//s-ras-ru//→/sasu/	「なさる」

5.5 存在動詞

存在動詞には *or-*「いる」と *ar-* 「ある」があり，主語が有生物の場合は *or-*が，無生物の場合は *ar-*が用いられる。

(129) *oziicyanga otta.*
oziicyan=ga or-ta

「おじいちゃんがいた。」【人間】

(130) *kogen* *hutoka* *wagudoono* *oriyottagenatanmo.*
kogen huto-ka wagudoo=no or-i-yor-ta=gena=tan=mo
こんなに 大きい-NPST ひきがえる=NOM いる-THM-PROG-PST=HS=SFP=POL

「こんなに大きいひきがえるがいたらしいよ。」【動物】

(131) *hatakeno* *ariyotta.*
hatake=no ar-i-yor-ta
畑=NOM ある-THM-PROG-PST

「畑があった。」【無生物】

or-は他の r 語幹動詞と同様の活用体系をもつ。*ar*-もおおむね他の r 語幹と同様の活用体系をもつが，否定接辞-*n* はとることができず，この場合には形容詞語根 *na*-「ない」を用いる。

5.6 コピュラ動詞

コピュラ動詞は，動詞，屈折形容詞，非屈折形容詞，名詞に後続する。本節では，§ 5.6.1 でコピュラ動詞の活用を記述し，§ 5.6.2 で動詞に後続するコピュラを記述する。屈折形容詞に後続するコピュラに関しては§ 6.1.3 を，非屈折形容詞に後続するコピュラに関しては§ 6.2 を，名詞に後続するコピュラに関しては§ 11.3 を参照されたい。

5.6.1 コピュラ動詞の活用

コピュラ動詞には，*=yar*，*=zyar* がある。両者に語形以外の違いがあるか否かは不明であるが，*=yar* の形式は主に話者 HK 氏が，*=zyar* の形式は主に話者 YM 氏が用いる。以下に，コピュラ動詞のパラダイムを，*=yar* を代表として示す。

表 39. コピュラ動詞のパラダイム

出現する環境	法		肯定	否定
文終止	直説法	非過去	=yar-ru	=ya (na-ka)
		過去	=yar-ta	=ya (na-katta)
	推量法	非過去	=yar-a-u	=ya (na-ka=yar-a-u)
		過去	=yar-ta=yar-a-u	=ya (na-katta=yar-a-u)
名詞修飾			=na	
動詞修飾			=ni	

なお，直説法非過去形は，(132) に示すように理由を表す接語*=ken* の前など一部の環境でのみ出現することができ，(133) に示すように，接語が後続しない場合には出現しない。

(132) *mukasino* *kotobayakken*
mukasi=no kotoba=yar-ru=ken
昔=GEN 言葉=COP-NPST=CSL

「昔の言葉だから」

(133) *cukuriyottacuwa* *nabana.*
cukur-i-yor-ta=cu=wa na+hana
作る-THM-PROG-PST=FMN=TOP 菜 + 花

「作っていたのは菜花。」

5.6.2 動詞に後続するコピュラ動詞

コピュラ動詞は，過去接辞-*ta* や推量接辞-*u* を伴って動詞に後続し，動詞の示す事象が過去の事態であることや，動詞の示す事象が推量されることを示す。動詞に過去接辞-*ta* をとったコピュラ動詞と推量接辞-*u* をとったコピュラ動詞が後続する場合，以下に示す順序で現れる。以下に示す構造のうち，=は接語境界を，-は接辞境界を示す。

(134) 動詞（=コピュラ動詞-ta）（=コピュラ動詞-u）

以下に，例を示す。

(135) *kakanyatta*
kak-a-n=yar-ta
書く-THM-NEG=COP-PST

「書かなかった」

(136) *keetayaroo*
kak-ta=yar-a-u
書く-PST=COP-THM-INFR

「書いただろう」

(137) *kakanyattayaroo*
kak-a-n=yar-ta=yar-a-u
書く-THM-NEG=COP-PST=COP-THM-INFR

「書かなかっただろう」

動詞が時制によって屈折できない場合（例：直接法否定）には，過去接辞-*ta* をとったコピュラ動詞が過去であることを示す。動詞が文終止・名詞修飾の環境に出現する屈折接辞をとる場合には，コピュラ動詞が推量接辞-*u* をとって推量であることを示す。以下に，コピュラ動詞が後続しうる動詞の屈折を示す。

表 40. コピュラ動詞が後続しうる動詞の屈折

出現する環境	動詞の屈折	コピュラ-ta	コピュラ-u
文終止・名詞修飾	直説法非過去	×（ *kakuyatta）	○（kakuyaroo）
	直説法過去	×（ *keetayatta）	○（keetayaroo）
	直説法否定	○（kakanyatta）	○（kakanyaroo）
	義務法	○（kakayanyatta）	○（kakayanyaroo）
文終止	推量法	×（ *kakooyatta）	×（ *kakooyaroo）
	意志法	×（ *kakooyatta）	×（ *kakooyaroo）
	命令法	×（ *kakeyatta）	×（ *kakeyaroo）

動詞やコピュラ動詞が過去肯定接辞-*ta* をとったものと，コピュラが推量接辞-*u* をとったものが縮約し，以下のような形式で現れる場合がある。

表 41. 過去肯定接辞とコピュラ推量形の縮約形

子音語幹		/keetaroo/	「書いただろう」
母音語幹	i 語幹	/mitaroo/	「見ただろう」
	e 語幹	/detaroo/	「出ただろう」
	e/u 語幹	/tabetaroo/	「食べただろう」
変格活用語幹		/kitaroo/	「来ただろう」
		/sitaroo/	「しただろう」
コピュラ動詞		/kakanyattaroo/	「書かなかっただろう」

6　形容詞類の構造と体系

本章では，形容詞類の構造と体系を記述する。形容詞類は，屈折形容詞と非屈折形容詞から成る。この二つは異なる語類に属するが（§ 3.4.4，§ 3.4.5），主に物の性質（Property Concept；Thompson 1988: 168）という意味を表す点で共通している。よって，本論文ではこれら二つの語類を合わせて記述する。

6.1　屈折形容詞の構造と体系

屈折形容詞は，以下のような構造をとる。

(138)　屈折形容詞語幹-屈折接辞

屈折形容詞は，文終止の環境において，時制で屈折する。否定を表す場合は，屈折形容詞が副詞化接辞-*u* をとり，それに否定の意味を表す補助形容詞 *na*-「ない」が続く。屈折形容詞が副詞化接辞-*u* をとる場合は，§ 7.4 で記述する。以下に，屈折形容詞の活用体系を示す。

表 42. 屈折形容詞がとる屈折接辞

出現する環境	法		
文終止・名詞修飾	直説法	非過去肯定	-ka
		過去肯定	-katta
副詞節		条件	-kattara
		並列	-kattai

屈折接辞の多くには *ka* という要素が含まれるが，これは，これらの屈折接辞が通時的には接辞-*ku* と動詞 *ar*-「ある」を語彙的資源とするためである（吉町 1931: 58，神部 1980: 536）。ただし，現代の共時態では，屈折形容詞は，*ar*-「ある」などの動詞がとる接辞（例：非過去肯定接辞-*ru*，継起肯定接辞-*te*，継起否定接辞-*zi*）に対応する形（例：**haya-karu*，**haya-katte*，**haya-karazi*）をとらない。

6.1.1 直説法

直説法非過去肯定接辞-*ka* の例を，以下に示す。直説法非過去肯定に用いられる形式は，名詞修飾の際にも用いられる。

(139) a. 文終止

taroowa *asino* *hayaka.*
taroo=wa asi=no haya-ka
太郎=TOP 足=NOM 速い-NPST

「太郎は足が速い。」

b. 名詞修飾

hayaka *hitoga* *urayamasikatanmo.*
haya-ka hito=ga urayamasi-ka=tan=mo
速い-NPST 人=NOM うらやましい-NPST=SFP=POL

「（私は足が遅いから）速い人が羨ましい。」

直説法過去接辞-*katta* の例を，以下に示す。

(140) *taroowa* *izenna* *asino* *hayakattabai.*
taroo=wa izen=wa asi=no haya-katta=bai
太郎=TOP 以前=TOP 足=NOM 速い-PST=SFP

「太郎は昔は足が速かったよ。」

6.1.2 副詞節

条件接辞-*kattara* と並列接辞-*kattai* の例を，以下に示す。

(141) *asino* *hayakattara* *yokattabatten*
asi=no haya-kattara yo-katta=batten
足=NOM 速い-CND よい-PST=ADVRS

「足が速かったらよかったけれど（実際はそうではなかった）」

(142) *asino* *hayakattai* *osokattai* *iroiro* *orooga.*
asi=no haya-kattai oso-kattai iroiro or-a-u=ga
足=NOM 速い-PARA 遅い-PARA いろいろ いる-THM-INFR=CNF

「足が速かったり遅かったりいろんな人がいるじゃない？」

6.1.3 屈折形容詞に後続するコピュラ

直説法の形をとった屈折形容詞に，コピュラ動詞が推量接辞-*u* をとったものが後続し，推量の意味を表す場合がある。以下に，例を示す。

(143) *kitto* *asino* *hayakayaroo.*
kitto asi=no haya-ka=yar-a-u
きっと 足=NOM 速い-NPST=COP-THM-INFR

「きっと足が速いだろう。」

(144) *asino* *hayakattayaroo.*
asi=no haya-katta=yar-a-u
足=NOM 速い-PST=COP-THM-INFR

「足が速かっただろう。」

なお，(143) における *hayakayaroo*，(144) における *hayakattayaroo* は，それぞれ *hayakaroo*，*hayakattaroo* のように現れる場合がある。*hayakaroo*，*hayakattaroo* のような例は，(143) における *hayakayaroo*，(144) における *hayakattayaroo* が縮約したものと解釈する。

6.1.4 習慣相過去接辞

本節では，接辞-*kariyotta* について記述する。この形式がもつ具体的な意味は現時点で不明だが，自然談話中では過去の習慣的な事象を回想する場面でよく用いられる。このため，現時点では-*kariyotta* に-HAB.PST というグロスを付す。以下に，-*kariyotta* が用いられている例を示す。

(145) a. *hayakariyotta.*
haya-kariyotta
速い-HAB.PST

「（農業をしていたころを思い出しながら）（作業ペースが）速かった。」

b. *isogasikariyottayo.*
isogasi-kariyorta=yo
忙しい-HAB.PST=SFP

「（農業をしていたころは，ずっと）忙しかったよ。」

c. *hidarukariyottayo.*
hidaru-kariyotta=yo
ひもじい-HAB.PST=SFP

「（農業をしていたころ，朝ご飯を食べるのが早かったので，昼ご飯前は）ひもじかったよ。」

現時点では*-kariyotta* をひとまとまりの接辞であるとみなしている。ただし，*-kariyotta* をひとまとめにする分析の他に，例えば*-kariyor* と動詞過去接辞*-ta* に切り出すような分析も考えられる。*-kariyotta* の内部構造をどう分析するかは，今後の課題である。

なお，形容詞が*-yor* と同根の接辞をとる現象は，熊本県下益城郡松橋町（村上 2004），鹿児島県甑島里方言（松丸 2019: 29）など他の九州方言でも生じる。松橋町方言における当該形式は過去・現在の反復習慣，過去・現在の一時的現象を表す際に用いられており（村上 2004: 200），柳川方言においても*-kariyotta* が同様の機能をもつ可能性があるが，未検証である。

6.2 非屈折形容詞の構造と体系

非屈折形容詞の構造を，以下に示す以下に示す。以下に示す構造中の=は，接語境界を示す。

(146) 非屈折形容詞（=コピュラ）

以下に，非屈折形容詞に後続するコピュラの活用を示す。

表 43. 非屈折形容詞に後続するコピュラの活用（例は=*yar*）

出現する環境	法	時制	肯定	否定
文終止	直説法	非過去	=yar-ru	=ya (na-ka)
		過去	=yar-ta	=ya (na-katta)
	推量法	非過去	=yar-a-u	=ya (na-ka=yar-a-u)
		過去	=yar-ta=yar-a-u	=ya (na-katta=yar-a-u)
名詞修飾			=na	
動詞・形容詞修飾			=ni	

6.2.1 直説法

以下に，直説法の例を示す。直説法非過去肯定の場合はコピュラの出現に制限があり，理由を表す接語=*ken* など一部の環境でのみコピュラが生じる。

(147) 直説法非過去肯定

a. *ano hanawa kiree.*
ano hana=wa kiree
あの 花=TOP きれい

「あの花はきれいだ。」

b. *antawa kireeyaken*
anta-ϕ=wa kiree=yar-ru=ken
2-SG=TOP きれい=COP-NPST=CSL

「あなたはきれいだから」

(148) 直説法非過去否定

kireeya *nakamon.*

kiree=ya na-ka=mon

きれい=COP ない-NPST=SFP

「きれいじゃないもの。」

(149) 直説法過去肯定

an *hanawa* *kireeyatta.*

an hana=wa kiree=yar-ta

あの 花=TOP きれい=COP-PST

「あの花はきれいだった。」

(150) 直説法過去否定

mukasiwa *kogen* *kireeya* *nakatta.*

mukasi=wa kogen kiree=ya na-katta

昔=TOP こんなに きれい=COP ない-PST

「昔はこんなにきれいじゃなかった。」

6.2.2 名詞修飾と動詞・形容詞修飾

以下に，非屈折形容詞が名詞を修飾する例と，動詞・形容詞を修飾する例を示す。

(151) 名詞修飾

kireena *hana*

kiree=na hana

きれい=COP.ADN 花

「きれいな花」

(152) 動詞・形容詞修飾

mazimeni *hataraku.*

mazime=ni hatarak-ru

真面目=COP.ADVLZ 働く-PF-NPST

「真面目に働く。」

6.3 屈折形容詞としても非屈折形容詞としてもふるまう語根

前節まで，屈折形容詞と非屈折形容詞という二つの語類を設定し，それぞれの構造と体系を記述した。本節では，これら二つの語類にまたがって出現する語根があることを指摘する。

柳川方言において，*taka-*「高い」，*haya-*「速い，早い」などの語根は接辞をとり屈折する，すなわち屈折形容詞としてふるまう。一方，*kiree*「きれい」，*sicuree*「失礼」，*mazime*「まじめ」，*zyoozu*「上

手」などの語根は，一部の環境（例：補助動詞構文の主要部）では非屈折形容詞としてしか実現しないが，他の環境（例：非過去文終止）では屈折形容詞と非屈折形容詞の両方として実現しうる。すなわち，同じ語根から成る語が，2 つの語類にまたがって実現する。以下に，*kiree* が補助動詞構文の主要部となる例と非過去文終止の環境にある例を示す。

(153) a. 補助動詞 *nar*-を補助要素とする場合

{*kireeni/*kireeu*}	*nattoru.*
{kiree=ni/*kiree-u}	nar-tor-ru
{ きれい=COP.ADVLZ/*きれい-ADVLZ}	なる-PF-NPST

「きれいになっている。」

b. 直説法非過去肯定

an	*hanawa*	{*kiree/kireeka*}.
an	hana=wa	{kiree/kiree-ka}
あの	花=TOP	{ きれい/きれい-NPST}

「あの花はきれいだ。」

ある語根が非屈折形容詞としても屈折形容詞としてもふるまうという現象は他の肥筑方言にも見られ（九州方言研究会 1969: 85，神部 1980: 541，小野 1983: 106，愛宕 1994），通時的にはかつて非屈折形容詞としてしか実現しなかった語根が屈折形容詞と同じ接辞をとるようになりつつあると分析されている（神部 1980: 541）。近隣方言である佐賀方言[17]では，この変化がさらに進み，動詞・形容詞修飾の際にコピュラ=*ni* と接辞-*u* をいずれもとることができる語根があるが（小野 1983），柳川方言においては同様の語根は確認していない。

(154) 佐賀方言（小野 1983: 106）

a. //rippa-u//→/rippoo/「立派に」（小野 1983: 106 音素表記・形態素分析は筆者による）

b. //rippa=ni//→/rippani/「立派に」（小野 1983: 106 音素表記・形態素分析は筆者による）

kiree などの語根が屈折形容詞として実現する場合と，非屈折形容詞として実現する場合とに意味的な差があるか否かは不明である。

7 品詞の転換

本章では，品詞転換を生じさせる接辞，すなわち特定の品詞の語基を入力元とし，品詞を転換させる接辞を概観する。

7.1 屈折形容詞の動詞化

接辞-*gar* は，屈折形容詞語基を動詞化する。

[17] 詳細な地域は，小野 （1983）には明示されていない。

(155) *kawaigariyotta.*
kawai-gar-i-yor-ta
かわいい-VLZ-THM-PROG-PST

「かわいがっていた。」

7.2 動詞の屈折形容詞化

接辞-*ta* は，動詞語基を屈折形容詞化し，願望を表す。

(156) *oraa* *doramaba* *mitaka.*
ori=wa dorama=ba mi-ta-ka
1.SG=TOP ドラマ=ACC 見る-ADJLZ-NPST

「私はドラマが見たい。」

7.3 屈折形容詞の名詞化

接辞-*sa* は，屈折形容詞語基を名詞化する。

(157) *hutosano* *aru.*
huto-sa=no ar-ru
大きい-NMLZ=NOM ある-NPST

「（親指の爪くらいの）大きさがある。」

-*sa* は，感嘆表現にも用いられる。-*sa* を用いた感嘆表現は，肥筑方言を中心とした他の九州方言（住田 1986，井上 1993: 7，濱中 2000，坂田 2004）においても生じる[18]。

(158) *baa* *essa.*
baa esu-sa
まあ 怖い-NMLZ

「まあ，怖いこと！」

7.4 屈折形容詞の副詞化

副詞化接辞-*u* は，屈折形容詞を副詞（§ 3.4.9）にする。屈折形容詞が副詞化された形式は，動詞を修飾する際に用いられるほか，補助動詞・補助形容詞構文（§ 11.2.1.1）や軽動詞構文（§ 11.2.1.2）の意味的な主要部となる。屈折形容詞に-*u* が後続したとき，語基末の母音と-*u* の間で母音融合（§ 2.3.4）が生じる。

[18] 住田（1986: 4）は接尾辞-*sa* による詠嘆法を九州方言に特有のものだと指摘しているが，北琉球奄美語湯湾方言（Niinaga 2014: 60），南琉球宮古語伊良部島方言（下地 2018: 212-213）などの琉球諸語でも生じる。

(159) 動詞を修飾する例

hayo	*hasire.*
haya-u	hasir-re
早い-ADVLZ	走る-IMP

「（ぐずぐずしないで）早く走れ。」

(160) 補助動詞構文の意味的な主要部となる例

asino	*hayo*	*naroobatten.*
asi=no	haya-u	nar-a-u=batten
足=NOM	速い-ADVLZ	なる-THM-INFR=ADVRS

「足が速くなるだろうけれど。」

(161) 補助形容詞構文の意味的な主要部となる例

taroowa	*asino*	*hayo*	*naka.*
taroo=wa	asi=no	haya-u	na-ka
太郎=TOP	足=NOM	速い-ADVLZ	ない-NPST

「太郎は足が速くない。」

(162) 軽動詞構文の意味的な主要部となる例

asino	*hayo*	*site*	*ukuttomo*	*nmaka.*
asi=no	haya-u	si-te	uku-ru=to=mo	nma-ka
足=NOM	速い-ADVLZ	する-SEQ	受ける-NPST=FMN=ADD	うまい-NPST

「（野球選手に対して）足が速くて守備も上手だ。」

7.5 動詞の名詞化（転成）

母音語幹動詞の非拡張語幹，子音語幹動詞の i 拡張語幹は，転成名詞としてふるまう。転成名詞は，多くの場合，複合名詞（§ 3.5.1.1）の内部要素となる。

(163)

ganezukeba	*tabete*
gane+cuke=ba	tabe-te
蟹 + 漬ける=ACC	食べる-SEQ

「蟹の塩辛を食べて」

(164) *ziicyanto* *huteri* *nookyoodasiba* *surugoto* *motte*
ziicyan=to hute-ri nookyoo+das-i=ba su-ru=goto mot-te
おじいちゃん=COM 二-CLF 農協 + 出す-THM=ACC する-NPST=FMN もつ-SEQ
kiyotta.
ki-yor-ta
来る-PROG-PST

「おじいちゃん（話し手の夫，聞き手の祖父）と二人，農協に出品するためにもってきていた。」

8 その他の語類

本章では，連体詞，副詞，間投詞を記述する。

8.1 連体詞

連体詞（§ 3.4.2）の多くは，指示様態連体詞（§ 9.1.3），指示連体詞（§ 9.1.4），疑問様態代名詞（§ 9.2.3），疑問連体詞（§ 9.2.4）である。これまでの調査で見つかった指示語や疑問語と関連の無い連体詞は，*honna*「本当の」のみである。以下に例を示す。

(165) *honna* *sinyuuya* *nakato* *iwarenbatten*
honna sinyuu=ya na-ka=to yuw-rare-n=batten
本当の 親友=COP ない-NPST=CND 言う-PASS-NEG=ADVRS

「本当の親友じゃないと言えないけど」

8.2 副詞

副詞（§ 3.4.9）の多くは，屈折形容詞から派生された副詞（§ 7.4），指示様態副詞（§ 9.1.5），疑問様態副詞（§ 9.2.7），疑問理由副詞（§ 9.2.8）である。指示語や疑問語と関連の無い副詞には，*basaraka*「とても」，*gyan*「とても」，*citto/cyotto*「少し」，*iccyon*「少しも」，*issyookenmee*「一生懸命」，*mada*「まだ」，*honnakote*「本当に」がある。以下に例を示す。

(166) *asino* *basaraka* *hayakayaroo.*
asi=no basaraka haya-ka=yar-a-u
足=NOM とても 速い-NPST=COP-THM-INFR

「足がとても速いだろう。」

(167) *gyan* *sugoka.*
gyan sugo-ka
とても すごい-NPST

「とてもすごい。」

(168) *citto zidaino zurete kitakenzyaroo.*
citto zidai=no zure-te ki-ta=ken=zyar-a-u
少し 時代=NOM ずれる-SEQ くる-PST=CSL=COP-THM-INFR

「ちょっと時代がずれてきたからだろう。」

(169) *son toki iccyon hara kakadena*
son toki iccyon hara kak-a-dena
その 時 少しも 腹 掻く-THM-NEG.SEQ

「その時，少しも腹を立てないで」

(170) *issyookenmee gamadeetottaken*
issyookenmee gamadas-tor-ta=ken
一生懸命 がんばる-PF-PST=CSL

「一生懸命頑張っていたから」

(171) *watasidonga mada wakka hanawa seenenno ottaken*
watasi-don=ga mada waka-ka hana=wa seenen=no or-ta=ken
1-PL=NOM まだ 若い-NPST はじめ=TOP 青年=NOM いる-PST=CSL

「私たちがまだ若いころは，青年がいたから」

(172) *sosiken baacyanto ziicyanto itatte mitara honnakote*
sosiken baacyan=to ziicyan=to itar-te mi-tara honnakote
だから おばあちゃん=COM おじいちゃん=COM 行く-SEQ みる-CND 本当に
sindottaci.
sin-tor-ta=ci
死ぬ-PF-PST=QT

「だからおばあちゃんとおじいちゃんとで行ってみたら，本当に死んでいたって。」

8.3 間投詞

間投詞（§ 3.4.8）には，*nnya*「いや」，*baa*「まあ」，*nomo*「ね」のほか，重複されていないオノマトペが含まれる。これらは，引用助詞=*ci/cci* によってのみ節に埋め込まれる。

(173) *cyotto sicicci sita.*
cyotto sici=cci si-ta
ちょっと ちく=QT する-PST

「(蜂に刺されたとき,) ちょっとちくっとした。」

9　品詞をまたぐ機能類

本章では，複数の語類にまたがった体系を持つ語のグループ，すなわち機能類（下地　2018）を記述する。機能類には指示語と疑問語がある。

9.1　指示語

指示語は，以下のような体系をもつ。なお，指示語に関しては自然談話中からデータを収集するのみにとどまっているため，詳細な使い分けは不明である。

表 44. 指示語の体系

	近称	中称	遠称
指示代名詞	kori/kore	sori/sore	ari/are
指示場所名詞	koko	soko	asuko/asoko
指示様態連体詞	kogenka/kenka	sogenka/senka	agenka
指示連体詞	kono/kon	sono/son	ano/an
指示様態副詞	kogen/ken/koo	sogen/sen/soo	agen/aa

指示語は，近称・中称・遠称に区分される。指示対象が話し手の近くにある場合は近称が，聞き手の近くにある場合は中称が，話し手からも聞き手からも遠い場合には遠称が用いられる。後述するように，中称と遠称は，文脈を指示する際にも用いられる。

9.1.1　指示代名詞

指示代名詞の例を，以下に示す。指示代名詞のうち，中称と遠称は，現場指示だけでなく文脈指示にも用いられる。

(174)　*koriba*　*cyotto*　*mite*　*minka.*
kori=ba　cyotto　mi-te　mi-n=ka
これ=ACC　ちょっと　見る-SEQ　見る-NEG=Q

「（話し手が手にもっているものを聞き手に見せながら）これをちょっと見てみないか。」

(175)　a.　*soriba*　*cyotto*　*mite*　*minnara.*
sori=ba　cyotto　mi-te　mi-ru=nara
それ=ACC　ちょっと　見る-SEQ　見る-NPST=CND

「（聞き手の近くにあるものに対して）それをちょっと見てみたら？」

b.　*soriga*　*honna*　*monno*　*mukasino*　*kotoba.*
sori=ga　honna　mon=no　mukasino　kotoba
それ=NOM　本当の　もの=GEN　昔=GEN　言葉

「（先行文脈で導入された/myuu/「見よう」という言い方を指示し）それが本当の昔の言葉。」

(176) a. *ariba* *mite* *minka.*
ari=ba mi-te mi-n=ka
あれ=ACC 見る-SEQ 見る-NEG=Q

「あれを見てみないか。」

b. *ariga* *oriba* *sikaesini* *kita.*
ari=ga ori-ϕ=ba sikaesi=ni ki-ta
あれ=NOM 1-SG=ACC 仕返し=DAT 来る-PST

「（先行文脈で導入された人物を指示し，）そいつが俺のところに仕返しに来た。」

9.1.2 指示場所名詞

指示場所名詞の例を，以下に示す。

(177) *kokon* *nikino* *kotoba*
koko=n niki=no kotoba
ここ=GEN あたり=GEN 言葉

「ここのあたりの言葉」

(178) *sokoba* *senryoo* *sitatto* *kawarantai.*
soko=ba senryoo si-ta=cu=to kawar-a-n=tai
そこ=ACC 占領 する-PST=FMN=COM 変わる-THM-NEG=SFP

「そこを占領したのと一緒だよ。」

(179) *nekono* *asukoni* *oru.*
neko=no asuko=ni or-ru
猫=NOM あそこ=DAT いる-NPST

「猫があそこにいる。」

9.1.3 指示様態連体詞

指示様態連体詞の例を，以下に示す。

(180) a. *kogenka* *ieniwa* *orantanmo.*
kogenka ie=ni=wa or-a-n=tan=mo
こんな 家=DAT=TOP いる-THM-NEG=SFP=POL

「（ネズミは）こんな（新しい）家にはいないよ。」

b. *kenka* *kotoba* *cukotaccya* *wakaranyo.*
kenka kotoba cukaw-ta=ccya wakar-a-n=yo
こんな 言葉 使う-PST=? わかる-THM-NEG=SFP

「（福岡市から来た人に対しては）こんな言葉を使ってもわからないよ。」

(181) a. *dosi sogenka soburiba sasitayarooka.*
dosi sogenka soburi=ba s-ras-i-ta=yar-a-u=ka
なぜ そんな 素振り=ACC する-HON-IFX-PST=COP-THM-INFR=Q

「なんでそんな素振りをなさったのか。」

b. *senka kocuwa yuwanyo.*
senka kocu=wa yuw-a-n=yo
そんな こと=TOP 言う-THM-NEG=SFP

「そんなことは言わないよ。」

(182) *agenka soburi sarete*
agenka soburi s-rare-te
あんな 素振り する-PASS-SEQ

「あんな対応をされて」

9.1.4 指示連体詞

指示連体詞の例を，以下に示す。

(183) *kono hutoka ziiwa mekkakarubatten*
kono huto-ka zi=wa mekkakar-ru=batten
この 大きい-NPST 字=TOP 見える-NPST=ADVRS

「この大きい字は見えるけど」

(184) *sono tonanno itokoga*
sono tonari=no itoko=ga
その 隣=GEN いとこ=NOM

「その隣のいとこが」

(185) *ano koyawa borongota.*
ano koya=wa boro=n=goto=ar-ru
あの 小屋=TOP ボロ=GEN=FMN=ある-NPST

「あの小屋はボロだ。」

9.1.5 指示様態副詞

指示様態副詞の例を，以下に示す。*kogen* のような形と，*koo* のような形の意味的な違いは不明である。

(186) a. *kogen yuwasitabai*
kogen yuw-ras-i-ta=bai
こう　言う-HON-IFX-PST=SFP

「こんなふうにおっしゃったよ。」

b. *tokidoki koo nozokiwa siyonnahatta.*
tokidoki koo nozok-i=wa si-yor-i-nahar-ta
時々　こう 覗く-THM=TOP する-PROG-THM-HON-PST

「時々こう覗きはしていらっしゃった。」

(187) a. *sogen omota kon nakaken.*
sogen omow-ta kocu na-ka=ken
そう　思う-PST こと ない-NPST=CSL

「そう思ったことはないから。」

b. *sen yuuta kon nakamon.*
sen yuw-ta kocu na-ka=mon
そう 言う-PST こと ない-NPST=SFP

「そう言ったことはないもの。」

(188) *kizuno cukankengara agen siyonnahattoyaroo.*
kizu=no cuk-a-n=kengara agen si-yor-i-nahar-ru=to=yar-a-u
傷=NOM つく-THM-NEG=CSL あんなに する-PROG-THM-HON-NPST=FMN=COP-THM-INFR

「傷がつかないから，ああいうふうになさっている（布でくるんでいる）んだろう。」

9.2 疑問語と不定語

以下に，疑問語の体系を示す。なお，疑問語に関しては自然談話中からデータを収集するにとどまっているため，以下の表に示していない語形が存在する可能性が高い。

表 45. 疑問語の体系

疑問代名詞	人	dari/dare
	もの	nan
疑問場所名詞		doko
疑問様態連体詞		dogenka/denka
疑問連体詞		don
疑問時間名詞		icu
疑問選択名詞		docci
疑問様態副詞		dogen/doo
疑問理由副詞		dosi/nasi

9.2.1　疑問代名詞

人を対象とした疑問代名詞は，*dari/dare* である。疑問代名詞が複数の対象を指す場合に，どのような形態論的手法で複数を標示するのかは不明である。

(189)　*dariga*　*miyoba*　*kurasitacuka.*
dari=ga　miyo=ba　kuras-i-ta=cu=ka
誰=NOM　ミヨ=ACC　殴る-IFX-PST=SFP=Q

「誰がミヨを殴ったのか？」

不定の人を表す場合には，疑問代名詞に疑問詞=*ka* を接続させた *darika* が用いられる。

(190)　*detanara*　*dareka*　*oroo.*
de-ta=nara　dare=ka　or-a-u
出る-PST=CND　誰=Q　いる-THM-INFR

「（家を）出たら，誰かいるだろう。」

ものを対象とした疑問代名詞は，*nan* である。

(191)　*nan*　*kakooka.*
nan　kak-a-u=ka
何　書く-THM-INFR=Q

「何を書こうか。」

不定のものを表す場合には，疑問代名詞 *nan* に疑問詞=*ka* を接続させた *nanka* が用いられる。

(192)　*kozikka*　*nankani*　*nottorurasii.*
koziki=ka　nan=ka=ni　nor-tor-ru=rasi-i
古事記=Q　何=Q=DAT　乗る-PF-NPST=HS-NPST

「古事記か何かに載っているらしい。」

9.2.2　疑問場所名詞

疑問場所名詞は，*doko* である。

(193)　*dokosan*　*kitonnaharukane.*
doko=san　ki-tor-i-nahar-ru=ka=ne
どこ=ALL　来る-PF-THM-HON-NPST=Q=SFP

「どこへ来ていらっしゃるかな。」

不定の場所を表す場合には，疑問代名詞 *doko* に疑問詞=*ka* を接続させた *dokoka* が用いられる。

(194) *cyotto* *dokoka* *warukagetto* *kiyonnaharuyakkanmo.*
cyotto doko=ka waru-ka=getto ki-yor-i-nahar-ru=yar-ru=kan=mo
ちょっと どこ=Q 悪い-NPST=CND 来る-PROG-THM-HON-NPST=COP-NPST=Q=POL

「(お年寄りは病院に) ちょっとどこか悪いといらっしゃるじゃない。」

9.2.3 疑問様態連体詞

疑問様態連体詞は，*dogenka*，*denka* である。

(195) *dogenka* *hitozyai* *wakaranyakka* *nomo.*
dogenka hito=zyai wakar-a-n=yar-ru=ka nomo
どんな 人=Q わかる-THM-NEG=COP-NPST=Q ねえ

「どんな人かわからないじゃない？ ねえ。」

(196) *denka* *monzyai* *wakaranken* *sicureekayakka.*
denka mon=zyai wakar-a-n=ken sicuree-ka=yar-ru=ka
どんな もの=Q わかる-THM-NEG=CSL 失礼-NPST=COP-NPST=Q

「どんな人かわからないから，(無視すると) 失礼じゃないか。」

9.2.4 疑問連体詞

疑問連体詞は，*don* である。

(197) *tosino* *don* *guree* *cigauka.*
tosi=no don guree cigaw-ru=ka
年齢=NOM どの くらい 違う-NPST=Q

「(協力的でない年下の人間に対して) 年齢がどれくらい違うか。」

9.2.5 疑問時間名詞

疑問時間名詞は，*icu* である。

(198) *icu* *kaette* *kuruka.*
icu kaer-te ku-ru=ka
いつ 帰る-SEQ くる-NPST=Q

「いつ帰ってくるか。」

9.2.6 疑問選択名詞

疑問選択名詞は，*docci* である。

(199) *usagito* *kamesanna* *docciga* *norokakane.*
usagi=to kame-san=wa docci=ga noro-ka=ka=ne
ウサギ=COM カメ-HON=TOP どっち=NOM のろい-NPST=Q=SFP

「(昔話「ウサギとカメ」に関して) ウサギとカメさんはどっちがのろいんだっけ。」

9.2.7 疑問様態副詞

疑問様態副詞は，*dogen*，*doo* である。

(200) *dogen* *yuunara* *yokayarooka.*
dogen yuw-ru=nara yo-ka=yar-a-u=ka
どう 言う-NPST=CND よい-NPST=COP-THM-INFR=Q

「どう言ったらいいんだろう。」

(201) *doo* *naruzyakaci* *baacyanna* *omoiyotta.*
doo nar-ru=zyar-ru=ka=ci baacyan=wa omow-i-yor-ta
どう なる-NPST=COP-NPST=Q=QT おばあちゃん=TOP 思う-THM-PROG-PST

「どうなるだろうかとおばあちゃん（話し手）は思っていた。」

9.2.8 疑問理由副詞

疑問理由副詞は，*dosi*，*nasi* である。(203)，(205) に示すように，疑問理由副詞に理由を表わす接語 *=ken* が接続する場合もある。

(202) *dosi* *sindaka.*
dosi sin-ta=ka
なぜ 死ぬ-PST=Q

「(飼っている犬が死んで) どうして死んだのか。」

(203) *dosiken* *omaewa* *kenka* *sigocuba* *sikiruka.*
dosi=ken omae-ϕ=wa kenka sigocu=ba si-kir-ru=ka
なぜ=CSL 2-SG=TOP こんな 仕事=ACC する-POT-NPST=Q

「なぜおまえはこんな仕事ができるのか。」

(204) *nasi* *esukanoo.*
nasi esu-ka=noo
なぜ 怖い-NPST=SFP

「なんで怖いの？」

(205) *origa* *nasiken* *gamadasayanka.*
ori-ϕ=ga nasi=ken gamadas-a-yan=ka
1-SG=NOM なぜ=CSL がんばる-THM-OBL=Q

「私がなぜがんばらないといけないのか。」

10 名詞句

名詞句は，項となったり，述語の位置にたって名詞述語を形成したりする。以下では，名詞句の基本構造を示し，名詞句に接続する格助詞，取り立て助詞の記述を行う。

10.1 名詞句の基本構造

名詞句の基本構造を，以下に示す。以下に示す構造中の=は，接語境界を示す。

(206) <<（修飾部）主要部>$_{\text{NP}}$ =格> $_{\text{EXNP}}$

名詞句は，（修飾部 +）主要部という構造をもち，それに格助詞が接続して拡張名詞句（Extended NP；下地 2018: 95）を形成する。述語として機能する場合には，名詞句にコピュラ動詞が接続する場合と，拡張名詞句にコピュラ動詞が接続する場合がある（§ 11.3）。

10.2 名詞句の従属部

名詞句の従属部には，連体詞，名詞と属格助詞から成る名詞句や，動詞や形容詞を主要部とする連体節がたつ。それぞれの例を，以下に示す。

(207) *senka* *hito*
senka hito
そんな 人

「そんな人」

(208) *ryookaino* *hito*
ryookai=no hito
両開=GEN 人

「両開（地名）の人」

(209) *hitoto* *hanasu* *toki*
hito=to hanas-ru toki
人=COM 話す-NPST 時

「人と話す時」

(210) *sewa siyonnaharu* *hito*
sewa si-yor-i-nahar-ru hito
世話 する-PROG-THM-HON-NPST 人

「世話をなさっている人」

10.3 名詞句の主要部

名詞句の主要部には，名詞類が立つ。名詞類のうち，具体的な意味をもたない形式名詞には，*=cu/to*，*=gocu/goto*，*huu*，*kocu/koto*，*toki*，*niki*，*guree* があり，これらも名詞句の主要部に立つ。

10.3.1 形式名詞

以下では，名詞句の主要部に立つ形式名詞を概観する。

10.3.1.1 *=cu/to*

形式名詞*=cu/to* の例を，以下に示す。これらの形式名詞のうち，少なくとも*=cu* は人と物の両方を指示対象としてとれることを確認している。

(211) *=cu*

a. 人を指す例
asino *hayakacu*
asi=no haya-ka=cu
足=NOM 速い-NPST=FMN

「足が速い人」

b. 物を指す例
omaedongacu
omae-don=ga=cu
2-PL=GEN=FMN

「あなたたちのもの」

(212) *=to*
sitanto
sita=n=to
下=GEN=FMN

「下のもの」

近隣方言である熊本市方言では，*=cu/to* のどちらが用いられるかに形態音韻的側面や意味的側面が影響すると指摘されているが（坂井 2012），柳川方言において同様の使い分けが生じるのかは不明である。形式名詞の異形態に関して，*=cu/to* に見られるような形態素末音節が cu と to で交替する現象は，次節以降で見る*=gocu/goto*（§ 10.3.1.2），*kocu/koto*（§ 10.3.1.4）でも平行的に見られる。

10.3.1.2 =*gocu/goto*

形式名詞=*gocu/goto* は，副詞節を形成する。形式名詞=*gocu/goto* の例を，以下に示す。

(213) *sogen* *ogottagocu* *site* *yuuta* *kocaa* *nakakennomo.*
sogen ogor-ta=gocu si-te yuw-ta kocu=wa na-ka=ken=nomo
そんなに 怒る-PST=FMN する-SEQ 言う-PST こと=TOP ない-PST=CSL=SFP

「そんなに怒ったように言ったことはないからね。」

(214) *omotagoto* *hanasaruruken.*
omow-ta=goto hanas-raru-ru=ken
思う-PST=FMN 話す-POT-NPST=CSL

「思ったように話せるから。」

形式名詞=*gocu/goto* に動詞 *ar*-「ある」が接続した形式は，音韻的に融合する場合がある（§ 2.3.8.6）。=*gocu/goto* に動詞=*ar*-「ある」が接続した形式の例を，以下に示す。

(215) *tabete* *kaerasitagotaru.*
tabe-te kaer-ras-ta=goto=ar-ru
食べる-SEQ 帰る-HON-PST=FMN=ある-NPST

「（ご飯を）食べて，帰ったようだ。」

(216) *ima citto yokeeno* *arugota.*
ima citto yokee=no ar-ru=goto=ar-ru
今 少し 余裕=NOM ある-NPST=FMN=ある-NPST

「今少し余裕があるようだ。」

10.3.1.3 *huu*

huu は，様子を表す。

(217) *senka huuni* *yuunara* *deken.*
senka huu=ni <yuw-ru=nara deke-n>
そんな ふう=DAT <言う-NPST=CND ?-NEG>

「そんなふうに言ったらいけない。」

10.3.1.4 *kocu/koto*

形式名詞 *kocu/koto* は，補文節を形成する。形式名詞 *kocu/koto* の例を，以下に示す。

(218) *yuuta* *kocuwa* *nakabatten.*
yuw-ta kocu=wa na-ka=batten
言う-PST こと=TOP ない-NPST=ADVRS

「言ったことはないけれど。」

(219) *yumete* *mita* *koto* *naka* *kono* *gorowa.*
yume=te mi-ta koto na-ka kono goro=wa
夢=QT 見る-PST こと ない-NPST この 頃=TOP

「夢って見たことないよ，この頃は。」

10.3.1.5 *toki*

形式名詞 *toki* は，時を表す。

(220) *ogottokiwa* *ogorayantanmo.*
ogor-ru toki=wa ogor-a-yan=tan=mo
怒る-NPST とき=TOP 怒る-THM-OBL=SFP=POL

「怒るときは怒らないといけないよ。」

10.3.1.6 *niki*

形式名詞 *niki* は，場所を表す。

(221) *musumega* *nikisan* *kitonnaharu* *hitomo* *onnaharumonnomo.*
musume=ga niki=san ki-tor-i-nahar-ru hito=mo or-i-nahar-ru=mon=nomo
娘=GEN ところ=ALL 来る-PF-THM-HON-NPST 人=ADD いる-THM-HON-NPST=SFP=SFP

「娘のところに来ていらっしゃる人もいらっしゃるよ。」

10.3.1.7 *guree*

形式名詞 *guree* は，程度を表す。同形の取り立て助詞=*guree*（§ 12.1.7）とは，その分布特性によって区別される。すなわち，形式名詞 *guree* は連体詞をともない名詞句の主要部にたつのに対し，取り立て助詞=*guree* は句に後続する。

(222) *tosino* *don* *guree* *cigauka.*
tosi=no don guree cigaw-ru=ka
年=NOM どの くらい 違う-NPST=Q

「年がどのくらい違うか。」

10.4 格助詞

格助詞とその格助詞がもつ機能を，表 46 に示す。

表 46. 格助詞の形態と機能

名称	形態	機能
主格	=ga，=no/=n	主語標示，二項形容詞文の目的語標示
属格	=ga，=no/=n	名詞句の従属部
対格	=ba	直接目的語標示
与格	=ni, =n, =i	間接目的語，移動の対象，他動詞受動文の動作主
向格	=san	移動の対象
奪格	=kara	動作の起点，他動詞受動文の動作主
具格	=de	動作の場所，原因，道具
共格	=to	共同の行為者
比較格	=yori	比較の対象
限界格	=made	限界点

10.4.1 主格=*ga*，=*no*/=*n*

=ga，*=no* は，主語や二項形容詞文の目的語を標示する。*=no* は，*=n* という異形態をもつ。*=no* と *=n* の出現環境の違いの詳細は不明であるが，*=n* は n 終わりの語には後続しない。

(223) 他動詞主語の例

mamiga *miyoba* *kurasitabanmo.*
mami=ga miyo=ba kuras-i-ta=ban=mo
マミ=NOM ミヨ=ACC 殴る-IFX-PST=SFP=POL

「マミがミヨを殴った。」

(224) 自動詞主語の例

a. *ameno* *huriyoru.*
ame=no hur-i-yor-ru
雨=NOM 降る-THM-PROG-NPST

「雨が降っている。」

b. *sugatan* *yoka.*
sugata=n yo-ka
姿=NOM よい-NPST

「姿がよい。」

(225) 二項形容詞の目的語の例

oraa *mizuno* *hosika.*
ore-ϕ=wa mizu=no hosi-ka
1-SG=TOP 水=NOM ほしい-NPST

「私は水がほしい。」

柳川方言には，これまでの九州方言研究でガノ交替と呼ばれている Differential Subject Marking が存在し，主節・連体節の両方で主格助詞に*=ga* と*=no* が出現しうる。*=ga* と*=no* の詳細な使い分けは未調査であるが，他の九州方言（福岡県博多方言；坂井 2018: 77，熊本県熊本市方言；坂井 2013, 2018, 2019，長崎県宇久島野方方言；中村 2019: 102，宮崎県椎葉村尾前方言；下地 2016b）と同様に有生性が関与している可能性が高く，現時点までの談話データでは，代名詞は*=ga* のみを，人間名詞や動物名詞，無生物名詞は*=ga* と*=no* の両方をとっている。以下に，例を示す。

(226) *=ga* をとる例

a. 代名詞

origa *curete* *iku.*
ori-ϕ=ga cure-te ik-ru
1-SG=NOM 連れる-SEQ 行く-NPST

「私が連れていく。」

b. 人間名詞

ziicyanga *osoeyotta.*
ziicyan=ga osoe-yor-ta
おじいちゃん=NOM 教える-PROG-PST

「おじいちゃんが教えていた。」

c. 動物名詞

inuga *sindotta.*
inu=ga sin-tor-ta
犬=NOM 死ぬ-PF-PST

「犬が死んでいた。」

d. 無生物名詞

gakkooga *setakan* *gakkooyarooga.*
gakkoo=ga setaka=n gakkoo=yar-a-u=ga
学校=NOM 瀬高（地名）=GEN 学校=COP-THM-INFR=CNF

「学校が瀬高の学校でしょう？」

(227)　*=no/n* をとる例

a.　人間名詞

tonanno	*ziicyan*	*baacyanno*	*kaseeni*	*kiyonnahatta.*
tonari=no	ziicyan	baacyan=no	kasee=ni	ki-yor-i-nahar-ta
隣=GEN	おじいちゃん	おばあちゃん=NOM	加勢=DAT	来る-PROG-THM-HON-PST

「隣のおじいちゃんおばあちゃんが手伝いに来てくださっていた。」

b.　動物名詞

asukoni	*inno*	*oru.*
asuko=ni	in=no	or-ru
あそこ=DAT	犬=NOM	いる-NPST

「あそこに犬がいる。」

c.　無生物名詞

terebino	*nedokattoru.*
terebi=no	nedokar-tor-ru
テレビ=NOM	壊れる-PF-NPST

「テレビが壊れている。」

なお，九州方言におけるガノ交替の先行研究は，名詞の有生性のほか，名詞が敬意の対象か否か（林田 1962: 33，初鳥 1998: 60-61），述語の種類（坂井 2013: 82）といった変数が影響すると指摘している。柳川方言においても同様の変数が影響を与えている可能性があるが，未検証である。

10.4.2　属格=*ga*，=*no*/=*n*

=ga，*=no* は，名詞句の従属部を標示する。*=no* は，異形態として *=n* をもつ *=no* と *=n* の詳細な出現環境の違いは不明であるが，*=n* は鼻音終わりの語には後続しない。*=ga* と *=no* の使い分けに関して，現時点までの談話データを見ると，*=ga* は代名詞や人間名詞など有生性が高い名詞に，*=no/=n* は動物名詞や無生物名詞など有生性が低い名詞に接続している。有生性階層（Silverstein 1976: 112）の上位の名詞に *=ga* を，下位の名詞に *=no* を用いるという使い分けがある可能性が高いが，未検証である。

(228)　a.　代名詞

origa	*oya*
ori-ϕ=ga	oya
1-SG=GEN	親

「私の親」

b.　人間名詞

oniicyanga	*hanasi*
oniicyan=ga	hanasi
お兄ちゃん=GEN	話

「お兄ちゃんの話」

c.　動物名詞

nekono *sippo*
neko=no sippo
猫=GEN しっぽ

「猫のしっぽ」

d. 無生物名詞
maen *ie*
mae=n ie
前=GEN 家

「前の家」

10.4.3 対格=*ba*

=*ba* は，直接目的語や自動詞から派生された使役文の被使役者を標示する。

(229) a. *mamiga* *miyoba* *kurasitabanmo.*
mami=ga miyo=ba kuras-i-ta=ban=mo
マミ=NOM ミヨ=ACC 殴る-IFX-PST=SFP=POL

「マミがミヨを殴った。」

b. *oraa* *mizuba* *hosika.*
ori-ϕ=wa mizu=ba hosi-ka
1-SG=TOP 水=ACC ほしい-NPST

「私は水がほしい。」

(230) *tarooba* *arukaseta.*
taroo=ba aruk-sase-ta
太郎=ACC 歩く-CAUS-PST

「太郎を歩かせた。」

談話中では，目的語が無生物で動詞の直前位置にあるとき，=*ba* による有形格標示をうけない場合がある。

(231) *okura* *cigitte*
okura cigir-te
おくら ちぎる-SEQ

「おくらをちぎって」

10.4.4 与格=*ni*

=*ni* は，複他動詞文の間接目的語や存在場所，発話相手，使役文の被使役者を標示する。

(232) *seeyani* *honba* *yatta.*
seeya=ni hon=ba yar-ta
セイヤ=DAT 本=ACC あげる-PST

「セイヤに本をあげた。」

(233) *asukoni* *oru.*
asuko=ni or-ru
あそこ=DAT いる-NPST

「あそこにいる。」

(234) *sono hitoni* *yuunara* *deken.*
sono hito=ni yuw-ru=nara deke-n
その 人=DAT 言う-NPST=CND ?-NEG

「その人に言ってはいけない。」

(235) *tarooni* *zirooba* *okosaseta.*
taroo=ni ziroo=ba okos-sase-ta
太郎=DAT 次郎=ACC 起こす-CAUS-PST

「太郎に次郎を起こさせた。」

与格助詞=*ni* は，異形態として，=*n*，=*i* をもつ。それぞれの異形態が出現する環境は不明である。ただし，現時点までのデータでは=*n* が鼻音終わりの語に接続する例はないため，音韻的な条件が=*n* の出現に関与している可能性がある。=*i* に関しては，(236) に示すように指示場所名詞に後続する場合が多いが，(237) に示すように，指示場所名詞以外の語に後続する場合もある。

(236) *sokee* *○○ ci* *oteraga* *arooga.*
soko=i ○○=ci o-tera=ga ar-a-u=ga
そこ=DAT ○○=QT POL-寺=NOM ある-THM-INFR=CNF

「そこに○○っていうお寺があるでしょう？」

(237) *reetoosicii* *iretokugetto*
reetoosicu=i ire-tok-ru=getto
冷凍室=DAT 入れる-ANT.PF-NPST=CND

「冷凍室に入れておくと」

10.4.5 向格=san

=*san* は，移動先を表す。神部 （1984: 70-71）は，九州方言の一部で=*san* と同根の形態素が動作の目的や使役の被使役者を標示すると指摘しているが，柳川方言において同様の現象がみられるかは不明である。

(238) *sotosan* *dete* *itta.*
soto=san de-te ik-ta
外=ALL 出る-SEQ 行く-NPST

「外に出て行った。」

10.4.6 奪格=kara

=kara は，起点や受動文の動作主を表す。九州方言には奪格が移動の手段を標示する方言もあるが（林田 1962: 36-37），柳川方言において*=kara* が移動手段を標示するかは不明である。

(239) *heyakara* *zuru.*
heya=kara zu-ru
部屋=ABL 出る-NPST

「部屋から出る。」

(240) *hacikara* *sasareta.*
haci=kara sas-rare-ta
蜂=ABL 刺す-PASS-PST

「蜂に刺された。」

10.4.7 具格=*de*

=de は，道具や原因，出来事の場所を示す。

(241) *hoocyoode* *sasugetto* *sintan.*
hoocyoo=de sas-ru=getto sin-ru=tan
包丁=INST 刺す-NPST=CND 死ぬ-NPST=SFP

「包丁で刺すと死ぬぞ。」

(242) *dannaga* *byookide* *sindatanmo.*
danna=ga byooki=de sin-ta=tan=mo
旦那=NOM 病気=INST 死ぬ-PST=SFP=POL

「旦那が病気で死んだ。」

(243) *kokon* *nikide* *wakudooci* *yuutai.*
koko=n niki=de wakudoo=ci yuw-ru=tai
ここ=GEN あたり=INST ひきがえる=QT 言う-NPST=SFP

「このあたりで（ひきがえるのことを）「わくどう」と言うんだよ。」

10.4.8　共格=*to*

=*to* は，共同の行為者を標示するほか，名詞句と名詞句を繋ぎより大きな名詞句を形成する。名詞句と名詞句を繋ぎ大きな名詞句を形成する際には，(245) や (246) のようにいずれの名詞句にも=*to* が接続することが多い。

(244)

hitoto	*hanasu.*
hito=to	hanas-ru
人=COM	話す-NPST

「人と話す。」

(245)

baacyanto	*ziicyanto*	*itatte*	*mitara*
baacyan=to	ziicyan=to	itar-te	mi-tara
おばあちゃん=COM	おじいちゃん=COM	行く-SEQ	見る-CND

「おばあちゃん（話し手）とおじいちゃんとで行ってみたら」

(246)

baacyanto	*ziicyanto*	*son*	*zibunni*	*piisu*	*cigitte*
baacyan=to	ziicyan=to	son	zibun=ni	piisu	cigir-te
おばあちゃん=COM	おじいちゃん=COM	その	時=DAT	グリンピース	ちぎる-SEQ

「おばあちゃん（話し手）とおじいちゃんとで，その時にグリンピースをちぎって」

10.4.9　比較格=*yori*

=*yori* は，比較の対象を示す。

(247)

oriyorimo	*kubi*	*iccyo*	*hutokatta.*
ori-ϕ=yori=mo	kubi	iccyo	huto-katta
1-SG=CMP=ADD	首	ひとつ	大きい-NPST

「私よりも首一つ大きかった。」

10.4.10　限界格=*made*

=*made* は，限界点を表す。

(248)

hirumade	*netotte*
hiru=made	ne-tor-te
昼=LIM	寝る-PF-SEQ

「昼まで寝ていて」

11　述語の構造

11.1　動詞述語

動詞述語は，語根を一つしか含まない単肢述語と，複数の語根を含む両肢述語とに分類される（下地 2018: 217）。本節では，両肢述語に焦点をあてる。両肢述語は，複合動詞，補助動詞構文，軽動詞構文に区別される。

11.1.1　複合動詞

複合動詞は，統語的複合動詞と語彙的複合動詞に大別できる。統語的複合動詞と語彙的複合動詞の例を，以下に示す。統語的複合動詞の前部要素は使役接辞-*sasu* や受身接辞-*raru* をとりうるのに対し，語彙的複合動詞の前部要素はこれらの接辞をとることができない。

(249)　*tabehazimuru*
tabe+hazimu-ru
食べる + 始める-NPST
「食べ始める」

(250)　*occyayuru*
oci+ayu-ru
落ちる + 落ちる-NPST
「落ちる」

(251)　a.　*tabesasehazimuru*
tabe-sase+hazimu-ru
食べる-CAUS+ 始める-NPST
「食べさせ始める」

b.　*taberarehazimuru*
tabe-rare+hazimu-ru
食べる-PASS+ 始める-NPST
「食べられ始める」

(252)　a.　**ocisaseayuru*
oci-sase+ayu-ru
落ちる-CAUS+ 落ちる-NPST

統語的複合動詞の後部要素のうち，現時点で確認しているものは *hazimu/hazime*-と *naos*-のみである。*hazimu/hazime*-は動作の開始を表し，*naos*-は再度その動作を行うことを示す。以下に，それぞれの例を示す。

(253) *baree* *sihazimete*
baree si+hazime-te
バレーボール する + 始める-SEQ

「バレーボールをし始めて」

(254) *madonno* *warukaci* *yuute* *cukunnaetayo.*
madori=no waru-ka=ci yuw-te cukur-i+naos-ta=yo
間取り=NOM 悪い-NPST=QT 言う-SEQ 作る-THM+ 直す-PST=SFP

「間取りが悪いと言って，（家を）作り直したよ。」

11.1.2 補助動詞・補助形容詞構文

補助動詞・補助形容詞構文の基本構造を，以下に示す。

(255) 主動詞-継起接辞 補助要素

主動詞は語彙的な動詞であり，意味的な主要部として機能する。主動詞は，肯定継起接辞-*te* もしくは否定継起接辞-*zi* をとる。補助要素として機能するのは動詞と屈折形容詞であり，環境に応じて異なる屈折形式をとる。主動詞が肯定継起接辞をとったものと共起する補助要素のうち，現時点で確認しているものを，以下に示す。

(256) 肯定継起接辞-*te* と共起する補助動詞

a. *deke-/deku-*「（否定接辞をとって）～してはいけない」（語彙的資源 *deke-/deku-*「（物が）できる」）

b. *kure-/kuru-*「～してくれる」（語彙的資源 *kure-/kuru-*「くれる」）

c. *yar-*「～してあげる」（語彙的資源 *yar-*「あげる」）

d. *mi-*「～してみる」（語彙的資源 *mi-*「見る」）

e. *ku-*「～してくる」（語彙的資源 *ku-*「来る」）

f. *ik-*「～していく」（語彙的資源 *ik-*「行く」）

g. *simaw-*「～してしまう」（語彙的資源 *simaw-*「（物などを）しまう」）

h. *saruk-*「～しまわる」（語彙的資源 *saruk-*「歩く」）

(257) 肯定継起接辞-*te* と共起する補助屈折形容詞
yoka「～してよい」（語彙的資源 *yo-*「（物事の性質などが）良い」）

(258) *yuute* *deken.*
<yuw-te deke-n>
<言う-SEQ ?-NEG>

「言ってはいけない。」

(259) *misitte* *kururuken.*
misir-te kuru-ru=ken
むしる-SEQ くれる-NPST=CSL

「(草が大きくなる前に) むしってくれるから。」

(260) *komeba* *motasete* *yariyotta.*
kome=ba mot-sase-te yar-i-yor-ta
米=ACC もつ-CAUS-SEQ あげる-THM-PROG-PST

「お米をもたせてあげていた。」

(261) *koriba* *cyotto* *mite* *minka.*
kori=ba cyotto mi-te mi-n=ka
これ=ACC ちょっと 見る-SEQ 見る-NEG=Q

「これをちょっと見てみないか。」

(262) *itte* *kuttotan.*
ir-te ku-ru=to=tan
入る-SEQ くる-NPST=FMN=SFP

「入ってくるんだよ。」

(263) *asukokara* *koo* *haitte* *ittatai.*
asuko=kara koo hair-te ik-ta=tai
あそこ=ABL こう 入る-SEQ 行く-PST=SFP

「あそこからこう入っていったよ。」

(264) *tooka* *tokosan* *dete* *simoteno* *moo* *oranmeega.*
too-ka toko=san de-te simaw-te=no moo or-a-n=mee=ga
遠い-NPST ところ=ALL 出る-SEQ しまう-SEQ=SFP もう いる-THM-NEG=INFR=CNF

「(若者は) 遠いところに行ってしまって，もう (ここには) いないじゃない？」

(265) *haici* *toode* *sarukutoyaroo.*
hai=ci tob-te saruk-ru=to=yar-a-u
ハエ=QT 飛ぶ-SEQ まわる-NPST=FMN=COP-THM-INFR

「ハエって飛び回るやつでしょう？」

(266) *mite* *yokaka.*
mi-te yo-ka=ka
見る-SEQ よい-NPST=Q

「見てよいか？」

主動詞が否定継起接辞をとったものと共起する補助動詞のうち，現時点で確認しているものに *or*-「いる」がある。例を以下に示す。

(267) 否定継起接辞-*zi* と共起
or-「〜しないでいる」（語彙的資源 *or*-「いる（存在動詞）」）

(268) *iwazi* *otte.*
yuw-a-zi or-te
言う-THM-NEG.SEQ いる-SEQ

「言わないでいて。」

11.1.3 軽動詞構文

軽動詞構文の基本構造を，以下に示す。

(269) 主動詞 軽動詞

意味的な主要部である主動詞は，子音語幹動詞なら i 拡張語幹の形で，母音語幹動詞なら非拡張語幹（e/u 語幹の場合は非拡張 e 語幹）の形で現れる。現時点で確認している軽動詞としてふるまう語根は，*su*-「する」であり，主動詞に代わって屈折する。軽動詞構文がどのようなときに使われるか，どのような意味機能をもつかという詳細は不明である。

(270) *inno* *sindocci* *yuute* *nakiomeki*[20] *sitaci.*
in=no sin-tor-ru=ci yuw-te nak-i+omek-i si-ta=ci
犬=NOM 死ぬ-PF-NPST=QT 言う-SEQ 泣く-THM+ わめく-THM する-PST=QT

「（孫は）犬が死んだと言って泣きわめいたって。」

11.2 形容詞類述語

本節では，屈折形容詞述語と非屈折形容詞述語について記述する。

[20] (270) における *nakiomeki* の *naki* と *omeki* は，それぞれ独自の音調句を形成している。これは，形態的に従属しつつ音韻的に独立した単位（*naki*，*omeki*）から成る複合動詞である可能性がある一方で，それぞれが形態的にも音韻的にも独立している動詞連続である可能性もある。本論文では，暫定的に *nakiomeki* を複合動詞であると見るが，*naki* と *omeki* が形態的に独立しているか否かのテスト（§ 3.1.1）を行う必要がある。

11.2.1　屈折形容詞述語

屈折形容詞述語は，語根を一つしか含まない単肢述語と，複数の語根を含む両肢述語とに分類される。本節では，両肢述語に焦点を当てる。両肢述語は，補助動詞・補助形容詞構文と，軽動詞構文に分けられる。

11.2.1.1　補助動詞・補助形容詞構文

屈折形容詞を主要部とする補助動詞・補助形容詞構文において，屈折形容詞は副詞化接辞の*-u* をとり，意味的な主要部としてふるまう。補助要素としてふるまうのは補助動詞 *nar-*「なる」と，補助屈折形容詞 *na-*「ない」であり，環境に応じて異なる屈折形式をとる。

(271)

ippe	*tabutto*	*karadano*	*huto*	*narutanmo.*
ippe	tabu-ru=to	karada=no	huto-u	nar-ru=tan=mo
いっぱい	食べる-NPST=CND	体=NOM	大きい-ADVLZ	なる-NPST=SFP=POL

「いっぱい食べると体が大きくなるよ。」

(272)

taroowa	*asino*	*hayo*	*naka.*
taroo=wa	asi=no	haya-u	na-ka
太郎=TOP	足=NOM	速い-ADVLZ	ない-NPST

「太郎は足が速くない。」

11.2.1.2　軽動詞構文

屈折形容詞を意味的な主要部とする軽動詞構文において，屈折形容詞は副詞化接辞の*-u* をとる。屈折形容詞の軽動詞構文において軽動詞としてふるまうのは，動詞の軽動詞構文（§ 11.1.3）と同じく軽動詞 *su-*「する」である。例を以下に示す。

(273)

kurawarete	*ako*	*sitoru.*
kuraw-rare-te	aka-u	si-tor-ru
食らう-PASS-SEQ	赤い-ADVLZ	する-PF-NPST

「（虫から）刺されて赤い。」

屈折形容詞の軽動詞構文は，多くの場合，並列を示すために用いられ，この時，軽動詞は肯定継起接辞*-te* をとる。

(274)

kotosyoogikuwa	*karadano*	*huto*	*site*	*basaraka*	*cuyokabanmo.*
kotosyoogiku=wa	karada=no	huto-u	si-te	basaraka	cuyo-ka=ban=mo
琴奨菊=TOP	体=NOM	大きい-ADVLZ	する-SEQ	とても	強い-NPST=SFP=POL

「琴奨菊（力士）は体が大きくてとても強いよ。」

11.2.2　非屈折形容詞述語

非屈折形容詞述語は，語根を一つしか含まない単肢述語と，複数の語根を含む両肢述語とに分類される。本節では，両肢述語である補助動詞・補助形容詞構文と軽動詞構文に焦点を当てる。

11.2.2.1　補助動詞・補助形容詞構文

非屈折形容詞を意味的な主要部とする補助動詞・補助形容詞構文において，非屈折形容詞はコピュラ（*=ni*，*=zya/ya*）をとる。非屈折形容詞の補助動詞・補助形容詞構文の補助要素としてふるまうのは，屈折形容詞の場合（§ 11.2.1.1）と同様，補助動詞 *nar-*「なる」と，補助屈折形容詞 *na-*「ない」である。

(275)　*kireeni*　*nattoru.*
kiree=ni　nar-tor-ru
きれい=COP.ADVLZ　なる-PF-NPST
「きれいになっている。」

(276)　*kireeya*　*nakaroo.*
kiree=COP　na-ka=yar-a-u
きれい=COP　ない-NPST=COP-THM-INFR
「きれいじゃないだろう。」

11.2.2.2　軽動詞構文

非屈折形容詞を意味的な主要部とする軽動詞構文において，非屈折形容詞はコピュラ*=ni* をとる。非屈折形容詞の軽動詞構文において軽動詞としてふるまうのは，動詞（§ 11.1.3）や屈折形容詞（§ 11.2.1.2）の場合と同じく，軽動詞 *su-*「する」である。例を以下に示す。

(277)　*kireeni*　*suru.*
kiree=ni　su-ru
きれい=COP.ADVLZ　する-NPST
「きれいにする。」

11.3　名詞述語

名詞述語の基本構造を，以下に示す。以下に示す構造中の=は，接語境界を示す。

(278)　名詞句（=コピュラ）（=終助詞）

名詞述語において，終助詞は義務的ではない。コピュラは，非過去肯定の場合は基本的には現れず，理由を表す接語*=ken* が後続する場合など一部の環境では現れうる。その他の場合（例：過去肯定）には，コピュラは義務的に現れる。以下に，コピュラと終助詞が出現する例，コピュラのみが出現する例，終助詞のみが出現する例を示す。

(279) *son tokiwa nabanayattataine.*
son toki=wa na+hana=yar-ta=tai=ne
その 時=TOP 菜 + 花=COP-PST=SFP=SFP

「その時は（収穫する作物は）菜花だったんだよね。」

(280) *acusakasakatenno tonarizyatta.*
acusakasakaten=no tonari=zyar-ta
敦坂酒店=GEN 隣=COP-PST

「敦坂酒店の隣だった。」

(281) *yanagawakotobatanmo.*
yanagawa+kotoba=tan=mo
柳川 + 言葉=SFP=POL

「柳川言葉だよ。」

名詞句が格助詞をとったもの，すなわち拡張名詞句（§ 10）にコピュラが後接して名詞述語を形成する場合もある。

(282) *sewa sinaharu hitoniyarooga.*
sewa si-nahar-ru hito=ni=yar-a-u=ga
世話 する-HON-NPST 人=DAT=COP-THM-INFR=CNF

「世話をなさる人に（言うとしたら）でしょう？」

12 助詞類

本章では，格助詞以外の助詞を記述する。

12.1 取り立て助詞

取り立て助詞とその助詞がもつ機能を，以下に示す。

表 47. 取り立て助詞の形態と機能

形態	機能
=wa	主題 「～は」
=mo	累加 「～も」
=den	例示「～でも」
=don	例示「～など」
=ten	並列 「～とか」
=dake	限定「～だけ」
=guree	程度「～くらい」
bakkai	反復，程度「～ばかり」

12.1.1 主題助詞=*wa*

=*wa* は，主題を表す。鼻音終わりの語に後続する場合は，=*na* として現れる（§ 2.3.8.1）。

(283) *oriwa* *isogasika.*
ori-ϕ=wa isogasi-ka
1-SG=TOP 忙しい-NPST

「私は忙しい。」

(284) *inna* *oranmon.*
in=wa or-a-n=mon
犬=TOP いる-THM-NEG=SFP

「犬はいないもの。」

なお，自然談話中においては，音韻的に=*wa* が期待される環境，すなわち鼻音終わりではない語に後続する環境（§ 2.3.8.1）で，=*na* という形式が使用される場合がある。以下に，例を示す。

(285) *yanagawana* *kotobano* *kireeka.* *watasidonga* *kotobato* *cigau.*
yanagawa=wa kotoba=no kiree-ka watasi-don=ga kotoba=to cigaw-ru
柳河=TOP 言葉=NOM きれい-NPST 1-PL=GEN 言葉=COM 違う-NPST

「（旧昭代村に比べて，）旧柳河町は言葉がきれいだ。私たち（旧昭代村）の言葉とは違う。」

(286) *kokon* *nikiwa* *nakatta.* *korikara* *uena* *atta.*
koko=n niki=wa na-katta kori=kara ue=na ar-ta
ここ=GEN あたり=TOP ない-PST これ=ABL 上=TOP ある-PST

「（語彙調査の際に）ここ（首）のあたりは（特別な言い方は）なかった。これの上（顎）は（特別な言い方が）あった。」

音韻的に=*wa* が予測される環境で=*na* が出現する現象の説明には，二つの可能性がある。一つは，鼻音終わりの語に後続する際に出現する=*na* が，出現環境を拡大させているという可能性である。もう一つの可能性は，=*na* が主題助詞=*wa* と別の意味機能をもつ形態素である可能性である。音韻的に=*wa* が予測される環境で=*na* として出現する (285) や (286) の例は，いずれも対比主題の文脈である。すなわち，=*na* は対比主題を表す助詞である可能性がある。後者の可能性が正しいとすれば，一般主題の場合には=*na* が容認されず，対比主題の場合には=*na* が容認されるはずであり，この点を今後確認する必要がある。

12.1.2　累加助詞=*mo*

=*mo* は，累加を表す。

(287)

baacyanmo	*ziicyanmo*	*tamagatta.*
baacyan=mo	ziicyan=mo	tamagar-ta
おばあちゃん=ADD	おじいちゃん=ADD	驚く-PST

「おばあちゃんもおじいちゃんも驚いた。」

12.1.3　例示助詞=*den/demo*

=*den/demo* は，例示を表す。

(288)

zyagaimoden	*nandemo*	*mukoode*	*taburu.*
zyagaimo=den	nan=demo	mukoo=de	tabu-ru
じゃがいも=EXM	何=EXM	向こう=INST	食べる-NPST

「じゃがいもでも何でも向こうで食べる。」

=*den/demo* が具格助詞=*de*（§ 10.4.7）と累加助詞=*mo*（§ 12.1.2）から成ると解釈できるような例，すなわち単なる累加を表すような例は，現時点までのデータにはない。

12.1.4　例示助詞=*don*

=*don* は，例示を表す。例示される対象は，(289) に示すように中立的な例示であることもあれば，(290) に示すように否定的な例示である場合もある。以下に，例を示す。

(289)

panno	*attaken*	*pandon*	*tabete*
pan=no	ar-ta=ken	pan=don	tabe-te
パン=NOM	ある-NPST=CSL	パン=EXM	食べる-SEQ

「パンがあったからパンなど食べて」

(290)

ninsindon	*sasecya*	*dekenzo.*
ninsin=don	<s-sase-te=wa	deke-n=zo>
妊娠=EXM	<する-CAUS-SEQ=TOP	?-NEG=SFP>

「妊娠なんてさせてはいけないよ。」

12.1.5　並列助詞=*ten*

=*ten* は，並列を表す。

(291)　○○ *cyanten*　*okaasanten*　*okuriyorasuken*
　　○○-cyan=ten　okaasan=ten　okur-i-yor-rass-ru=ken
　　○○-DIM=PARA　お母さん=PARA　おくる-THM-PROG-HON-NPST=CSL

　　「○○ちゃんとかお母さんとかが送っているから。」

12.1.6　限定助詞=*dake*

=*dake* は，限定を表す。

(292)　*mirudaketanmo.*
　　mi-ru=dake=tan=mo
　　見る-NPST=ONLY=SFP=POL

　　「見るだけだよ。」

12.1.7　程度助詞=*guree*

=*guree* は，程度を表す。同形の形式名詞 *guree* とは，分布特徴によって区別される（§ 10.3.1.7）。次節で記述する *bakkai* との違いは不明である。

(293)　*nanazyuugureeno*　*hito*
　　nana+zyuu=guree=no　hito
　　七 + 十=DEG=GEN　人

　　「七十歳くらいの人」

12.1.8　反復助詞 *bakkai*

bakkai は，反復や程度を表す。

(294)　*ano*　*occanna*　*keebani*　*bakkai*　*itatte*
　　ano　occan=wa　keeba=ni　bakkai　itar-te
　　あの　おじさん=TOP　競馬=DAT　RPT　行く-SEQ

　　「あのおじさんは競馬にばっかり行って」

(295)　*moo*　*zyuunen*　*bakkai*　*maekara*　*orangon*　*natta.*
　　moo　zyuunen　bakkai　mae=kara　or-a-n=gocu　nar-ta
　　もう　十年　DEG　前=ABL　いる-THM-NEG=FMN　なる-PST

　　「もう十年くらい前からいなくなってしまった。」

12.1.9　優先助詞=*kara*

奪格助詞=*kara* と同形である優先助詞=*kara* は，動詞連続の V_1 が肯定継起接辞をとったものに後続し，V_1 が完結してから V_2 が起こったことを示す。

(296)

yoocienni	*dasitekara*	*ikiyotta.*
yoocien=ni	das-i-te=kara	ik-i-yor-ta
幼稚園=DAT	出す-IFX-SEQ=PRM	行く-THM-PROG-PST

「（子どもを）幼稚園に行かせてから，（仕事に）行っていた。」

12.2　接続助詞

接続助詞には，理由を示すもの，条件を示すもの，逆接関係を示すものがある。

12.2.1　理由を示す接続助詞

理由を示す接続助詞は，=*ken,*=*kengara* である。

(297)

anisanna	*kyoodeeyakken*	*yokabatten*
anisan=wa	kyoodee=yar-ru=ken	yo-ka=batten
お兄さん=TOP	兄弟=COP-NPST=CSL	よい-NPST=ADVRS

「お兄さんは兄弟だからよいけれど」

(298)

kizuno	*cukankengara*	*agen*	*siyonnahattoyaroo.*
kizu=no	cuk-a-n=kengara	agen	si-yor-i-nahar-ru=to=yar-a-u
傷=NOM	つく-THM-NEG=CSL	あんなに	する-PROG-THM-HON-NPST=FMN=COP-THM-INFR

「傷がつかないから，ああいうふうになさっている（布でくるんでいる）んだろう。」

12.2.2　条件を示す接続助詞

条件を示す接続助詞には，=*nara/* =*naraba*，=*getto/*=*gitto* がある。例を以下に示す。

(299) a.

kaette	*kitanara*	*kasee*	*siyotta.*
kaer-te	ki-ta=nara	kasee	si-yor-ta
帰る-SEQ	くる-PST=CND	手伝い	する-PROG-PST

「（学校から）帰ってきたら手伝っていた。」

b.

ieba	*detanaraba*	*denwaba*	*sero.*
ie=ba	de-ta=naraba	denwa=ba	se-ro
家=ACC	出る-PST=CND	電話=ACC	する-IMP

「家を出たら電話をしろ。」

(300) *kokokara* *mirugetto* *miyurubano.*
koko=kara mi-ru=getto miyu-ru=bano
ここ=ABL 見る-NPST=CND 見える-NPST=SFP

「ここから見ると見えるよ。」

それぞれの接続助詞の詳細な意味や，条件接辞-*tara* との使い分けに関する詳細は，不明である。なお，接続助詞に=*nara*（及びその同根形式）と=*getto*（及びその同根形式）の二種類がある方言は，佐賀県多久市，武雄市など佐賀県の一部地域にもみつかる（三井 2011, 2017: 26）。三井（2011, 2017）は，多久市や武雄市において，=*nara* と同根の形式が認識的条件文に，=*getto* と同根の形式が予測的条件文と認識的条件文に現れると指摘している。柳川方言においても同様の使い分けがある可能性があり，今後検証する必要がある。

12.2.3 逆接を示す接続助詞

逆接を示す接続助詞には，=*batten*，=*battengara* がある。

(301) a. *nadametabatten* *naita.*
nadame-ta=batten nak-ta
なだめる-PST=ADVRS 泣く-PST

「なだめたけれど，泣いた。」

b. *hyakusyooba* *sitabattengara* *kenka* *seekazzya* *nakattabanmo.*
hyakusyoo=ba si-ta=battengara kenka seekacu=zya na-katta=ban=mo
百姓=ACC する-NPST=ADVRS こんな 生活=COP ない-PST=SFP=POL

「農業をしていたけれど，こんな生活じゃなかったよ。」

12.2.4 引用を示す接続助詞

接続助詞=*ci/cci* は，補文節を形成する。発話動詞 *yuw*「言う」，思考動詞 *sir*「知る」，存在動詞 *ar*「ある」，*or*「いる」と共起することを確認している。

(302) 発話動詞と共起する例
origen *ziicyanna* *hatarakimonyattaci* *yuu*
ori-ϕ=ga=e=n ziicyan=wa hatarak-i+mon=yar-ta=ci yuw-ru
1-SG=GEN=家=GEN おじいちゃん=TOP 働く-THM+ 者=COP-PST=QT 言う-NPST
kocuta.
kocu=ta
こと=SFP

「我が家のおじいちゃんは働き者だったということだ。」

(303) 思考動詞と共起する例

basarakawa	*iretaga*	*yokarooci*	*omoubai.*
basaraka=wa	ire-ta=ga	yo-ka=yar-a-u=ci	omow-ru=bai
とても=TOP	入れる-PST=NOM	よい-NPST=COP-THM-INFR=QT	思う-NPST=SFP

「(筆者が提示した方言作例に対する反応として)「とても」という言葉は入れた方がいいだろうと思うよ。」

(304) 存在動詞と共起する例

sandenci	*arooga.*
sanden=ci	ar-a-u=ga
散田(地名)=QT	ある-THM-INFR=CNF

「散田(という場所)ってあるでしょう?」

12.3 終助詞

本節では,終助詞を記述する。以下では,それぞれの終助詞の例と,意味機能を示す。なお,一部の終助詞は,形式的に類似し,同じような意味機能をもつ(例:*=ta,=tai,=tan*)。これらの終助詞に形態素境界を認めず一形態素とみなす理由に関しては,§ 12.3.18 で議論する。

12.3.1 *=ta,=tai,=tan*

=ta,=tai,=tan の例を,以下に示す。それぞれの終助詞が担う詳細な意味機能や終助詞間の意味的差異は不明であるため,現時点ではその品詞を元に,終助詞(Sentence-Final Particle; SFP)と暫定的にグロスを振っておく。

(305)

yuuhuku	*cukuru*	*dezainaani*	*naruci*	*iiyottata.*
yuuhuku	cukur-ru	dezainaa=ni	nar-ru=ci	yuw-i-yor-ta=ta
洋服	作る-NPST	デザイナー=DAT	なる-NPST=QT	言う-THM-PROG-PST=SFP

「洋服を作るデザイナーになると言っていた。」

(306)

zenni	*nariyottatai.*
zen=ni	nar-i-yor-ta=tai
お金=DAT	なる-THM-PROG-PST=SFP

「お金になっていたよ。」

(307)

mukooga	*suizibayattatan.*
mukoo=ga	suiziba=yar-ta=tan
向こう=NOM	炊事場=COP-PST=SFP

「向こうが炊事場だった。」

12.3.2 =*bai*,=*ban*

=*bai*,=*ban* の例を，以下に示す。詳細な意味機能は不明であるため，現時点では SFP と暫定的にグロスを振っておく。

(308) *cikoku surubai.*
cikoku su-ru=bai
遅刻 する-NPST=SFP
「遅刻するよ。」

(309) *anta itatte dekenban.*
anta-ϕ <itar-te deke-n>=ban
2-SG <行く-SEQ ?-NPST>=SFP
「あなた，行ってはいけないよ。」

12.3.3 =*ka*,=*kai*,=*kan*

=*ka*,=*kai*,=*kan* は，疑問を表す。以下に例を示す。

(310) a. *omae dokoni ikiyoruka.*
omae-ϕ doko=ni ik-i-yor-ru=ka
2-SG どこ=DAT 行く-THM-PROG-NPST=Q
「お前，どこに行っているのか？」

b. *hayo konkai.*
haya-u ko-n=kai
早い-ADVLZ 来る-NEG=Q
「早く来ない？」

c. *cyotto mite minkan.*
cyotto mi-te mi-n=kan
ちょっと 見る-SEQ みる-NEG=Q
「ちょっと見てみない？」

12.3.4 =*mo*

=*mo* の例を，以下に示す。=*mo* の詳細な意味機能は，現時点で不明である。ただし，話者が筆者と会話する際は=*mo* を用い，話者が年少の親族と会話する際には=*mo* を用いないことから，=*mo* は高い待遇を表す可能性がある。このため，本論文では=*mo* に POL（丁寧）というグロスをふる。=*mo* は前節までに記述した=*tan*，=*ban*，=*kan* に後続する。

(311) *syoodokuni* *kiyonnahattatanmo.*
syoodoku=ni ki-yor-i-nahar-ta=tan=mo
消毒=DAT 来る-PROG-THM-HON-PST=SFP=POL

「(筆者に対して) 消毒に来ていらっしゃったよ。」

(312) *mukasyaa* *ottabanmo* *nezumyaa.*
mukasi=wa or-ta=ban=mo nezumi=wa
昔=TOP いる-PST=SFP=POL ネズミ=TOP

「(筆者に対して) 昔はいたよ，ネズミは。」

(313) *ucyaa* *dokokanmo.*
uci=wa doko=kan=mo
家=TOP どこ=Q=POL

「(筆者に対して) 家はどこなの？」

12.3.5 *=mon*

=mon の例を，以下に示す。*=mon* の意味機能は不明であるため，現時点では SFP とグロスをふる。

(314) *oboen* *nakamon.*
oboe=n na-ka=mon
覚え=NOM ない-NPST=SFP

「覚えがないもの。」

なお，平塚 (2012) は，近隣方言である福岡県福岡市方言において，*=mon* は終止形や推量形に接続し，「聞き手がまだ認識していない事態を受け入れさせようとする」(平塚 2012: 48) 機能をもつと指摘している。柳川方言においても同様の意味機能をもつ可能性があるが，未検証である。

12.3.6 *=kusa*

=kusa の例を，以下に示す。*=kusa* の意味機能は不明であるため，現時点では SFP とグロスをふる。

(315) *asobiyottacuwa* *asobiyottakusa.*
asob-i-yor-ta=cu=wa asob-i-yor-ta=kusa
遊ぶ-THM-PROG=FMN=TOP 遊ぶ-THM-PROG-PST=SFP

「遊んでいたのは遊んでいたよ。」

なお，坪内 (1998: 33) は近隣方言である福岡県福岡市方言の*=kusa* は話し手の当然であるという態度を示すと指摘している。柳川方言においても同様の意味機能をもつ可能性があるが，未検証である。

12.3.7 =*nomo*

=*nomo* の例を，以下に示す。藤原 （1952: 9）は，柳川方言の=*nomo* を対話の文末詞であるとしている。詳細な意味機能は不明であるため，SFP とグロスをふる。

(316) *nezumyaa* *hayakamonnomo.*
nezumi=wa haya-ka=mon=nomo
ネズミ=TOP 速い-NPST=SFP=SFP

「ネズミは（動きが）速いものね。」

12.3.8 =*gena*

=*gena* は，伝聞を表す。=*gena* の例を，以下に示す。

(317) *nanden* *origen* *ziicyanga* *osoeyottagenatai.*
nan=den ori-ϕ=ga=e=n ziicyan=ga osoe-yor-ta=gena=tai
何=EXM 1-SG=家=GEN おじいちゃん=NOM 教える-PROG-PST=HS=SFP

「なんでも我が家のおじいちゃんが教えていたらしいよ。」

なお，福岡県内の方言では，福岡市を中心として (318) に示すように=*gena* が取り立て助詞として用いられるようになりつつある（松尾 2009）が，本論文の調査協力者である 2 名の話者及び若年層の柳川方言話者である筆者は，取り立て助詞として *gena* を用いない。

(318) 福岡市方言若年層話者による例（松尾 2009: 72(6)，標準語訳は筆者による）
納豆ゲナ 食わんよ。
「納豆なんて食べないよ。」

12.3.9 =*ne*

=*ne* の例を，以下に示す。詳細な意味機能は不明であるため，現時点では SFP とグロスをふる。

(319) *cukaumonne.*
cukaw-ru=mon=ne
使う-NPST=SFP=SFP

「使うものね。」

12.3.10 =*yo*

=*yo* の例を，以下に示す。詳細な意味機能は不明であるため，現時点では SFP とグロスをふる。

(320) *yomesan* *curete* *sotosan* *detagenayo.*
yome-san cure-te soto=san de-ta=gena=yo
嫁-HON 連れる-SEQ 外=ALL 出る-PST=HS=SFP

「お嫁さんを連れて外に出たらしいよ。」

12.3.11 *=zyan/=yan*

=zyan,=yan の例を，以下に示す。詳細な意味機能は不明であるため，現時点では SFP とグロスをふる。

(321) *suuni orangon naruyan moo.*
su=ni or-a-n=gocu nar-ru=yan moo
巣=DAT いる-THM-NEG=FMN なる-NPST=SFP もう

「巣にいないようになるよ，もう。」

なお，春日（2018）は，近隣方言である福岡県久留米市方言における*=yan* が発見や驚きを表すことを，標準語における「ではないか」（田野村 1988）と比較しつつ示している。柳川方言においても同様の意味機能をもつ可能性があるが，未検証である。

12.3.12 *=zo*

=zo の例を以下に示す。詳細な意味機能は不明であるため，現時点では SFP とグロスをふる。

(322) *sinpai suruzo.*
sinpai su-ru=zo
心配 する-NPST=SFP

「心配するぞ。」

12.3.13 *=ya*

=ya は，疑問を表す。以下に例を示す。

(323) *sogen samukaya.*
sogen samu-ka=ya
そう 寒い-NPST=Q

「そんなに寒いの。」

12.3.14 *=mee*

=mee は，推量の意味を表し，動詞の否定接辞*-n*（§ 5.3.1.3）と義務接辞*-yan*（§ 13.5.3.4）にのみ後続する[21]。*=mee* の例を，以下に示す。

(324) *tooka tokosan dete simoteno moo oranmeega.*
too-ka toko=san de-te simaw-te=no moo or-a-n=mee=ga
遠い-NPST ところ=ALL 出る-SEQ しまう-SEQ=SFP もう いる-THM-NEG=INFR=CNF

「（若者は）遠いところに行ってしまって，もう（ここには）いないじゃない？」

[21] *=mee* が直説法否定接辞*-n* と義務法接辞*-yan* にのみ後続するのは，*-yan* に含まれる n が否定接辞由来であることを意味する可能性がある。柳川方言の*-yan* にあたる形式は周辺地域で*-nan*（秋山・吉岡 1991: 69）や*-nyan*（秋山 1983: 213）といった形式で現れ，「〜ねばいかん」（〜しなければならない）に由来するとされる（原田 1953: 149）。

(325) *huroni* *irayanmeega.*
huro=ni ir-a-yan=mee=ga
風呂=DAT 入る-THM-OBL=INFR=CNF

「お風呂に入らないといけないじゃない？」

本論文では，*=mee* を接語，すなわち形態的に独立した形態素であると分析しているが，§ 3.1.1 で述べたように，*=mee* が形態的に独立しているか否かは判断できていない。本論文が*=mee* を接語であると分析しているのは，動詞形態論（§ 5）の体系性を重視したためである。当該形式を一度考察外とすると，動詞は一つの屈折接辞をとり，屈折接辞が連続することはないと一般化できる。ここで，当該形式を接辞であるとみなすと，以下のように分析できる。

(326) *mee* を接辞とする分析

a. //kak-a-n-mee//→/kakanmee/「書かないだろう」
cf. /kak-a-n//→/kakan/「書かない」

b. //kak-a-yan-mee//→/kakayanmee/「書かないといけないだろう」
cf. //kak-a-yan//→/kakayan/「書かないといけない」

上記のように *mee* が接辞であるとみなすと，直説法否定の環境と義務法の環境でのみ，動詞が推量か否かによっても屈折すると分析せざるを得なくなり，動詞は一つの屈折接辞をとる一般化が崩れる。また，/kakayan/「書かなければいけない」と/kakayanmee/のような対立から，義務法に義務と義務推量のような下位クラスを設ける必要が生じる。当該形式を接語とみなした場合には，上記の問題は生じない。よって，本論文では，*=mee* が形態的に独立しているという証拠はないものの，*=mee* を語の外にある接語であるとみなしている。

12.3.15 *=ga*

=ga は，動詞が推量接辞をとったものや，動詞に*=mee* が接続したものに後続し，確認要求の機能をもつ。*=ga* の例を，以下に示す。

(327) *tooka* *tokosan* *dete* *simoteno* *moo* *oranmeega.*
too-ka toko=san de-te simaw-te=no moo or-a-n=mee=ga
遠い-NPST ところ=ALL 出る-SEQ しまう-SEQ=SFP もう いる-THM-NEG=INFR=CNF

「（若者は）遠いところに行ってしまって，もう（ここには）いないじゃない？」

12.3.16 *=dai,=dan*

=dai,=dan は，推量接辞*-u* を用いた推量形や，推量助詞*=mee*（§ 12.3.14）に後続し，同意要求を表す。*=dai,=dan* の例を，以下に示す。

(328) *namaeba* *yuutoga* *honna* *kocuzyaroodai.*
namae=ba yuw-ru=to=ga honna kocu=zyar-a-u=dai
名前=ACC 言う-NPST=FMN=NOM 本当の こと=COP-THM-INFR=ADR

「（人の名前をいきなり尋ねるより，自分の）名前を言うのが道理でしょう？」

(329) *benkyoomo* *sennara* *dekenmeedai.*
benkyoo=mo se-n=nara deke-n=mee=dai
勉強=ADD する-NEG=CND よい-NEG=INFR=ADR

「勉強もしないといけないでしょう？」

(330) *huteri* *gamadasiyoruken* *dooka* *nariyoroodan.*
hute-ri gamadas-i-yor-ru=ken doo=ka nar-i-yor-a-u=dan
二-CLF がんばる-THM-PROG-NPST=CSL どう=Q なる-THM-PROG-THM-INFR=ADR

「二人でがんばっているから，なんとかなっているでしょう。」

12.3.17 *=i*

=i は，動詞の意志形にのみ接続し，勧誘の意味を表す。*=i* の例を，以下に示す。

(331) *ittoki* *sotosan* *zuui.*
ittoki soto=san de-u=i
少し 外=ALL 出る-INT=HOR

「少し外に出ようよ。」

12.3.18 意味的・形式的に類似する終助詞の形態論的分析

本節では，*=tai* や*=tan*，*=bai* や*=ban*，*=kai* や*=kan* など，形式的に類似し同様の意味機能をもつ形態素に関して，それぞれが一形態素から成ると分析する理由を示す。

本論文では，*=tai*，*=tan* や*=bai*，*=ban* や*=kai*，*=kan* のような終助詞に関して，それぞれが一形態素であると分析する。対立する分析として，例えば*=tai* は*=ta* と*=i* から成る，*=tan* は*=ta* と*=n* から成るというように，二つの形態素から成ると分析することも可能である。これは，*=tai* や*=tan* はそれぞれが類似した形式をもち，同様の意味機能を担うためである。このような意味機能をもつのは諸形式の *ta* の部分であると分析し，*=tai* を*=ta* と*=i* に，*=tan* を*=ta* と*=n* として分析することも可能である。しかし，本論文ではこのような分析はとらない。これは，*=tai* を*=ta* と*=i* として，*=tan* を*=ta* と*=n* として分析した場合に，切り出された*=i* や*=n* に意味機能を見いだせないからである。本論文では，意味機能が見いだせない形態素を切り出すことを避けるため，*=tai* や*=tan*，*=bai* や*=ban*，*=kai* や*=kan* といった終助詞はそれぞれ一形態素であると分析する。

13 単文の構文論

13.1 語順

本節では，語順を記述する。

13.1.1 一項文

一項文の語順に関して，情報構造的に最も頻出し，機能的に無標と考えられるトピックコメント構造（主語が主題でそれ以外をコメントとする構造）で，以下の語順をとる。

(332)　主語 述語

例を，以下に示す。

(333)　*oriwa*　*isogasika.*
ori-ϕ=wa　isogasi-ka
1-SG=TOP　忙しい-NPST

「私は忙しい。」

13.1.2　二項文

二項文の語順に関して，トピックコメント構造で，以下の語順をとる。

(334)　主語 直接目的語　述語

例を，以下に示す。

(335)　*mamiwa*　*miyoba*　*kurasitabanmo.*
mami=wa　miyo=ba　kuras-i-ta=ban=mo
マミ=TOP　ミヨ=ACC　殴る-IFX-PST=SFP=POL

「マミはミヨを殴ったよ。」

13.1.3　三項文

三項文の語順に関して，トピックコメント構造で，以下の語順をとる。

(336)　主語 間接目的語 直接目的語 述語

以下に例を示す。

(337)　*oriwa*　*tarooni*　*honba*　*yatta.*
ori-ϕ=wa　taroo=ni　hon=ba　yar-ta
1-SG=TOP　太郎=DAT　本=ACC　あげる-NPST

「私は太郎に本をあげた。」

13.2　格体系

本節では，特に中心項，すなわち自動詞主語 (S)，他動詞主語 (A)，他動詞直接目的語 (O)，他動詞間接目的語 (E) の格標示に着目し，これらのうちどれが同じ格標示でグルーピングされるかという配列 (alignment) の観点から記述を行う。

13.2.1　一項文

一項文において，主語は主格によって標示される。主格には=*ga* と=*no* の二種類がある。詳細な使い分けが不明だが，概して有生性の高い主語は=*ga* で，低い主語は=*ga* と=*no* の両方で標示されうる。

(338) *nezumiga* *oru.*
nezumi=ga or-ru
ネズミ=NOM いる-NPST

「ネズミがいる。」

(339) *ame{ga/no}* *huriyoru.*
ame{=ga/no} hur-i-yor-ru
雨{=NOM/=NOM} 降る-THM-PROG-NPST

「雨が降っている。」

13.2.2 二項文

13.2.2.1 二項動詞文

二項動詞文において，主語は主格によって標示され，目的語は対格によって標示される。

(340) *mamiga* *miyoba* *kurasitattai.*
mami=ga miyo=ba kuras-i-ta=cu=tai
マミ=NOM ミヨ=ACC 殴る-IFX-PST=SFP

「マミがミヨを殴ったんだよ。」

主格助詞に関して，*=ga* と*=no* のうち，二項動詞文の主語を*=ga* が標示できることは確認しているが，*=no* が標示できるか否かは不明である。焦点範囲にある主語が無助詞となる例は，談話中では観察されていない。

目的語の標示に関して，対格助詞*=ba* が目的語を標示する場合もあるが，目的語が有形の格標示をうけない場合もある[22]。どのような環境で目的語が無助詞で生じるかは不明であるが，談話中では，目的語が無生物であり，動詞の直前位置にある際に多く生じる。目的語が無助詞で標示されている例を，以下に示す。

(341) *piisu* *cigitte* *okura* *cigitte* *mame* *cigitte*
piisu cigir-te okura cigir-te mame cigir-te
グリンピース ちぎる-SEQ おくら ちぎる-SEQ 豆 ちぎる-SEQ

「グリンピースをちぎって，おくらをちぎって，豆をちぎって」

13.2.2.2 二項形容詞文

二項形容詞文は，主語が主格で，目的語が主格または対格で標示される。

[22] 九州方言において，目的語の無助詞が生じるか否かには大きな方言差がある。熊本県熊本市方言（坂井 2019）や鹿児島県頴娃町方言（木部 2019）は有形の格標示を受けることがほとんどであるが，福岡県北九州市方言（木部 2019），柳川方言や宮崎県椎葉村尾前方言（下地 2016b）は目的語の無助詞が頻繁に生じる。

(342) *origa* *mizu{ga/ba}* *hosika.*
ori-ϕ=ga mizu{=ga/=ba} hosi-ka
1-SG=NOM 水{=NOM/=ACC} ほしい-NPST

「(「誰が水がほしいの？」に対して）私が水がほしい。」

九州方言の一部では，二項形容詞文の第二項が与格で標示される現象がある（下地他 2018, 松岡 2019, 中村 2019, 久保薗 2018, 2019）が，柳川方言で同様の現象が生じるかは不明である。

13.2.3 三項文

三項文は，主語が主格で，間接目的語が与格で，直接目的語が対格で標示される。

(343) *origa* *tarooni* *honba* *yatta.*
ori-ϕ=ga taroo=ni hon=ba yar-ta
1-SG=NOM 太郎=DAT 本=ACC あげる-NPST

「私は太郎に本をあげた。」

13.3 文タイプ

本節では，文タイプからみた単文の類型，すなわち平叙（述べたて），疑問（聞き手への発話の要求），命令（聞き手への行為の要求）の 3 大文タイプの類型に基づき，それぞれの特徴を記述する。

13.3.1 動詞文の文タイプ

平叙文，疑問文，命令文の例を，以下に示す。

(344) 平叙文の例
amadowa *yosari* *kuru.*
amado=wa yosari kur-ru
雨戸=TOP 夜 閉める-NPST

「雨戸は夜閉める。」

(345) a. 肯否疑問文の例
oyamo *nawattonnahatto.*
oya=mo nawar-tor-i-nahar-ru=to
親=ADD 引っ越す-PF-THM-HON-NPST=SFP

「親も（福岡に）お引越しなさっているの？」

b. 疑問詞疑問文の例
dariga *miyoba* *kurasitacukai.*
dari=ga miyo=ba kuras-i-ta=cu=kai
誰=NOM ミヨ=ACC 殴る-IFX-PST=FMN=Q

「誰がミヨを殴ったの？」

(346) a. 命令（肯定命令）の例

hayo *hasire.*
haya-u hasir-re
早い-ADVLZ 走る-IMP

「早く走れ。」

b. 禁止（否定命令）の例

zunna.
zu-runa
出る-PROH

「出るな。」

なお，命令文に関して，命令接辞も使用されるが，接続助詞=*nara* を用いた婉曲的な表現も使用される。禁止接辞-*runa* に関しても，肯定継起接辞や接続助詞=*nara* をとった動詞と *deken* とを用いた表現も使用される。

(347) *sotosan* *dete* *minnara.*
soto=san <de-te mi-ru=nara>
外=ALL <出る-SEQ みる-NPST=CND>

「外に出てみたら？」

(348) a. *mite* *deken.*
<mi-te deke-n>
<見る-SEQ ?-NEG>

「見てはいけない。」

b. *yuunara* *deken.*
<yuw-ru=nara deke-n>
<言う-NPST=CND ?-NEG>

「言ってはいけない。」

13.3.2 形容詞文の文タイプ

形容詞文は，平叙文と疑問文に分類できる。以下に例を示す。

(349) 平叙文の例

taroowa *asino* *hayaka.*
taroo=wa asi=no haya-ka
太郎=TOP 足=NOM 速い-NPST

「太郎は足が速い。」

(350) 疑問文の例

yuute *yokaka.*

yuw-te yo-ka=ka

言う-SEQ よい-NPST=Q

「言っていいか？」

13.3.3 名詞文の文タイプ

名詞文は，平叙文と疑問文に分類できる。それぞれの例を，以下に示す。

(351) 平叙文の例

yagiwa *yagi.*

yagi=wa yagi

山羊=TOP 山羊

「山羊は山羊だ。」

(352) 疑問文の例

koryaa *mikanka.*

kori=wa mikan=ka

これ=TOP ミカン=Q

「これはミカンか？」

13.4 肯定と否定

本節では，動詞文，形容詞文，名詞文において，命題を否定する場合にどのような手法がとられるのかを，命題が肯定される場合と比較しつつ記述する。

13.4.1 動詞文

動詞文において肯定と否定が対立するのは，直接法，命令法，継起の場合である。動詞文は，直接法において，肯定の場合*-ru* や*-ta* を，否定の場合は*-n* をとる。命令法において，肯定の場合は*-ro/-re/-i* を，否定の場合は*-runa* をとる。継起において，肯定の場合*-te* を，否定の場合は*-nna*，*-zi*，*-dena* をとる。直接法否定接辞*-n* に推量を表わす終助詞*=mee*（§ 12.3.14）が後続する場合もある。

(353) 直接法

a. 肯定

asukoni *inno* *oru.*

asuko=ni in=no or-ru

あそこ=DAT 犬=NOM いる-NPST

「あそこに犬がいる。」

b. 否定

imaa *oran.*
ima=wa or-a-n
今=TOP いる-THM-NEG

「今はいない。」

(354) 命令法

a. 肯定命令
sotosan *dero.*
soto=san de-ro
外=ALL 出る-IMP

「外に出ろ。」

b. 否定命令（禁止）
zunna.
zu-runa
出る-PROH

「出るな。」

(355) 継起

a. 肯定継起
rireede *makete*
riree=de make-te
リレー=INST 負ける-SEQ

「リレーで負けて」

b. 否定継起（*-nna* で例示）
orewa *areni* *makenna* *oikittayaroo.*
ore-ϕ=wa are=ni make-nna ow-i-kir-ta=yar-a-u
1-SG=TOP あいつ=DAT 負ける-NEG.SEQ 追う-THM-POT-PST=COP-THM-INFR

「（足が速かったら）私はあいつに負けないで追うことができただろう。」

13.4.2 形容詞文

形容詞文においては，否定は補助形容詞 *na*「ない」によって表される。

(356) 屈折形容詞文

a. 肯定
taroowa *asino* *hayaka.*
taroo=wa asi=no haya-ka
太郎=TOP 足=NOM 速い-NPST

「太郎は足が速い。」

b. 否定

taroowa *asino* *hayo* *naka.*
taroo=wa asi=no haya-u na-ka
太郎=TOP 足=NOM 速い-ADVLZ ない-NPST

「太郎は足が速くない。」

(357) 非屈折形容詞文

a. 肯定

an *hanawa* *kiree.*
an hana=wa kiree
あの 花=TOP きれい

「あの花はきれい。」

b. 否定

kireeya *nakamon.*
kiree=ya na-ka=mon
きれい=COP ない-NPST=SFP

「きれいじゃないもの。」

13.4.3 名詞文

名詞文においては，否定は補助形容詞 *na-*「ない」によって表される。

(358) a. 肯定

nabanayatta.
na+hana=yar-ta
菜 + 花=COP-PST

「菜花だった。」

b. 否定

nabanaya *naka.*
na+hana=ya na-ka
菜 + 花=COP ない-NPST

「菜花じゃない。」

13.5 TAM 体系

13.5.1 テンス（時制）

時制は，非過去と過去の二項対立を示す。動詞述語に関して，時制の対立が動詞の屈折体系で示されるのは直説法肯定の場合のみであり，推量法，義務法に関しては動詞に後続するコピュラが時制を標示する。動詞の意志法や命令法においては，その意味的な性質上，時制の対立は見られない。屈折形容詞

述語において，時制の対立は屈折接辞に現れる。非屈折形容詞述語と名詞述語においては，時制の対立は後続するコピュラに現れる。以下では、非過去時制と過去時制について概観する。

13.5.1.1　非過去

非過去接辞は，動作動詞につく場合は未来の行為もしくは現在の習慣を表し，状態動詞や形容詞につく場合は現在の状態を表す。動詞述語において，非過去を表す接辞は*-ru* であり，屈折形容詞述語において非過去を表す接辞は*-ka* である。例を以下に示す。

(359)　動作動詞：未来の行為

oraa	*doramaba*	*mitakaken*	*miru.*
ori-ϕ=wa	dorama=ba	mi-ta-ka=ken	mi-ru
1-SG=TOP	ドラマ=ACC	見る-ADJLZ-NPST=CSL	見る-NPST

「私はドラマを見たいから見る。」

(360)　動作動詞：現在の習慣

ora	*anteezai*	*noode*	*neru.*
ori-ϕ=wa	anteezai	nom-te	ne-ru
1-SG=TOP	安定剤	飲む-SEQ	寝る-NPST

「私は（毎日）睡眠安定剤を飲んで寝る。」

(361)　状態動詞：現在の状態

nekono	*asukoni*	*oru.*
neko=no	asuko=ni	or-ru
猫=NOM	あそこ=DAT	いる-NPST

「猫があそこにいる。」

(362)　屈折形容詞：現在の状態

taroowa	*asino*	*hayaka.*
taroo=wa	asi=no	haya-ka
太郎=TOP	足=NOM	速い-NPST

「太郎は足が速い。」

13.5.1.2　過去

過去接辞は，過去の出来事や状態を表す。動詞述語において，過去を表す接辞は*-ta* であり，屈折形容詞述語において，過去を表す接辞は*-katta* である。例を以下に示す。

(363) 過去の出来事

kinoo yume mita.

kinoo yume mi-ta

きのう 夢 見る-PST

「きのう夢を見た。」

(364) 過去の状態

taroowa izenna asino hayakattabai.

taroo=wa izen=wa asi=no haya-katta=bai

太郎=TOP 以前=TOP 足=NOM 速い-PST=SFP

「太郎は昔は足が速かったよ。」

13.5.2 アスペクト

動詞述語は，アスペクトの対立をもつ。アスペクトを表す接辞のうち，現時点で確認しているものは，*-yor*，*-tor*，*-tok* である。工藤（1999）は，*-yor*，*-tor*，*-tok* が存在する方言の多くで，類推により *-yok* のような形式が生じていると指摘している。本論文が考察対象としている二名の話者が*-yok* という接辞を使用するか否かは，現時点で不明である[23]。

アスペクトに関する詳細な調査は未調査であるため，以下ではそれぞれの接辞が使われた例と，工藤（2006: 107），工藤（2014: 65）を基準とした動詞の分類を示す。

13.5.2.1 継続

-yor（§ 5.4.4.1）は，主体変化動詞や主体動作動詞に接続し，動作の継続を表す。

---

[23] なお，若年層の柳川方言話者である筆者は，ある動作を開始し，意図的に未達成の状態を継続するという意味で*-yok* を，意図的にある動作を完了させるという意味で*-tok* を用いる。例を以下に示す。

(365) 若年層話者（筆者）による*-yok* の例

saki ikiyokuyo.

saki ik-i-yok-ru=yo

先 行く-THM-ANT.PROG-NPST=SFP

「（一緒に目的地に向かっている人が忘れ物を取りに行く際に）先に行っているよ（目的地に到着する前に合流することを含意）。」

(366) 若年層話者（筆者）による*-tok* の例

saki ittokuyo.

saki ik-tok-ru=yo

先 行く-ANT.PF-NPST=SFP

「（一緒に目的地に向かっている人が忘れ物を取りに行く際に）先に行っておくよ（自分が目的地に到着した後に合流することを含意）。」

(367) *ameno huriyoru.*
ame=no hur-i-yor-ru
雨=NOM 降る-THM-PROG-NPST

「雨が降っている。」（主体変化主体動作動詞）

(368) *karasuga kaeriyoru.*
karasu=ga kaer-i-yor-ru
カラス=NOM 帰る-THM-PROG-NPST

「カラスが（山に）帰っている。」（主体動作動詞）

存在動詞 *ar*-「ある」や *or*-「いる」にも，アスペクト接辞-*yor* が接続する例がある。また，屈折形容詞に接続する過去回想接辞-*kariyotta*（§ 6.1.4）は，通時的には-*yor* を含む。

(369) *hatakeno ariyotta.*
hatake=no ar-i-yor-ta
畑=NOM ある-THM-PROG-PST

「畑があった。」

(370) *kogen hutoka wagudoono oriyottagenatanmo.*
kogen huto-ka wagudoo=no or-i-yor-ta=gena=tan=mo
こんなに 大きい-NPST ひきがえる=NOM いる-THM-PROG-PST=HS=SFP=POL

「こんなに大きいひきがえるがいたらしいよ。」

13.5.2.2 完了

-*tor*（§ 5.4.4.2）は，主体変化動詞や主体動作動詞，主体動作客体変化動詞，状態動詞に接続し，結果状態や動作の完了を表す。

(371) *terebino nedokattoru.*
terebi=no nedokar-tor-ru
テレビ=NOM 壊れる-PF-NPST

「テレビが壊れている。」（主体変化動詞）

(372) *asa hayo tabetoruken*
asa haya-u tabe-tor-ru=ken
朝 早い-ADVLZ 食べる-PF-NPST=SFP

「朝早く（ご飯を）食べているから」（主体動作動詞）

(373) *toba* *aketoru.*
to=ba ake-tor-ru
戸=ACC 開ける-PF-NPST

「扉を開けている。（主体動作客体変化動詞）」

(374) *ariga* *hari keetoru.*
ari-ϕ=ga hari kak-tor-ru
あれ-SG=NOM 腹 掻く-PF-NPST

「あいつが腹を立てている。」（状態動詞）

13.5.2.3 予期完了

-tok（§ 5.4.4.3）は，主体動作客体変化動詞や主体動作動詞に接続し，前もってある動作を完了させておくという意味を表す。

(375) *watasiga* *asukode* *ocyadon* *waketokuto*
watasi-ϕ=ga asuko=de o-cya=don wakas-tok-ru=to
1-SG=NOM あそこ=INST POL-茶=EXM 沸かす-ANT.PF-NPST=CND

「私があそこでお茶など沸かしておくと」（主体動作客体変化動詞）

(376) *seeyani* *yuutoku.*
seeya=ni yuw-tok-ru
セイヤ=DAT 言う-ANT.PF-NPST

「セイヤに言っておく。」（主体動作動詞）

13.5.3 ムード

本節では，ムードについて記述する。動詞述語は直説法，推量法，意志法，義務法，命令法の対立をもつ。屈折形容詞述語は直説法のみをもち，動詞に後続するコピュラが推量接辞-*u* をとる場合は推量の意味を表す。非屈折形容詞述語，名詞述語は，後続する接語が直説法，推量法の対立をもつ。

13.5.3.1 直説法

直説法は，屈折接辞によって標示される。

(377) 動詞述語
heyakara *zuru.*
heya=kara zu-ru
部屋=ABL 出る-NPST

「部屋から出る。」

13.5.3.2　推量法

推量法は，推量の意味を表す。動詞語幹が直接推量接辞をとるほか，述語に後続するコピュラが推量接辞をとることもある。なお，§ 5.6.2 や§ 6.1.3 で述べたように，一部の環境ではコピュラ動詞は縮約する。

(378)　*wakaroo.*
wakar-a-u
わかる-THM-INFR
「わかるでしょう？」

(379)　*wakattayaroo/wakattaroo.*
wakar-ta=yar-a-u
わかる-PST=COP-THM-INFR
「わかったでしょう？」

推量法の述語には，確認要求の機能をもつ=*ga*，同意要求の機能をもつ=*dai* が後続する場合が多い。

(380)　*insyoono　cigaooga.*
insyoo=no　cigaw-a-u=ga
印象=NOM　違う-THM-INFR=CNF
「印象が違うじゃない？」

(381)　*honna　kocuzyaroodai.*
honna　kocu=zyar-a-u=dai
本当の　こと=COP-THM-INFR=ADR
「本当のことでしょう。」

近隣方言においては，推量表現として *do* や *doo* という形式が用いられるが（肥後全体；吉町　1948: 186，熊本市方言；竹中　2008，熊本県南部方言；秋山　1983: 213，熊本県菊池市方言；秋山・吉岡　1991: 30），調査票調査ではこれらの形式は容認されず，これまでの自然談話にも現れていない。なお，筑後方言[24]において *roo*（例：kakuroo「書くだろう」）という推量表現があったとされるが（吉町　1948: 186），現在の柳川方言においては，動詞非過去肯定形に *roo* という形式が後続する形式は面接調査で容認されず，また，現時点までの自然談話にも現れていない。

13.5.3.3　意志法

意志法は，動詞述語のみがもつ法であり，話し手の願望を述べる際や聞き手を勧誘する際に用いられる。話し手の願望を述べる際は，意志接辞-*u* に形式名詞=*goto* と動詞 *ar*-が融合したもの（§ 10.3.1.2）が後続することがあり，勧誘の場合には，終助詞=*i* が後続する場合がある。

[24] 詳細な地域は，吉町 （1948）には明示されていない。

(382) 願望

kenka syuugotaru.

kenka se-u=goto=ar-ru

けんか する-INT=FMN=ある-NPST

「けんかしたい。」

(383) 勧誘

cyotto mite myuui.

cyotto mi-te mi-u=i

ちょっと 見る みる-INT=HOR

「ちょっと見てみようよ。」

13.5.3.4 義務法

義務法は動詞述語のみがとる法であり，その動詞が表す意味を遂行しなければならないという意味を示す。

(384) *okanemo haruwayan.*

o-kane=mo haruw-a-yan

POL-金=ADD 払う-THM-OBL

「お金も払わないといけない。」

-yan には，推量の意味を表す終助詞=*mee*（§ 12.3.14）が後続する場合がある。

(385) *nookyoodasi seyanmeega.*

nookyoo+das-i se-yan=mee=ga

農協 + 出す-THM する-OBL=INFR=CNF

「農協に出さないといけないじゃない？」

13.6 ヴォイス

13.6.1 使役

使役化は，使役の派生接辞-*sase/sasu*（§ 5.4.1）が用いられる。他動詞節が使役化される場合，被使役者は与格で標示され，目的語は対格で標示される。自動詞節が使役化された場合の被使役者の格標示は不明である。

(386) *oriwa oniicyanni komeba motaseyotta.*

ori-ϕ=wa oniicyan=ni kome=ba mot-sase-yor-ta

1-SG=TOP お兄ちゃん=DAT 米=ACC もつ-CAUS-PROG-PST

「私はお兄ちゃんに米をもたせていた。」

13.6.2　受動

受動化は，派生接辞*-rare/raru*（§ 5.4.2）が用いられる。主語であった項が明示される場合は，与格*=ni* もしくは奪格*=kara* で標示される。近隣方言では，動作主から対象への動作の方向性が見えやすい際に動作主が奪格標示されると指摘されているが（玖波井 2017: 22），柳川方言において動作主の格標示にどのような変数が影響しているかは未検証である。

(387)　*senseeni*　*nootoba*　*miraruru.*
sensee=ni　nooto=ba　mi-raru-ru
先生=DAT　ノート=ACC　見る-PASS-NPST

「先生にノートを見られる。」

(388)　*origa*　*hacikara*　*sasareta.*
ori-ϕ=ga　haci=kara　sas-rare-ta
1-SG=NOM　蜂=ABL　刺す-PASS-PST

「私が蜂に刺された。」

13.7　尊敬

尊敬を表す接辞には，*-nahar*（§ 5.4.5.1）と*-ras*（§ 5.4.5.2）の二つがある。現時点までのデータでは，これらの接辞は 3 人称主語の場合にのみ用いられている。

(389)　*ano*　*sensee*　*yuu*　*terebiba*　*miyonnaharu.*
ano　sensee　yo-u　terebi=ba　mi-yor-i-nahar-ru
あの　先生　よい-ADVLZ　テレビ=ACC　見る-PROG-THM-HON-NPST

「あの先生はよくテレビをご覧になっている。」

(390)　*toocyanno*　*gamadasiyorasitaken*
toocyan=no　gamadas-i-yor-ras-i-ta=ken
お父さん=NOM　頑張る-THM-PROG-HON-IFX-PST=CSL

「お父さんががんばっていたから」

話者の内省では，これらの接辞のうち敬意が高いのは*-nahar* の方である。*-ras* に関しては，尊敬という意味が薄く，(391) に示すように，年下の親族が主語の場合にもこの接辞を用いることが可能である。*-ras* 及びその同根と思われる形式が高い敬意を示さないのは，近隣方言でも同様のようである（福岡県八女市方言；藤 1970: 47，福岡県大牟田市方言；中島 2019，佐賀県佐賀方言；小野 1983: 108，長崎方言；愛宕 1983: 138，熊本県菊池郡大津町方言；渡辺 2017，熊本県葦北郡芦北町方言；尾川 2018）。

(391)　*origen*　*○○ cyanna*　*issyookenmee*　*benkyoo*　*sasubano.*
ori-ϕ=ga=e=n　○○-cyan=wa　issyookenmee　benkyoo　s-ras-ru=bano
1-SG=GEN=家=GEN　人名-DIM=TOP　一生懸命　勉強　する-HON-NPST=SFP

「我が家の○○ちゃん（話し手の孫）は一生懸命勉強するよ。」

なお，藤原（1952: 1），岡野（1983: 65）は，柳川方言において*-mes* という尊敬接辞が用いられていると指摘している。筆者による調査では，*-mes* は *orimesukanmo*「いらっしゃいますか？（人の家を訪ねたときのあいさつ）」など定形表現の中でしか観察できていない。よって，現時点では考察外としている。日本語標準語の「召し上がる」にあたるような語彙的な尊敬動詞があるかどうかは，現時点で不明である。

13.8 可能

可能の意味を表す接辞には，*-kir*（§ 5.4.3.1）と*-rare/raru*（§ 5.4.3.2）がある。

(392) *dosiken omae kenka sigocuba sikiruka.*
dosi=ken omae-ϕ kenka sigocu=ba si-kir-ru=ka
なぜ=CSL 2-SG こんな 仕事=ACC する-POT-NPST=Q

「なぜおまえはこんな仕事をできるのか。」

(393) *nantomo yuwarenyatta.*
nan=to=mo yuw-rare-n=yar-ta
何=QT=ADD 言う-POT-NEG=COP-PST

「なんとも言えなかった。」

これらと同根の接辞をもつ他の九州方言では，いわゆる能力可能を表す場合に*-kir* を，状況可能を表す場合に*-rare/raru* が用いられる（九州方言研究会 1969: 94-97，岡野 1983: 80，平塚 2014: 129-130，松田 2017: 149）。柳川方言においても同様の使い分けがある可能性が高いが，本論文が調査対象とする二人の話者が*-kir* や*-rare/raru* をどのように使い分けるのかは未検証である[25]。

[25] 若年層柳川方言の話者である筆者の内省では，*-kir* は渋谷（2006: 65）の分類でいう心情可能と能力可能と内的条件可能を，*-rare/raru* は能力可能と内的条件可能と外的条件可能を表す場合に用いる。以下に，例を示す。

(394) 心情可能
watasiwa pakuciiwa tabekiran.
watasi-ϕ=wa pakucii=wa tabe-kir-a-n
1-SG=TOP パクチー=TOP 食べる-POT-THM-NEG

「（嫌いなので）私はパクチーは食べられない。」

(395) 能力可能
arerugiiken sobawa {tabekiran/taberaren}.
arerugii=ken soba=wa {tabe-kir-a-n/tabe-rare-n}
アレルギー=CSL そば=TOP { 食べる-POT-THM-NEG/食べる-POT-NEG}

「アレルギーだからそばは食べられない。」

(396) 内的条件可能
onakaga itakaken gohanwa {tabekiran/taberaren}.
onaka=ga ita-ka=ken gohan=wa {tabe-kir-a-n/tabe-rare-n}
お腹=NOM 痛い-NPST=CSL ご飯=TOP { 食べる-POT-THM-NEG/食べる-POT-NEG}

「お腹が痛いからご飯は食べられない。」

自然談話 1

以下に，話者 HK 氏による自然談話を示す。この自然談話は，2020 年 2 月に筆者が聞き手となって収録したものである。不明瞭で聞き取れない部分に関しては，***という記号を用いて不明瞭であることを示す。言い淀みがある場合は... を用いて示す。

(1) *moo syoku ciitaken*
moo syoku cuk-ta=ken
もう 職 就く-PST=CSL

「もう（息子が）職に就いたから」

(2) *atocugino nakakennomo.*
ato+cug-i=no na-ka=ken=nomo
後 + 継ぐ-THM=NOM ない-NPST=CSL=SFP

「跡継ぎがいないからね。」

(3) *kondowa moo yoka kikaino zidooba kawayangocu zidaini*
kondo=wa moo yo-ka kikai=no zidoo=ba kaw-a-yan=gocu zidai=ni
今度=TOP もう よい-NPST 機械=GEN 自動=ACC 買う-THM-OBL=FMN 時代=DAT
nattarooga.
nar-ta=yar-a-u=ga
なる-PST=COP-THM-INFR=CNF

「今度はもう，よい自動の機械を買わないといけないような時代になったじゃない？」

(4) *soriken moo *** nanzenmanci surunomo.*
sori=ken moo *** nanzenman=ci su-ru=nomo
それ=CSL もう *** 何千万=QT する-NPST=SFP

「だからもう***，何千万円って（値段が）する。」

(5) *ee iccyogatto iwangoto*
ee ? yuw-a-n=goto
ええ 言う-THM-NEG=FMN

「ええ，？ 言わないくらい。」

---

(397) 外的条件可能
nemattoruken sorewa taberaren.
nemar-tor-ru=ken sore=wa tabe-rare-n
腐る-PF-NPST=CSL それ=TOP 食べる-POT-NEG

「腐っているからそれは食べられない。」

(6) *zaisanno ittobanmo.*
zaisan=no ir-ru=to=ban=mo
財産=NOM 要る-NPST=SFP=POL

「財産が要るんだよ。」

(7) *soriwa modo... modosikiranyan.*
sori=wa modo... modos-i-kir-a-n=yan
それ=TOP 戻す 戻す-THM-POT-THM-NEG=SFP

「それは（借金しても）返せないじゃない。」

(8) *sosiken moo sogen yuute yameta.*
sosiken moo sogen yuw-te yame-ta
だから もう そう 言う-SEQ やめる-PST

「だからもう，そう言ってやめた。」

(9) *umi sitai tannaka sitai sitenomo.*
umi si-tai tannaka si-tai si-te=nomo
海 する-PARA 田んぼ する-PARA する-SEQ=SFP

「漁業をしたり稲作をしたりね。」

(10) *kome cukuttenomo kome cukuran toki hatake site*
kome cukur-te=nomo kome cukur-a-n toki hatake si-te
米 作る-SEQ=SFP 米 作る-THM-NEG とき 畑 する-SEQ

「お米を作って，お米を作らないときは畑仕事をして」

(11) *huyubunna kome cukutte ano hatakeba citto... iroiro cukuriyotta.*
huyubun=wa kome cukur-te ano hatake=ba citto iroiro cukur-i-yor-ta
冬の時期=TOP 米 作る-SEQ FIL 畑=ACC 少し いろいろ 作る-THM-PROG-PST

「冬の時期は，米を作って，あの，畑をちょっと... いろいろ作っていた。」

(12) *cukkara cugi nookyoodasi surugoto.*
cugi=kara cugi nookyoo+das-i su-ru=goto
次=ABL 次 農協 + 出す-THM する-NPST=FMN

「次から次に農協に出せるように。」

(13) *yokattayo.*
yo-katta=yo
よい-NPST=SFP

「よかったよ。」

(14) *iccyan *** piisuba gogazzibunni ano torurugotono.*
iccyan *** piisu=ba gogacu+zibun=ni ano toru-ru=goto=no
一番 *** グリンピース=ACC 5 月 + 時期=DAT FIL とれる-NPST=FMN=SFP

「一番***，グリンピースを 5 月の時期にとれるようにね。」

(15) *sono maewa ano hyakusyoon sigocuba seyanyakkamon nomo*
sono mae=wa ano hyakusyoo=n sigocu=ba se-yan=yar-ru=ka=mon nomo
その 前=TOP FIL 農家=GEN 仕事=ACC する-OBL=COP-NPST=Q=SFP ね

「その前は，あの，農家の仕事をしないといけないじゃない。」

(16) *gogazzibunni totte okura site nabana cukutte*
gogacu+zibun=ni tor-te okura si-te na+hana cukur-te
5 月 + 時期=DAT とる-SEQ おくら する-SEQ 菜 + 花 作る-SEQ

「5 月の時期に，（グリンピースを）とって，おくらを作って，菜花を作って」

(17) *ma hiton nanzyai si... nabana okurani nabanani piisu*
ma hito-cu nan=zyai si na+hana okura=ni na+hana=ni piisu
あと 一-CLF 何=Q する 菜 + 花 おくら=DAT 菜 + 花=DAT グリンピース

「あと一つ何かして... 菜花，おくらに菜花にグリンピース」

(18) *miccuyattayaka zutto ariyottayo.*
mic-cu=yar-ta=yar-ru=ka zutto ar-i-yor-ta=yo
三-CLF=COP-PST=COP-NPST=Q ずっと ある-THM-PROG-PST=SFP

「3 つだっただろうか，（収穫する作物が？）ずっとあったよ。」

(19) *sosuto kondowa konnoo sitai mugi... mugigonno sitai*
sosuto kondo=wa konnoo si-tai mugi... mugi+konnoo si-tai
そして 今度=TOP 収穫 する-PARA 麦 麦 + 収穫 する-PARA
siyoruken nomo moo cukkara cugi zenni nariyottayo.
si-yor-ru=ken nomo moo cugi=kara cugi zen=ni nar-i-yor-ta=yo
する-PROG-PST=CSL ね もう 次=ABL 次 お金=DAT なる-THM-PROG-PST=SFP

「そして今度は稲の収穫をしたり麦の収穫をしたりしていたからね，次から次にお金になっていたよ。」

(20) *okagede* *karadan* *cuyokattaken* *nomo.*
okage=de karada=n cuyo-katta=ken nomo
おかげ=INST 体=NOM 元気-PST=CSL ね

「おかげで体も丈夫だったからね。」

(21) *honto* *ano* *honiorisigozzya* *nakabatten* *zikanbanomo* *hayo*
honto ano honi+or-i+sigocu=zya na-ka=batten zikan=ba=nomo haya-u
ほんと FIL 骨 + 折る-THM+ 仕事=COP ない=ADVRS 時間=ACC=SFP 速い-ADVLZ
siyorayanyattakennomo.
si-yor-a-yan=yar-ta=ken=nomo
する-PROG-THM-OBL=COP-PST=CSL=SFP

「ほんとにあの，骨折り仕事というわけじゃないけれど，時間をね，速くしないといけなかったからね。」

中略

(22) *toocyanga* *sindekara* *nizyuuicinenni* *naruken* *sono* *mae* *zutto*
toocyan=ga sin-te=kara nizyuuicinen=ni nar-ru=ken sono mae zutto
お父さん=NOM 死ぬ-SEQ=PRM 21 年=DAT なる-NPST=CSL その 前 ずっと
siyottatannomo
si-yor-ta=tan=nomo
する-PROG-PST=SFP=SFP

「お父さん（話し手の夫）が死んでから 21 年になるからね，その前はずっと（農業を）していたよ。」

(23) *moo* *unba* *yametekara* *yonzyuunenguree* *nacci*
moo umi=ba yame-te=kara yonzyuunen=guree nar-ru=ci
もう 海=ACC やめる-SEQ=PRM 40 年=DEG なる-NPST=QT
iiyonnahattamonno.
yuw-i-yor-i-nahar-ta=mon=no
言う-THM-PROG-THM-HON-PST=SFP=SFP

「もう海仕事をやめて 40 年くらいになるっておっしゃっていたよ。」

(24) *sosite* *unba* *nizyuunen* *ciko* *site* *yamete* *hatakesigocuba*
sosite umi=ba nizyuunen cika-u si-te yame-te hatake+sigocu=ba
そして 海=ACC 20 年 近い-ADVLZ する-SEQ やめる-SEQ 畑 + 仕事=ACC
zyuunannen *nizyuunenmade* *sitoranzyan* *zyuu...* *zyuugorokunenyattayaroo.*
zyuunannen nizyuunan=made si-tor-a-n=zyan zyuu... zyuugorokunen=yar-ta=yar-a-u
十何年 20 年=LIM する-PF-THM-NEG=SFP 10... 15 16 年=COP-PST=COP-THM-INFR

「そして海仕事を 20 年近くして，やめて，畑仕事を十何年，20 年はしていないよ，15 年か 16 年かだっただろう。」

(25) *toocyanga* *sindakenno* *yamete*
toocyan=ga sin-ta=ken=no yame-te
お父さん=NOM 死ぬ-PST=CSL=SFP やめる-SEQ

「お父さんが死んだからやめて」

(26) 筆者：畑はこのあたりにあったんですか？

(27) *moo* *hatakewa* *zuratto* *koccinito* *koccito* *koccito*
moo hatake=wa zura=tto kocci=ni=to kocci=to kocci=to
もう 畑=TOP ずら=QT こっち=DAT=COM こっち=COM こっち=COM
ariyottakennomo.
ar-i-yor-ta=ken=nomo
ある-THM-PROG-PST=CSL=SFP

「もう畑はずらっと，こっちとこっちとこっちにあったからね。」

(28) *cittozucu* *cukuryotta.*
citto=zucu cukur-i-yor-ta
少し=ずつ 作る-THM-PROG-PST

「少しずつ作っていた。」

(29) *isogasikariyottayo.* *asa hayo* *okiyora***.*
isogasi-kariyotta=yo. asa haya-u oki-yor-a***
忙しい-HAB.PST=SFP 朝 早い-ADVLZ 起きる-PROG-THM***

「忙しかったよ。朝早く起き***。」

(30) *de hitoga* *ziisan* *baasanno* *kaseeni* *kiyonnahatta.*
de hito=ga ziisan baasan=no kasee=ni ki-yor-i-nahar-ta
で 人=NOM おじいさん おばあさん=NOM 加勢=DAT 来る-PROG-THM-HON-PST

「そして人が，おじいさんおばあさんが手伝いにいらしていた。」

(31) *sokon* *tonanno* *ziicyan* *baacyanno* *onnahatta.*
soko=n tonari=no ziicyan baacyan=no or-i-nahar-ta
そこ=GEN 隣=GEN おじいちゃん おばあちゃん=NOM いる-THM-HON-PST

「そこの隣のおじいちゃんおばちゃんがいらっしゃった。」

(32) *tosiyonnonomo* *sinumade* *kasee* *siyonnahatta.*
toriyori=no=nomo sin-ru=made kasee si-yor-i-nahar-ta
年寄り=NOM=SFP 死ぬ-NPST=LIM 加勢 する-PROG-THM-HON-PST

「お年寄りがね，死ぬまで手伝ってくださっていた。」

中略

(33) *batten* *moo* *zyuunizi* *zyuuicizihanzibunna* *kaette* *konto* *senbecu* *site*
batten moo zyuuzini zyuuicizihan+zibun=wa kaer-te ko-n=to senbecu si-te
ADVRS もう 12 時 11 時半 + 時期=TOP 帰る-SEQ 来る-NEG=CND 選別 する-SEQ
nookyoodasi *seyanmeega.*
nookyoo+das-i se-yan=mee=ga
農協 + 出す-THM する-OBL=INFR=CNF

「だけどもう，12 時，11 時半くらいには帰ってこないと，選別して農協に出さないといけないじゃない？」

(34) *son* *maeni* *gamadeete* *torayantotanmo.*
son mae=ni gamadas-te tor-a-yan=to=tan=mo
その 前=DAT がんばる-SEQ とる-THM-OBL=FMN=SFP=POL

「その前にがんばってとらないといけないんだよ。」

(35) *syoobuyatta.*
syoobu=yar-ta
勝負=COP-PST

「勝負だった。」

(36) 筆者：それは大仕事だったでしょうね。

(37) *batten* *moo* *kaette* *kutto* *toocyanto* *hutedde* *sassassassade*
batten moo kaer-te ku-ru=to toocyan=to hute-ri=de sassassassa=de
ADVRS もう 帰る-SEQ 来る-NPST=CND お父さん=COM 二-CLF=INST さっさっさっさ=INST
moo *naretorukenno* *hayakariyottaken.*
moo nare-tor-ru=ken=no haya-kariyotta=ken
もう 慣れる-PF-NPST=CSL=SFP 速い-HAB.PST=CSL

「でもまあ，帰ってくるとお父さん（話し手の夫）と二人で，さっさと，もう慣れているからね，（作業が）速かったから。」

(38) *nizimadekana.* *sosiken* *gohanna* *tabeetabe* *siyorayanyatta.*
nizi=made=ka=na sosiken gohan=wa ~tabe si-yor-a-yan=yar-ta
2 時=LIM=Q=SFP だから ごはん=TOP IMP~ 食べる する-PROG-THM-OBL=COP-PST

「(農協に出すのは) 2 時までかな。だからご飯は食べ食べ (作業を) しないといけなかった。」

(39) *hirugohannano* *asamo* *hayo* *tabetoruken* *hidarukayakkanmo.*
hiru+gohan=wa=no asa=mo haya-u tabe-tor-ru=ken hidaru-ka=yar-ru=kan=mo
昼 + ご飯=TOP=SFP 朝=ADD 早い-ADVLZ 食べる-PF-NPST=CSL ひもじい-NPST=COP-NPST=Q=POL

「昼ご飯はね。朝も早い時間に食べているから,(お昼には) ひもじいじゃない?」

中略

(40) *hidarukariyottayo.* *haran* *heru.*
hidaru-kariyotta=yo hara=n her-ru
ひもじい-HAB.PST=SFP お腹=NOM へる-NPST

「ひもじかったよ。お腹がすく。」

(41) 筆者:お腹がすいた状態での仕事は大変ですね。

(42) *nnya.* *taihencyuu* *kon* *nakatta.*
nnya taihen=ci=yuw-ru kocu na-katta
いや 大変=QT=言う-NPST こと ない-PST

「いや,大変ではなかった。」

(43) *toocyanto* *hutedde* *suruken* *naretoruken.*
toocyan=to hute-ri=de su-ru=ken nare-tor-ru=ken
お父さん=COM 二-CLF=INST する-NPST=CSL 慣れる-PF-NPST=CSL

「お父さんと二人でするから,慣れているから。」

(44) *asa* *hayo* *okittoganomo* *cyotto.*
asa haya-u oki-ru=to=ga=nomo cyotto
朝 早い-ADVLZ 起きる-NPST=FMN=NOM=SFP ちょっと

「朝早く起きるのがね,ちょっと (辛かった)。」

自然談話 2

以下に，話者 HK 氏による自然談話を示す。この自然談話は，2020 年 8 月に HK 氏と HK 氏のご家族との間で行われた会話を録音していただいたものである。

(1)

aruhi	*ano*	*oniicyanga*	*gakkookara*	*kaette*	*kitara*
aruhi	ano	oniicyan=ga	gakkoo=kara	kaer-te	ki-tara
ある日	FIN	お兄ちゃん=NOM	学校=ABL	帰る-SEQ	来る-CND

「ある日お兄ちゃんが学校から帰ってきたら」

(2)

ano	*kawaigariyotta*	*inuga*	*sindottaci.*
ano	kawai-gar-i-yor-ta	inu=ga	sin-tor-ta=ci
FIL	かわいい-VLZ-THM-PROG-PST	犬=NOM	死ぬ-PF-PST=QT

「かわいがっていた犬が死んでいたって。」

(3)

soriken	*oniicyanga*	*naite*	*kaette*	*kitaci*	*tanbosan.*
sori=ken	oniicyan=ga	nak-te	kaer-te	ki-ta=ci	tanbo=san
それ=CSL	お兄ちゃん=NOM	泣く-SEQ	帰る-SEQ	来る-PST=QT	田んぼ=ALL

「だからお兄ちゃんが泣いて帰ってきたって，田んぼに。」

(4)

sosiken	*dosi*	*sindoruzyai*	*omote*	*baacyanmo*	*ziicyanmo*
sosiken	dosi	sin-tor-ru=zyai	omow-te	baacyan=mo	ziicyan=mo
だから	なぜ	死ぬ-PF-NPST=Q	思う-SEQ	おばあちゃん=ADD	おじいちゃん=ADD

tamagattacci.
tamagar-ta=ci
驚く-PST=QT

「だから，なんで死んだのかと思って，おばあちゃん（話者）もおじいちゃんも驚いたって。」

(5)

itatte	*mitara*	*honnakote*	*sindottacci.*
itar-te	mi-tara	honnakote	sin-tor-ta=cci
行く-SEQ	見る-CND	本当に	死ぬ-PF-PST=QT

「行ってみたら，本当に死んでいたって。」

(6) *ziicyanno* *ara* *gyuunyuu* *nomasete* *okusui* *nomasete*
ziicyan=no ara gyuunyuu nom-sase-te o-kusui nom-sase-te
おじいちゃん=NOM あら 牛乳 飲む-CAUS-SEQ POL-薬 飲む-CAUS-SEQ
sitottoni *dosi* *sindaneci* *yuute.*
si-tor-ru=to=ni dosi sin-ta=ne=ci yuw-te
する-PF-NPST=FMN=CND なぜ 死ぬ-PST=SFP=QT 言う-SEQ

「おじいちゃんが「あら，牛乳を飲ませてお薬を飲ませてといろいろしたのに，なんで死んだのか。」と言って。」

(7) *ziicyanmo* *bikkuri* *sitorasitaci.*
ziicyan=mo bikkuri si-tor-ra-i-ta=ci
おじいちゃん=ADD びっくり する-PF-HON-IFX-PST=QT

「おじいちゃんもびっくりしたって。」

(8) *soribatten* *anoo* *syonnakamonzyaine.*
sori=batten ano syonna-ka=mon=zyar?=ne
それ=ADVRS FIL しょうがない-NPST=SFP=?=SFP

「だけどもう，しょうがないものね。」

(9) *siroinci* *yuute* *hotokesanni* *agetottayo* *siro.*
siro+in=ci yuw-te hotoke-san=ni age-tor-ta=yo siro
白 + 犬=QT 言う-SEQ 仏-HON=DAT あげる-PF-PST=SFP 白

「白犬といって，[26]」

(10) *siranka.*
sir-a-n=ka
知る-THM-NEG=Q

「知らない？」

(11) *B:syasindewa* *mita* *koto* *arubai.*
syasin=de=wa mi-ta koto ar-ru=bai
写真=INST=TOP 見る-PST こと ある-NPST=SFP

「B：写真では見たことあるよ。」

[26] 後半部分の詳細な意味は不明である。

(12) *attane.*
ar-ta=ne
ある-PST=SFP

「あったのね。」

(13) *sositara ano naitene tanbosan tannakaci iiyottataine.*
sositara ano nak-te=ne tanbo=san tannaka=ci yuw-i-yor-ta=tai=ne
そしたら FIL 泣く-SEQ=SFP 田んぼ=ALL 田んぼ=QT 言う-THM-PROG-PST=SFP=SFP

「そしたら，（お兄ちゃんは）泣いて田んぼへ，（田んぼのことを）「タンナカ」って言っていたんだよね。」

(14) *naite kitaci.*
nak-te ki-ta=ci
泣く-SEQ 来る-PST=QT

「泣いて帰って来たって。」

(15) *sosiken baacyanto ziicyanto itatte mitara honnakote*
sosiken baacyan=to ziicyan=to itar-te mi-tara honnakote
だから おばあちゃん=COM おじいちゃん=COM 行く-SEQ みる-CND 本当に
sindottaci.
sin-tor-ta=ci
死ぬ-PF-PST=QT

「だから，おばあちゃん（話し手）とおじいちゃんとで行ってみたら，本当に死んでいたって。」

中略

(16) *nakiyottaci onon yuute dosi sindakaci yuute*
nak-i-yor-ta=ci onon yuw-te dosi sin-ta=ka=ci yuw-te
泣く-THM-PROG-PST=QT おんおん 言う-SEQ なぜ 死ぬ-PST=Q=QT 言う-SEQ
nakiyottaci.
nak-i-yor-ta=ci
泣く-THM-PROG-PST=Q

「（お兄ちゃんは）泣いていたって。おんおん言って，「なんで死んだの。」と言って泣いていたって。」

(17) *kawaigariyotta* *inuga* *sindamonde* *tocuzen* *sindamonde*
kawai-gar-i-yor-ta inu=ga sin-ta=mon=de tocuzen sin-ta=mon=de
かわいい-VLZ-THM-PROG-PST 犬=NOM 死ぬ-PST=もの=CND 突然 死ぬ-PST=もの=CND
bikkuri *sitaci*
bikkuri si-ta=ci
びっくり する-PST=QT

「かわいがっていた犬が死んだから，突然死んだから，びっくりしたって。」

(18) *sositara* *ano* *nanci* *nakiyorukanci* *tonanno* *ziicyan*
sositara ano nan=ci nak-i-yor-ru=kan=ci tonari=no ziicyan
そしたら FIL 何=QT 泣く-THM-PROG-NPST=Q=QT 隣=GEN おじいちゃん
baacyanno *kinahattaci*
baacyan=no ki-nahar-ta=ci
おばあちゃん=NOM 来る-HON-PST=QT

「そしたら,「何と泣いているのか。」と，隣のおじいちゃんおばあちゃんがいらっしゃったって。」

(19) *inno* *sindocci* *yuute* *nakiomeki* *sitaci* *naitaci.*
in=no sin-tor-ru=ci yuw-te nak-i+omek-i si-ta=ci nak-ta=ci
犬=NOM 死ぬ-PF-NPST=QT 言う-SEQ 泣く-THM+ わめく-THM する-PST=QT 泣く-PST=QT

「「犬が死んだ。」と言って泣き喚いたって。泣いたって。（と返事をした）」

(20) *sositara* *anoo* *moo* *sinda* *inuwa* *syonnakayakkaci*
sositara ano moo sin-ta inu=wa syonna-ka=yar-ru=ka=ci
そしたら FIL もう 死ぬ-PST 犬=TOP しょうがない-NPST=COP-NPST=Q=QT
iwaretaken
yuw-rare-ta=ken
言う-PASS-PST=CSL

「そしたら,「もう死んだ犬はしょうがないじゃない。」と言われたから」

(21) omogehatetaci.[27]

(22) *kawaigariyottabattenga* *dosi* *sindakaci.*
kawai-gar-i-yor-ta=battenga dosi sin-ta=ka=ci
かわいい-VLZ-THM-PROG-PST=ADVRS なぜ 死ぬ-PST=Q=QT

「「かわいがっていたのに，なんで死んだのか。」って。」

[27] 形態素境界，意味ともに不明である。

(23) *kanasikattaci* *yuute* *naitaci.*
kanasi-katta=ci yuw-te nak-ta=ci
悲しい-PST=QT 言う-SEQ 泣く-PST=QT

「「悲しかった。」と言って泣いたって。」

簡易語彙集

次ページ以降に，簡易語彙集を示す。以下に示す簡易語彙集は，187 項目を立項している。以下に，簡易語彙集中の一項目を示す。

konnoo noun. しゅうかく（収穫）. **konnoo sitai mugigonno sitai siyoruken.** 稲の収穫をしたり，麦の収穫をしたりしているから。（話者HK氏）. Note: 単にkonnooというときは，稲の収穫を指すことが多い。

図 26. 簡易語彙集の一項目

図中の *konnoo* にあたる場所は，簡易語彙集の見出し語である。動詞や屈折形容詞の場合は，直接法非過去接辞-*ru* や-*ka* をとった形を見出し語として立項している。図中の noun にあたる場所には，語や接語の場合は品詞，接辞の場合は接頭辞ならば pfx，接尾辞ならば sfx と記入している。定型表現である場合は，fixed phrase と記入している。当該項目の例文を採集している場合は，例文（図中の *konnoo sitai mugigonnoo sitai siyoruken*）とその標準語訳（図中の「稲の収穫をしたり，麦の収穫をしたりしているから。」）を示す。

A – a

abarabone noun. ろっこつ（肋骨）. Category: **身体部位**.

acuka inflectional adjective. あつい（暑い）. **nacu acuka tokyaanomo amidokara musino ittekiyoru.** 夏の暑いときは, 網戸から虫が入って来る。（話者HK氏）.

agohige noun. あごひげ（顎鬚）. Category: **身体部位**.

agotan noun. あご. Category: **身体部位**.

akka inflectional adjective. あかい（赤い）. **kono hanawa akka.** この花は赤い。（話者YM氏）.

anaccan noun. あなた. **anaccanna sogen yuuyaroo.** あなたはそう言うでしょう。(話者HK氏).

anesan noun. おねえさん（お姉さん）. **anesanna kyoodeeyakkengara** お姉さんは兄弟だから. Note: 義理の姉も指すことができる。

anisan noun. おにいさん（お兄さん）. **anisanna kyoodeeyakken yokabatten** お兄さんは兄弟だからいいけれど.

araka inflectional adjective. あらい（荒い）. **kotobano umi siyotta tokoraa arakayo.** 言葉が海をしていたところは荒いよ。

atama noun. あたま（頭）. Category: **身体部位**.

ayuru verb. おちる（落ちる〉. **hotokesanno tokorokara botetto aetagenayo.** 仏さんのところから，（蛇が）ぼてっと落ちたらしいよ。（話者HK氏）. Category: **動作**.

B – b

baa interjection. まあ. **baa essa!** まあ，怖いこと！（話者HK氏）.

babu noun. おにいさん（お兄さん）. Note: 血縁関係にある人を言うのか, 若い男性に対して用いるのか，不明。

basaraka adverb. とても. **asino basaraka hayakayaroo.** 足がとても速いだろう。(話者YM氏）.

batten conjunction. だけど. **daitai onnazibatten.** だいたい同じだけど。（YM氏）.

benpu noun. ほお（頬）. Category: **身体部位**.

bero noun. した（舌）. Category: **身体部位**.

bikko noun. おたまじゃくし. **bikitanno kooyaken bikko.** ビキタン（蛙）の子どもだからビッコ（おたまじゃくし）。 See: **bikitan**.

bikitan noun. かえる（蛙）. **komaka tokiwa bikitanci iiyotta.** 小さい頃は，「びきたん」と言っていた。 See: **bikko**.

C – c

cigau verb. ちがう（違う）. **korotto cigaumon nomo.** ころっと違うものね。(話者HK氏). **daibun cigaooga.** だいぶん違うでしょう？（話者HK氏）.

cu noun. かさぶた. Category: **身体部位**.

cubasa noun. つばめ.

cumayuru verb. きる（ハサミなどで枝を切る）.

cume noun. つめ（爪）. **cume sasite asukoni oruci yuu.** 指さして，あそこにいると言う。(話者HK氏）.

cuyoka inflectional adjective. 強い，元気だ. **anaccanno okaasan cuyokatomon.** あなたのお母さんはお元気でしょう？.

cyoomaki noun. つむじ. **cyoomakino jododoru.** 「つむじがゆがんでいる。」（話者YM氏）. Category: **状態**.

D – d

dai parcicle. だろう. **benkyoomo sennara dekenmeedai.** 勉強もしないといけないだろうね。（話者HK氏）. **kawanto dekenmeedai.** 買わないといけないだろうね。（話者HK氏）.

dena sfx. ～しないで. **terebi bakkai mite benkyoo sedena.** テレビばっかり見て勉強しなくて。（話者HK氏）.

domagururu verb. ぐれる. **cyotto domagureta kocumo arubatten.** ちょっとぐれたこともあるけれど。（話者HK氏）.

don sfx. たち？. **oddonga komaka tokkara iiyoru kotoba.** 私たちが小さいときから使っている言葉。（話者HK氏）.

doora noun. たわら（俵）. **kono doorawa obuka.** この俵は重い。（話者YM氏）.

dosi adverb. なぜ. **dosi sindaka.** なぜ死んだのか。（話者HK氏）. See: **nasi**.

E – e

esuka inflectional adjective. こわい（怖い）. **ano hitonna esukamon.** あの人が怖いもの。

G – g

gamadasimon noun. がんばりや（頑張りや）. **ziicyanna gamadasimonyatta.** おじいちゃんは，頑張りやだった。（話者HK氏）. See: **gamadasu**.

gamadasu verb. がんばる（頑張る）. **huteri gamadasiyoruken doka nariyoroo.** 二人頑張っているから，どうにかなっているだろう。（話者HK氏）. **issyookenmee gamadeetottaken.** 一生懸命がんばっていたから。（話者HK氏）. See: **gamadasimon**.

gane noun. かに（蟹）.

gena particle. parcicle. **kamacci yuu tokorii nomo tomaru tokorono arugenatanmo.** 蒲池というところに，泊まるところがあるらしいんだよ。（話者HK氏）.

gote noun. からだ（体）. **goten huto natte.** 体が大きくなって。（話者YM氏）.

H – h

ha noun. は（歯）. **hawa haatai.** 歯は歯だよ。（話者YM氏）. Category: **身体部位**.

hagisi noun. はぐき（歯茎）. Category: **身体部位**.

hai~hee noun. はえ（ハエ）. **haici toode sarukutoyaroo.** ハエって飛び回るやつでしょう？.

hana noun. はな（鼻）. Category: **身体部位**.

hanahige noun. はなひげ（鼻髭）. Category: **身体部位**.

hanappon noun. はなづまり（鼻づまり），はながつぶれているひと（鼻がつぶれている人）. Category: **身体部位**.

hanapposi noun. はな（鼻）. Category: **身体部位**. Note: 話者の中には卑語だと思う人もいる。

hanasu verb. はなす（話す）. **hanete yokayakkan.** 話していいじゃない。

hanazi noun. はなぢ（鼻血）. **hanazin deta.** 「鼻血が出た。」. Category: **身体部位**.

harakaku~harikaku verb. へそを曲げる（へそを曲げる）. **osicukete yuuto kodomowa harakakuyo.** 押し付けて言うと，子どもはへそを曲げるよ。（話者HK氏）.

haruu verb. はらう（払う）. **haruwayanyatta.** 払わないといけなかった。

hayaka inflectional adjective. はやい. **moo hayakariyotta.** もう速かった。（話者HK氏）.

hayuru verb. はえる（生える）.

hebi noun. へび. **hebimo oran.** へビもいない。（話者HK氏）.

hen uninflectional adjective. へんだ（変だ）. **henna kanzi.** 変な感じ。（話者HK氏）.

hidaruka inflectional adjective. くうふくだ（空腹だ）. **hidarukayakkanmo.** ひもじいじゃない？（話者HK氏）.

hisasikaburi adverb. ひさしぶり. **hisasikaburi ootanoo.** 久しぶりに会ったね。

hiteeguci noun. ひたい（額）. **hiteegucino hirokanoo.** 「額が広いねえ。」. Category: **身体部位**.

honna adnominal. ほんとうに（本当に）. **honna watasiga moo komaka tokkara iiyoru kotobasika den.** 本当に私が小さいときから使っている言葉しか出ない。（話者HK氏）.

honna kote adverb. 本当に. **honna kote arigatoo.** 本当にありがとう。

huke noun. ふけ. Category: **身体部位**.

huteri number. ふたり（二人）. **baa huteri onnahannaranomo.** まあ，二人いらっしゃるなら（大変ね）。

hutoka inflectional adjective. おおきい（大きい）. **kogen hutoka wagudoono oriyottagenatanmo.** こんなに大きいヒキガエルがいたらしいよ。（話者HK氏）.

hige noun. ひげ. Category: **身体部位**.

I – i

iccyon adverb. まったく（全く）. **watasi ima iccyon deyoranmon.** 私は今全く（外に）出ていないもの。（話者HK氏）.

in~inu noun. いぬ（犬）.

iru verb. はいる（入る）. **amidokara musino itte kiyoru.** 網戸から虫が入ってきている。

isogasika inflectional adjective. いそがしい（忙しい）. **isogasikariyotta.** 忙しかった。（話者HK氏）.

ittoki adverb. すこしのじかん（少しの時間）. **ittoki sotosan zuui.** 「少しの間，外に出ようよ。」（話者HK氏）. Morph: **ici+toki**.

K – k

kaika inflectional adjective. かゆい.

kaku verb. かく（書く）. **sogen keeta?** そんなふうに書いた？.

kara parcicle. から. **kyootokara hitori kiyonnahattamon nomo.** 京都から一人来ていらっしゃったんだよね。(話者HK氏). **hacikara sasaretatanmo.** 蜂に刺されたよ。

kasee noun. かせい(加勢). **kasee suru.** 手伝う。 Ques: 20200802

kasu verb. かす（貸す）. **cyotto keete kurenkan?** ちょっと貸してくれない？（話者HK氏）.

kataguru verb. かつぐ. Note: katamuruとの違いは不明。 See: **katamuru**.

katamuru verb. かつぐ. Note: kataguruとの違いは不明。 See: **kataguru**.

kataru verb.

kibisika inflectional adjective. きびしい. **miroci yuuto kibisikagotan nomo.** 「見ろ」と言うと，厳しいみたいだね。（話者HK氏）.

kiree adjective. きれい. **ano hanawa {kiree/kireeka}.** あの花はきれいだ。（話者YM氏）.

koccyoo noun. できもの.

komaka inflectional adjective. ちいさい（小さい）. **honna watasiga moo komaka tokkara iiyoru kotobasika den.** 本当に私が小さいときから使っている言葉しか出ない。(話者HK氏）.

konnoo noun. しゅうかく（収穫）. **konnoo sitai mugigonno sitai siyoruken.** 稲の収穫をしたり，麦の収穫をしたりしているから。(話者HK氏）. Note: 単にkonnooというときは，稲の収穫を指すことが多い。

kucibiru noun. くちびる（唇）. **kucibinno acukanee.** 唇が厚いねえ。（話者YM氏）. Category: **身体部位**.

kucinawa noun. へび（蛇）. **mukasiwa kucinawaci iiyottagota komaka tokiwa.** 昔は「くちなわ」って言っていた気がする，小さいときは。（話者HK氏）.

kuime noun. むしくいあな（虫食い穴）. **kuimega cyottosita kuimeyan.** 穴が，ちょっとした穴だった。（話者HK氏）.

kurasu verb. なぐる（殴る）. **mamiga miyoba kurasitattai.** マミがミヨを殴ったんだよ。（話者YM氏）.

kurau verb. かむ（虫などがかむ）. **watasiwa kurawareyoru.** 私は（虫から）よくかまれている。

kurawaruru verb. さされる（虫などに刺される）. **amadoba aketottara kurawareta.** 雨戸を開けていたら（虫に）刺された。（話者HK氏）.

kurome noun. くろめ（黒目）. Category: **身体部位**.

kuru verb. くる（来る）. **ookawasan kitonnaharu.** 大川に来ていらっしゃる。（話者HK氏）. Category: **動作**.

kuru verb. しめる（閉める）. **amadowa yosari kuru.** 雨戸は夜閉める。（話者HK氏）.

kururu verb. くれる，～してくれる. **ucide hataraite kurero.** うちで働いてくれ。（話者HK氏）.

kuci noun. くち（口）. Category: **身体部位**.

kuzzoko noun. したびらめ（舌平目）.

kyoodee noun. きょうだい（兄弟）.

kyuu/kyoo noun. きょう（今日）.

kamige noun. かみのけ（髪の毛）. Category: **身体部位**.

M – m

majuge noun. まゆげ（眉毛）. Category: **身体部位**. Note: 新しい言い方。昔はmeegeと言った。

marikaburu verb. そそうする（粗相する）. **osikko marikabunnaharu hitono onnaharuyo.** 粗相をする人がいらっしゃるよ。

maru verb. はいにょうする（排尿する）. Category: **動作**.

macuge noun. まつげ（まつ毛）. Category: **身体部位**. Note: 新しい言い方。昔はmeegeと言ったらしい。

meege noun. まゆげ（眉毛），まつげ（まつ毛）. Category: **身体部位**. Note: 古い言い方。昔は眉毛もまつ毛もmeegeと言ったらしい。

mekkakaru verb. みえる. **kono hutoka ziiwa mekkarubatten komaka ziiwa mekkakaran.** この大きい字は見えるけど，小さい字は見えない。

mentama noun. め（目）. Category: **身体部位**.

miminoha noun. がいじ（外耳）. Category: **身体部位**.

miminosu noun. みみのあな（耳の穴）. Category: **身体部位**.

mirogge noun. あかがい（赤貝）.

miyuru verb. みえる（見える）. **kokokara yuu miyurubano.** ここからよく見えるよ。（話者HK氏）.

mosomoso adverb. ぐずぐず？. **mosomoso siyotto cikoku subbai.** ぐずぐずしていると遅刻するぞ。

miru verb. みる（見る）. **yumeci anmari min.** 夢ってあんまり見ない。（話者HK氏）. **terebibakkai mite sogen site yokakai.** テレビばっかり見てそんなふうにして良いの？（話者HK氏）. **asita mige ikunara** 明日，見に行くなら（話者HK氏）. **miroci yuuto kibisikagotanno.**「見ろ」と言うと，厳しいみたいだね。（話者HK氏）. **minna.** 見るな。（話者HK氏）. **terebiden midena issyookenmee benkyoo sasubano.動作** テレビも見ないで一生懸命勉強しているよ。 **mirarenken misetee.** 見られないから，見せて。（話者HK氏）. Category: **動作**.

N – n

nma noun. うま（馬）. **ano nmawa asino basaraka hayakattaroo.** あの馬は，足がとても速かっただろう。（話者YM氏）.

nabana noun. なばな（菜花）. **nabana site** 菜花を育てて（話者HK氏）.

naharu sfx. なさる. **hyakusyoon baacyantacyaa iinahazzyan.** 農家のおばあさんたちはおっしゃるよ。（話者HK氏）. **kyootokara hitori kiyonnahattamonno.** 京都から一人来ていらっしゃったんだよね。（話者HK氏）. Category: **文法形態素**, **尊敬**.

naka inflectional adjective. ない. **yuuta kocu nakaken nomo.** 言ったことないからなあ。（話者HK氏）.

nasi adverb. なぜ. **nasi esukanoo.** なぜ怖いの？. See: **dosi**; **nasiken**.

nasiken adverb. なぜ. **origa nasiken gamadasayanka.** 私がなんでがんばらないといけないのか。 See: **nasi**; **dosi**.

nawaru verb. ひっこす（引っ越す）. **oyamo nahattonnahatto.** 親もお引越しになられたの？.

nedokaru verb. こわれる（壊れる）. **origen terebino nedokattaken.** 我が家のテレビが壊れたから。

nemaru verb. くさる（腐る）. **komeno nematta.** お米が腐った。

niki noun. あたり. **kokon nikino kotoba.** このあたりの言葉。 Note: ○○ga/no nikiという形でのみ現れる。

niyagarimonno sansagari fixed phrase. ふざけて失敗すること.

niyagaru verb. ふざける.

nnya interjection. いや. **nnya.** いいえ.

nuru~neru verb. ねる（寝る）. **sosite okite mata nerumon.** そして起きてまた寝るの。（話者HK氏）. Category: **動作**.

O – o

obuka inflectional adjective. おもい（重い）. **kono doorawa obuka.** この俵は重い。（話者YM氏）.

ogoru verb. おこる（怒る），どなる（怒鳴る）. **sogen ogottagocu site yuuta kocaa nakaken nomo.** そんなに怒ったように言うことはないからねえ。（話者HK氏）.

okkan noun. おかあさん（お母さん）.

okura verb. おくら. **okurani nabanani piisu** おくらに菜花にグリンピース.

omeku verb. なく（泣く）. **naki omeki sita.** 泣き喚いた。

onagosi noun. おんな（女）. **onagosino tomakkite** 女が泊まりに来て.

onon adverb. わんわん（泣く様子）. **onon yuute nakiyorasita.** わんわん言って泣いていた。

ookawa noun. おおかわし（大川市）. **ookawasan kitonnaharu.** 大川に来ていらっしゃる。（話者HK氏）. Category: **地名**.

ori noun. わたし（私）. **ora anmari terebi minmoon.** 私はあんまりテレビを見ない。（話者HK氏）. Category: **代名詞**.

orige noun. わがや（我が家）. **origen terebino nedokattaken.** 我が家のテレビが壊れたから。

oru verb. いる. **imawa oran.** 今はいない。

osoka inflectional adjective. おそい（遅い）. **taroowa asino oso nakabai.** 太郎は足が遅くないよ。（話者YM氏）.

osoyuru verb. おしえる（教える）. **osoete morotoranbanoo.** 教えてもらっていないよ。（話者HK氏）.

otonkoton naka fixed phrase. おとさたもない（音沙汰もない）. **otonkoton nakanomo.** 音沙汰もないね。

okiru verb. おきる（起きる）. **sosite okite mata nerumon.** そして起きてまた寝るの。（話者HK氏）. Category: **動作**.

S – s

san parcicle. へ. **kotosya watasya sotosanmo denga.** 今年は私は外へも出ないが。（話者HK氏）. **ookawasan kitonnaharu.** 大川に来ていらっしゃる。（話者HK氏）. Category: **格助詞**.

saruku verb. あるく（歩く）. **cue cuite sarukiyorasitabattenno.** 杖をついて歩いていらっしゃったけどね。（話者HK氏）.

seku verb. しめる（閉める）. **toba sekicumetokooga.** 扉を閉めきっておくじゃない？.

senka adn. そんな. **senka toki** そんな時.

sici interjection. ちくっ. **cyotto sicicci sita.** （蜂に刺されたとき,）ちょっとちくっとした。

sicuree adjective. しつれい（失礼）. **denka monzyai wakaranken sicureekayakka.** どんな人かわからないから，（無視すると）失礼じゃないか。（話者HK氏）.

sikomu verb. とぐ（研ぐ）. **sikode take.** （米を）研いで炊け。

siraburu verb. しらべる（調べる）. Category: **動作**.

siraga noun. しらが（白髪）. **siraga=wa siraga.** 「白髪は白髪。」. Category: **身体部位**.

sirome noun. しろめ（白目）. Category: **身体部位**.

sugari noun. あり（蟻）.

sukotayuru verb. あわてる. **sukotaete dete ikiyotta.** 慌てて出て行っていた。

suru verb. する. **terebibakkai mite benkyoo sedena.** テレビばっかり見て勉強しなくて。（話者HK氏）. **sero.** しろ。（話者HK氏）. **terebiden midena issyookenmee benkyoo sasubano.** テレビも見ないで一生懸命勉強しているよ。

sutamuru verb. しるけをきる（汁気を切る）.

syappa noun. しゃこ.

syonnaka inflectional adjective. しょうがない. **syonnakayakka.** しょうがないじゃない。

syoobendoko noun. しびん（尿瓶）.

sita noun. した（舌）. Category: **身体部位**.

su noun. す(巣). **suu cukuzzyakkanmo suuba.** 巣を作るじゃない？巣を。 Note: 蜘蛛, 蜂, 鳥の巣を示せることを確認している。

T – t

taburu verb. たべる(食べる). **gohan tabuttoki** ごはんを食べるとき. **gohanba tabeetabe** ご飯を食べ食べ.

tamagaru verb. おどろく（驚く）. **ziicyanmo baacyanmo tamagatte** おじいちゃんもおばあちゃんも驚いて（話者HK氏）.

tannaka noun. たんぼ(田んぼ), いなさく(稲作). **moo tannaka site umi siyotta hitotaciga kenka huuni hanasinaharu.** 稲作をして, 漁業をしていた人たちが, こんなふうにお話しになる。（話者HK氏）.

te sfx. ～て

tomasaku noun. いたち.

U – u

umi noun. うみ(海), ぎょぎょう(漁業). **moo tannaka site umi siyotta hitotaciga kenka huuni hanasinaharu.** 稲作をして, 漁業をしていた人たちが, こんなふうにお話しになる。

uugocu noun. たいへん（大変）. **okaasanga uugottanmo.** お母さんが大変でしょう。

uuka noun. おおい(多い). **uukamon.** 多いもの。（話者HK氏）.

uwaru verb. うわる（植わる）. **kusano uwattottokyaa** 草が植わっているときは（話者HK氏）.

W – w

wa parcicle. ～は. **sono obaacyanna moo yuu mono iinaharu obaacyanzyan.** そのおばあちゃんは, よくおしゃべりになるおばあちゃんだ。

wakasu verb. わかす（沸かす）. **watasiga asukode ocyadon waketokuto** 私があそこでお茶を沸かしておくと（話者HK氏）.

wakenosinnosu noun. いそぎんちゃく.

wagudoo noun. ひきがえる（ヒキガエル）. **wagudoo. kenka hutokacuno gaagaa yuute nakuto.** 「わぐどう」。こんなに大きいやつで，グワグワ言って鳴くやつ。

Y – y

yanma noun. とんぼ.

yasasika inflectional adjective. やさしい（優しい）. **yasasyuu yuwanto dekenmon.** 優しく言わないといけないもの。（話者HK氏）.

yoka inflectional adjective. よい（良い）. **sono obaacyanna moo yuu mono iinaharu obaacyanzyan.** そのおばあちゃんは，よくおしゃべりになるおばあちゃんだ。（話者HK氏）.

yokaraka inflectional adjective. おりこうだ（お利口だ）. **mazimede yokarakaken** まじめでお利口だから.

yuu verb. いう（言う）. **yasasyuu yuwanto dekenmon.** 優しく言わないといけないもの。（話者HK氏）. **yuuta kocu nakaken nomo.** 言ったことないからなあ。（話者HK氏）. **magoni iikiran.** （そんな乱暴なことは）孫に言えない。（話者HK氏）.

yosari adverb. よる（夜）. **amadowa yosari kuru.** 雨戸は夜閉める。（話者HK氏）. Category: **時間**.

yuuzin noun. ようじん（用心）. **yuuzin sitokayanyo.** 用心しておかないといけないよ。（話者HK氏）.

Z – z

zu noun. あたま（頭）. **zuga itaka.** 「頭が 痛い。」（話者YM氏）. Category: **身体部位**.

zukutan noun. あたま（頭）. Note: 話者によっては卑語だと感じる。 Category: **身体部位**.

zatto ikan fixed phrase. たいへんだ（大変だ）. **baa zatto ikan.** まあ，大変だ。

zen noun. おかね（お金）. **zenni nariyotta.** お金になっていた。

zibun noun. じき（時期）. **tauen zibungetto kaenno ottamonnomo.** 田植えの時期になると，蛙がいたものね。（話者HK氏）.

zigo noun. ぞうもつ（臓物）. **zigowa zoonomonotai.** ジゴというのは，臓物のことだよ。（話者YM氏）.

zittan noun. ばった.

zonkiriwaku verb. はらをたてる（腹を立てる）.

zuru~deru verb. でる（出る）. **ima sotosan zuttoga iccyan esukamon.** 今外に出るのが一番怖いもの。（話者HK氏）. **kotosya watasya sotosanmo denga.** 今年は私は外へも出ないが。（話者HK氏）. **watasi ima iccyon deyoranmon.** 私は今全く出ていないもの。（話者HK氏）. **ittoki sotosan zuui.** 少しの間外に出ようよ。（話者HK氏）. **zunna.** 出るな。（話者HK氏）. Category: **動作**.

zyuugee noun. ひとくせあるひと（一癖ある人）. **○○obasanna zyuugeeyattamonne.** ○○おばさんは一癖あったものね。

略号一覧

-: 接辞境界/ =: 接語境界/ +: 複合/ ∼: 重複/ 1: 1 人称/ 2: 2 人称/ ABL: 奪格/ ACC: 対格/ ADD: 累加/ ADJLZ: 屈折形容詞化/ ADN: 名詞修飾/ ADR: 同意要求/ ADVLZ: 副詞化/ ADVRS: 逆接/ ALL: 向格/ ANT: 予期/ CLF: 類別/ CMP: 比較格/ CNF: 確認要求/ CND: 条件/ CSL: 理由/ COM: 共格/ COP: コピュラ/ DAT: 与格/ DEG: 程度/ DSC: 談話標識/ EMP: 強調/ EXM: 例示/ FMN: 形式名詞/ GEN: 属格/ HON: 尊敬/ HOR: 勧誘/ HS: 伝聞/ IMP: 命令/ INF: 非定形/ INFR: 推量/ INST: 具格/ INT: 意志/ LIM: 限界格/ NEG: 否定/ NMLZ: 名詞化/ NOM: 主格/ NPST: 非過去/ OBL: 義務/ ONLY: 限定/ PASS: 受動/ PF: 完了相/ PL: 複数/ PUR: 目的/ POT: 可能/ PRM: 優先/ PROG: 継続相/ PROH: 禁止/ PST: 過去/ Q: 疑問/ QT: 引用/ RPT: 反復/ SEQ: 継起/ SFP: 終助詞/ SG: 単数/ THM: 語幹拡張辞/ TOP: 主題 /VLZ: 動詞化

参照文献

秋山正次・吉岡泰夫 (1991) 『暮らしに生きる熊本の方言』熊本市: 熊本日日新聞社.

秋山正次 (1983) 「熊本県の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一（編）『九州地方の方言』207-235. 東京: 国書刊行会.

麻生玲子 (2020) 「南琉球八重山語波照間方言の文法」 博士論文，東京外国語大学.

愛宕八郎康隆 (1983) 「長崎県の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一（編）『九州地方の方言』113-142. 東京: 国書刊行会.

愛宕八郎康隆 (1994) 「長崎県地方方言における形容動詞の一考察」『国語と教育』19: 34-42.

愛宕八郎康隆 (1997) 「肥前長崎方言の強調表現の諸相」『活水日文』35: 277-289.

Bauer, Laurie (1988) *Introducing linguistic morphology.* Edinburgh: Edinburgh University Press.

Bhat, D.N.S. (2004) *Pronouns.* Oxford: Oxford University Press.

Bickel, Balthasar and Johanna Nichols (2007) Inflectional morphology. In: Timothy Shopen (ed.) *Language Typology and Syntactic Description 3,* 169-240. Cambridge: Cambridge University Press.

Corbett, Greville (2000) *Number.* Cambridge: Cambridge University Press.

Cruttenden, Alan (1997) *Intonation.* 2nd edition. Cambridge: Cambridge University Press.

Dixon, R.M.W. and Alexandra Aikhenvald (2002) Word: a typological framework. In: R.M.W. Dixon and Alexandra Aikhenvald (eds.) *Word,* 1-41. Cambridge: Cambridge University Press.

藤初美 (1970) 「八女方言における尊敬の表現」『日本文学研究』9: 41-52.

藤原与一 (1952) 「筑後柳河ことばの「メス」と「ノモ」」『近畿方言』15: 1-12.

濱中誠 (2000) 「佐賀県武雄市における「サ詠嘆法」の実態報告」『都大論究』37: 28-38.

原田芳起 (1953) 『熊本方言の研究』熊本: 日本談義社.

橋本四郎 (1962) 「サ行四段活用動詞のイ音便に関する一考察」『国語国文』31(4): 273-296.

服部四郎 (1950) 「付属語と付属形式」『言語研究』15: 1-26.

初鳥康子 (1998) 「佐賀方言の研究-主格の助詞「ノ」と「ガ」の使い分けについて-」『東京女子大学言語文化研究』7: 51-64.

林田明 (1962) 「大村方言の助詞」『文化科学紀要』4: 31-75.

平塚雄亮 (2012) 「福岡市方言の文末詞モン」『阪大社会言語学研究ノート』10: 48-54.

平塚雄亮 (2014) 「福岡県福岡市方言」方言文法研究会（編）『全国方言文法辞典資料集 (2)　活用体系』125-134 .

平山輝男 (1951) 『九州方言音調の研究―共通語・京阪語との比較考察』東京: 学界之指針社.

井上博文 (1993) 「熊本県下益城郡砥用町方言に於ける感情表現法」『文月』1: 1-19.

門屋飛央 (2020) 「佐世保市宇久町平方言の記述的研究」 博士論文，九州大学.

上村孝二 (1983) 「九州方言の概説」飯農毅一・日野資純・佐藤亮一（編）『九州地方の方言』1-28. 東京: 国書刊行会.

神部宏泰 (1980) 「九州西部方言の形容語：カ語尾形容詞を中心に」『国語教育研究』26 上: 536-546.

神部宏泰 (1984) 「九州方言における方向表現法―「～さまに」の用法を中心に―」『方言研究年報』26: 61-80.

神部宏泰 (1992) 『九州方言の表現論的研究』東京: 和泉書院.

春日悠生 (2018) 「福岡県久留米市方言の文末詞「ヤン」に関する記述的研究」『日本方言研究会発表原

稿集』107: 1-8.
加藤幹治・井手口将仁 (2018) 「福岡県八女市黒木方言における子音語幹動詞のテ形派生音韻規則:韻脚を形成しない母音の削除」日本言語学会第 156 回大会．東京大学，2018 年 6 月 23 日.
木部暢子 (2012) 「西南部九州 2 型アクセントの特性の比較―助詞・助動詞のアクセントを中心として―」『音声研究』16(1): 80-92.
木部暢子 (2019) 「対格標示形式の地域差―無助詞形をめぐって-」『東京外国語大学国際日本学研究報告』5: 20-32.
小林隆 (1996) 「「動詞活用におけるラ行五段化傾向の地理的分布」『東北大学文学部研究年報』45: 242-266.
郡史郎 (2006) 「熊本市および周辺の非定型アクセント方言における語音調と音調句の形成」『音声研究』10(2): 43-60.
玖波井七海 (2017) 「熊本方言のヴォイスについての研究」 卒業論文，九州大学.
久保智之 (1989) 「福岡市方言の、ダレ・ナニ等の疑問詞を含む文のピッチパターン」『国語学』156: 71-82.
久保薗愛 (2016) 「鹿児島方言における過去否定形式の歴史」『日本語の研究』12(4): 18-34.
久保薗愛 (2018) 「鹿児島県甑島里方言の形容詞の特徴」第 43 回九州方言研究発表資料．かごしま県民交流センター，2018 年 1 月 6 日.
久保薗愛 (2019) 「甑島里方言のニ格形容詞」平成 30 年度第 2 回日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成発表資料．国立国語研究所，2019 年 3 月 10 日.
窪薗晴夫・森勇太・平塚雄亮・黒木邦彦 (2015) 『甑島里方言記述文法書』国立国語研究所.
工藤真由美 (1999) 「西日本諸方言におけるアスペクト対立の動態」『阪大日本語研究』11: 1-17.
工藤真由美 (2006) 「アスペクト・テンス」小林隆（編）『方言の文法』93-136. 東京: 岩波書店.
工藤真由美 (2014) 『現代日本語ムード・テンス・アスペクト論』東京: ひつじ書房.
黒木邦彦 (2019) 「動詞語幹交替より紐解く九州方言のラ行五段化」窪薗晴夫・木部暢子・高木千恵（編）『鹿児島県甑島方言からみる文法の諸相』273-289. 東京: くろしお出版.
九州方言研究会（編） (1969) 『九州方言の基礎的研究』東京: 風間書房.
Lehmann, Christian (2008) Roots, stems and word classes. *Studies in Language* 32(3): 546-567.
Lyman, Benjamin (1894) The change from surd to sonant in Japanese compounds. *Oriental Studies of the Oriental Club of Philadelphia,* 1-17.
松田美香 (2017) 「大分県由布市庄内町方言」方言文法研究会（編）『全国方言文法辞典資料集 (3)　活用体系 (2)』143-153.
松田康夫 (1991) 『筑後方言辞典』久留米: 久留米郷土研究会.
松石安兵衛 (1985) 『知っとり召すかんも柳川方言』柳川: 柳川商工会議所.
松石安兵衛 (1989) 『柳川方言総めぐり』三橋町: 生涯学習振興財団.
松丸真大 (2019) 「甑島里方言の文法概説」窪薗晴夫・木部暢子・高木千恵（編）『鹿児島県甑島方言からみる文法の諸相』1-46. 東京: くろしお出版.
松永恭子・上野哲子 (1973) 「久留米藩境における言語境界線―特に柳川藩・佐賀藩との境界―」『国語研究』2: 45-72.
松尾弘徳 (2009) 「新方言としてのとりたて詞ゲナの成立：福岡方言における文法変化の一事例」『語文研究』107: 1-17.
松岡葵 (2019) 「九州方言における形容詞経験者構文の格標示-宮崎県椎葉村尾前方言と佐賀県武雄市北方方言を中心に-」卒業論文，九州大学.

三井はるみ (2011) 「九州西北部方言の順接仮定条件形式「ギー」の用法と地理的分布」『國學院雑誌』112: 26-39.

三井はるみ (2017) 「九州・四国方言の認識的条件文—認識的条件文の分化の背景に関する一考察—」有田節子（編）『日本語条件文の諸相：地理的変異と歴史的変遷』53-85 . 東京: くろしお出版.

宮岡大 (2021) 「日本語諸方言におけるラ行五段化の方言間比較と通方言的一般化—語幹末母音・語幹モーラ数・接辞の観点から—」修士論文，九州大学.

村上智美 (2004) 「形容詞に接続するヨル形式について—熊本県下益城郡松橋町の場合—」工藤真由美（編）『日本語のアスペクト・テンス・ムード体系：標準語研究を超えて』188-203. 東京: くろしお出版.

中島春花 (2019) 「福岡県大牟田市方言における待遇表現について」『国文研究』64: 74-94.

中村京介 (2019) 「長崎県五島列島宇久島野方方言の文法概説」修士論文，東京外国語大学.

Niinaga, Yuto (2014) A grammar of Yuwan, a Northern Ryukyuan language unpublished Ph.D. dissertation, University of Tokyo.

尾川慧 (2018) 「熊本県葦北郡芦北町方言における待遇表現」『国文研究』63: 65-86.

岡野信子 (1983) 「福岡県の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一（編）『九州地方の方言』57-86. 東京: 国書刊行会.

奥村三雄 (1968) 「サ行イ音便の消長」『国語国文』37(1): 34-48.

鬼丸泰子・加茂たか子・佐々木千代子・立田和子 (1975) 「久留米藩境における言語境界線（その六）—特に柳川藩との境界——」『国語研究』4: 71-84.

小野志真男 (1983) 「佐賀県の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一（編）『九州地方の方言』87-112. 東京: 国書刊行会.

坂井美日 (2012) 「現代熊本市方言の準体助詞：「ツ」と「ト」の違いについて」『阪大社会言語学研究ノート』10: 30-47.

坂井美日 (2013) 「現代熊本市方言の主語表示」『阪大社会言語学研究ノート』11: 66-83.

坂井美日 (2018) 「九州方言における主語標示の使い分けと動作主性」日本言語学会第 156 回大会．東京大学，2018 年 6 月 23 日.

坂井美日 (2019) 「熊本市方言の格配列と自動詞分裂」竹内史郎・下地理則（編）『日本語の格標示と分裂図動詞性』37-66. 東京: くろしお出版.

坂喜美佳 (2019) 「動詞の音便の方言学的研究—サ行イ音便を中心として—」博士論文，東北大学.

坂田佳江 (2004) 「肥筑方言におけるサ詠嘆法」『語文研究』97: 54-42.

渋谷勝己 (2006) 「自発・可能」小林隆（編）47-92.『方言の文法』東京: 岩波書店

下地理則 (2016a) 「音素論と形態音韻論の中間報告」下地理則・小川晋史・新永悠人・平塚雄亮・坂井美日（編）『尾前調査班　中間報告書　—宮崎県椎葉村尾前方言簡易語彙集と文法概説—』7-14. 東京: 国立国語研究所.

下地理則 (2016b) 「格体系記述の中間報告」下地理則・小川晋史・新永悠人・平塚雄亮・坂井美日（編）『尾前調査班　中間報告書　—宮崎県椎葉村尾前方言簡易語彙集と文法概説—』35-53. 東京: 国立国語研究所.

下地理則 (2018) 『南琉球宮古語伊良部島方言』東京: くろしお出版.

下地理則 (2020) 「方言研究における例文提示法について」『方言の研究』6: -.

下地理則・松岡葵・井上郁菜・宮岡大 (2018) 「与格項形容詞構文について　～宮崎県椎葉村尾前方言を中心に～」第 43 回九州方言研究会発表資料．かごしま県民交流センター，2018 年 1 月 6 日.

Silverstein, Michael (1976) Hierarchy of Features and Ergativity. In: R.M.W. Dixon (ed.) *Gram-*

matical Categories in Australian Languages, 112-171. Canberra: Australian National University.
住田幾子 (1986) 「肥筑方言に見られる心情訴え文について」『日本文学研究』22: 1-10.
高野よそ江・田中留美子 (1972) 「久留米・柳川両藩境の言語境界線」『国語研究』1: 55-67.
竹中洋樹 (2008) 「熊本市方言の推量表現」『福岡大学大学院論集』40: 1-21.
高城隆一 (2020) 「鹿児島県大隅半島内之浦方言の音節構造」AA 研第 18 回文法研究ワークショップ「音節構造の諸問題」. オンライン，2020 年 10 月 18 日.
田野村忠温 (1988) 「否定疑問文小考」『国語学』152: 16-30.
Thompson, Sandra (1988) A Discourse Approach to the Cross-Linguistic Category 'Adjective'. In: John Hawkins (ed.) *Explaining language universals,* 167-185. Oxford: Basil Blackwell.
坪内佐智世 (1998) 「福岡市博多方言の不変化詞「クサ」の用法と機能」『日本方言研究会発表原稿集』67: 33-40.
Tsunoda, Tasaku (1985) Remarks on transitivity. *Journal of Linguistics* 21: 385-396.
占部由子 (2018) 「南琉球八重山語西表島船浮方言の文法概説」 修士論文，九州大学.
渡辺千尋 (2017) 「熊本県菊池郡大津町方言における待遇表現」『国文研究』62: 63-82.
渡辺己 (2014) 「形態論入門」2014 年言語学会夏期講座テクスト.
横山（徳永）晶子 (2017) 「琉球沖永良部島国頭方言の文法」 博士論文，一橋大学.
吉町義雄 (1931) 「九州方言の特異性（一）」『九大國文學』1: 49-72.
吉町義雄 (1948) 「九州方言推量・打消助動詞活用分布相」『文學研究』36: 183-204.
Zwicky, Arnold (1985) Clitics and Particles. *Language* 61(2): 283-305.

謝辞

柳川方言の調査に協力してくださった 2 名の話者とそのご家族に，感謝の意を表する。話者の方は，度々のご自宅での調査や電話調査にご協力してくださった。ご家族の方は，対面調査ができない期間に，自然談話の録音を手伝ってくださった。話者の方とそのご家族がご協力してくださったおかげで，本論文を完成させることができた。

研究をすすめるにあたり，言語学研究室の先生方にご指導いただいた。指導教員である下地理則先生には，授業や面談を通して様々なアドバイスをいただき，また，調査経験など多くの機会もいただいた。久保智之先生，上山あゆみ先生，太田真理先生には，普段の講義や院演習で助言をいただいた。

言語学研究室の先輩・同期・後輩や，研究会等で接する機会が多い他大学の言語学を専攻する方には，講義や研究会を通して，多くのアドバイスをいただいき，本論文を執筆する参考となった。

最後に，私を見守ってくれている家族に，感謝の意を表する。